



CT200h
取扱説明書



Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。



TABLE OF CONTENTS

目次

1	運転する前に	ハイブリッド車の特徴や運転するまでに必要となる操作、 ご注意が説明してあります。
2	運転するときに	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。
4	お手入れのしかた	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明して あります。
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する 説明がしてあります。
6	車両仕様	車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載して あります。
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で 探すことができます。

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ GPS ボイスナビゲーション
- ・ エアコン・デフォグガー
- ・ バックガイドモニター
- ・ クリアランスソナー
- ・ ETC システム
- ・ オーディオ&ビジュアル
- ・ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター

1 運転する前に

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの特徴	22
ハイブリッドシステムの注意	27
エネルギーモニター／燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面	32
ハイブリッド車運転の アドバイス	39

1-2. キーの取り扱い

キー	41
----------	----

1-3. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	46
ワイヤレスリモコン	56
ドア	58
バックドア	61

1-4. シート、ミラー、ハンドルの 調整のしかた

フロントシート	66
リヤシート	68
ドライビングポジション メモリー	70
ヘッドレスト	73
シートベルト	76
ハンドル	81
インナーミラー	82
ドアミラー	84

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの 開け方、閉め方

パワーウインドウ	88
ムーンルーフ	91

1-6. 給油のしかた

給油口の開け方	96
---------------	----

1-7. 盗難防止システム

イモビライザーシステム	100
オートアラーム	101

1-8. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢	107
SRS エアバッグ	109
子供専用シート	117
チャイルドシートの取り付け ...	127

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって.....	136
パワー（イグニッション） スイッチ	145
EV ドライブモード	150
トランスミッション.....	152
方向指示レバー.....	159
パーキングブレーキ	160
ホーン（警音器）.....	161

2-2. メーターの見方

計器類	162
表示灯／警告灯.....	166
マルチインフォメーション ディスプレイ	169

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方

ライトスイッチ.....	173
フォグライトスイッチ.....	176
ワイパー＆ウオッシャー （フロント）.....	179
ワイパー＆ウオッシャー （リヤ）.....	185
ヘッドライトクリーナー.....	187

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	188
レーダークルーズ コントロール.....	192
運転を補助する装置	203
ヒルスタートアシスト コントロール.....	207
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）.....	209

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	216
寒冷時の運転.....	218

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....	222
・フロントインテリアライト・ パーソナルライト メインスイッチ／ パーソナルライト	223
・リヤインテリアライト	224

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧.....	225
・グローブボックス	226
・コンソールボックス	227
・カップホルダー.....	228
・ボトルホルダー.....	229
・小物入れ	230

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	231
バニティミラー	232
アクセサリソケット	233
アクセサリコンセント	235
ステアリングヒーター	241
シートヒーター	243
フロアマット	245
ラゲージルーム内装備	247

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	254
内装の手入れ	258
タイヤについて	261

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	265
ガレージジャッキ	268
エンジンルームカバー	270
電球（バルブ）の交換	271
ヒューズの点検、交換	285
電子キーの電池交換	294
ウォッシュャー液の補給	296

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは	298
非常点滅灯	299
発炎筒	300
けん引について	302

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	306
警告メッセージが表示された ときは	311
パンクしたときは （応急用タイヤ装着車）	325
パンクしたときは（タイヤパンク 応急修理キット装着車）	336
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	350
キーを無くしたときは	352
電子キーが正常に働かない ときは	353
補機バッテリーがあがった ときは	356
オーバーヒートしたときは	361
スタックしたときは	365
車両を緊急停止するには	366

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料・オイル量など) 368

6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 374

さくいん

略語一覧 382

五十音順さくいん 383

症状別さくいん 395

ハイブリッドさくいん 398

1

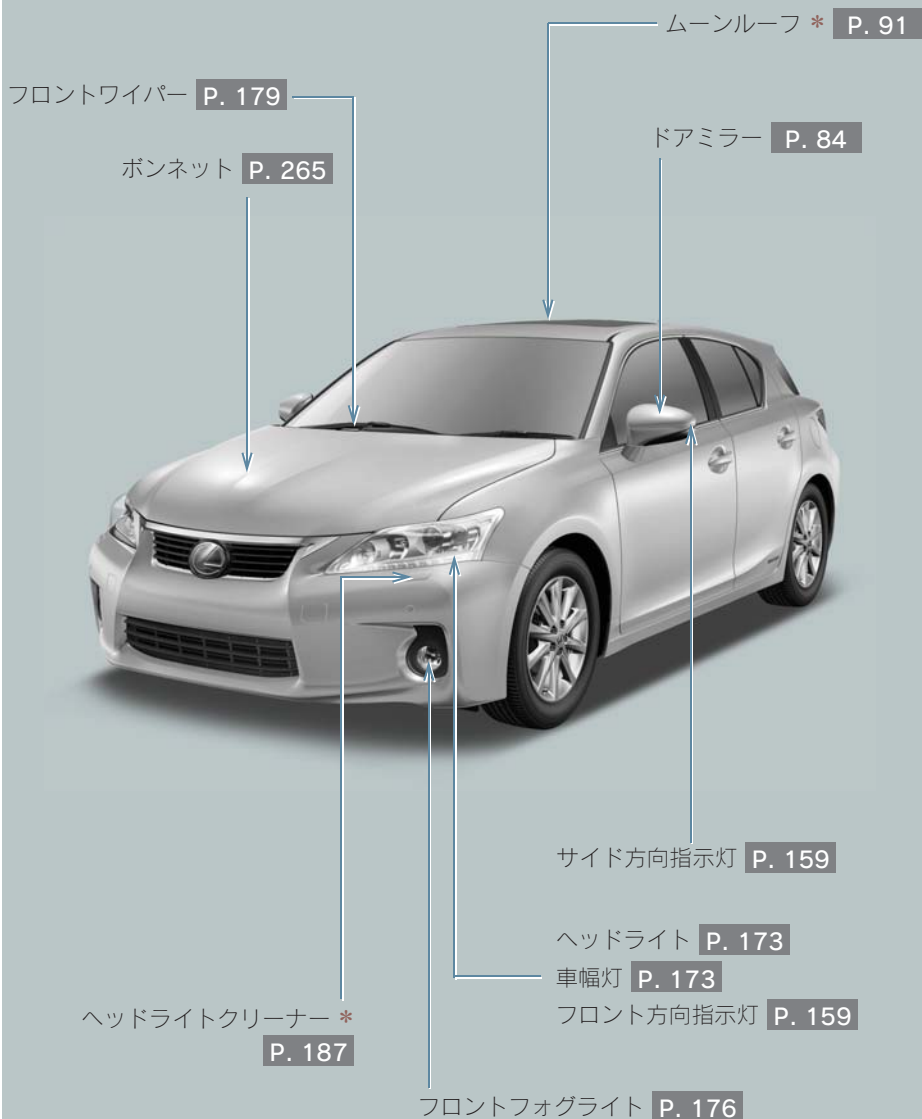
2

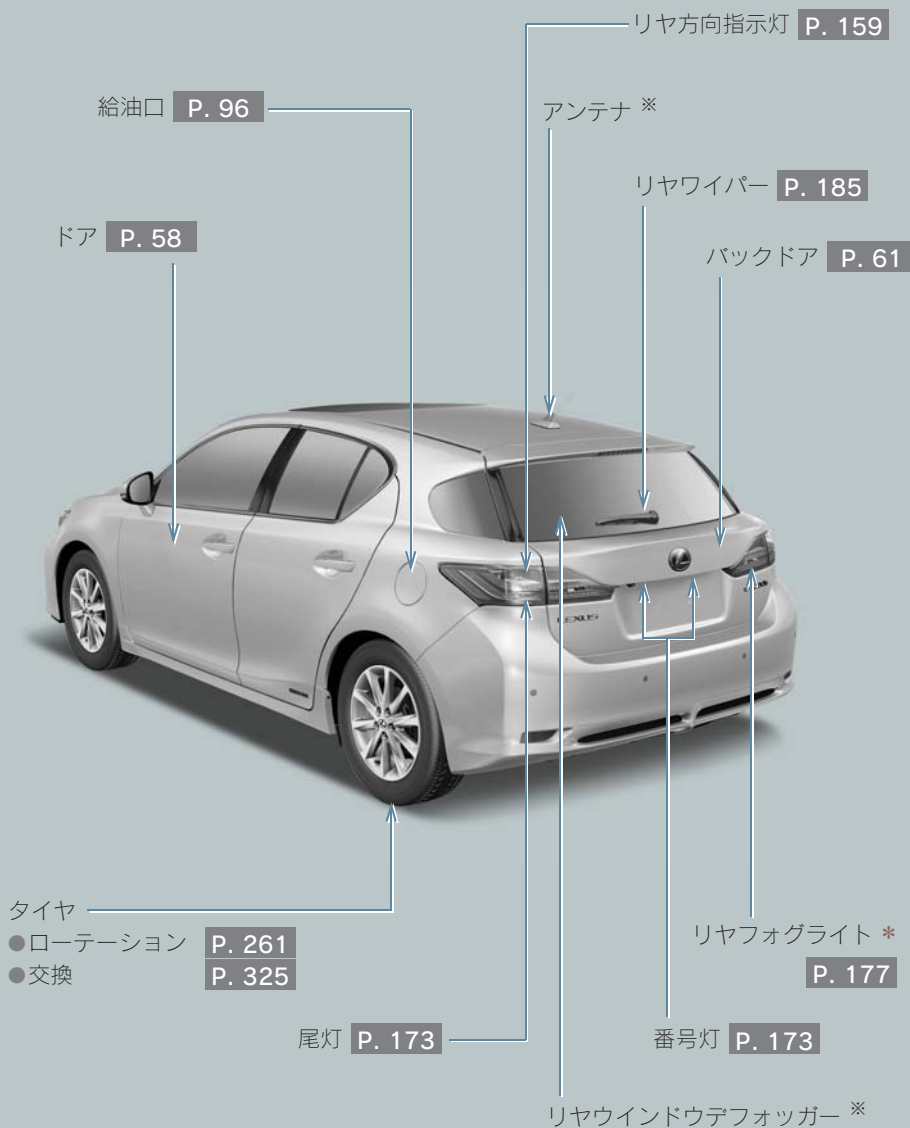
3

4

5

6





* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

助手席 SRS エアバッグ P. 109

SRS ニーエアバッグ P. 109

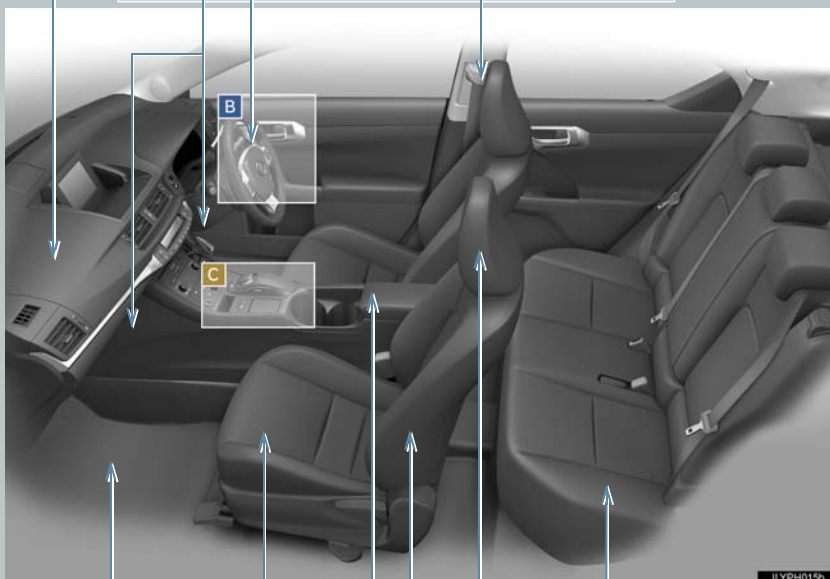
運転席 SRS エアバッグ P. 109

シートベルト P. 76

A

B

C



フロアマット P. 245

フロントシート P. 66

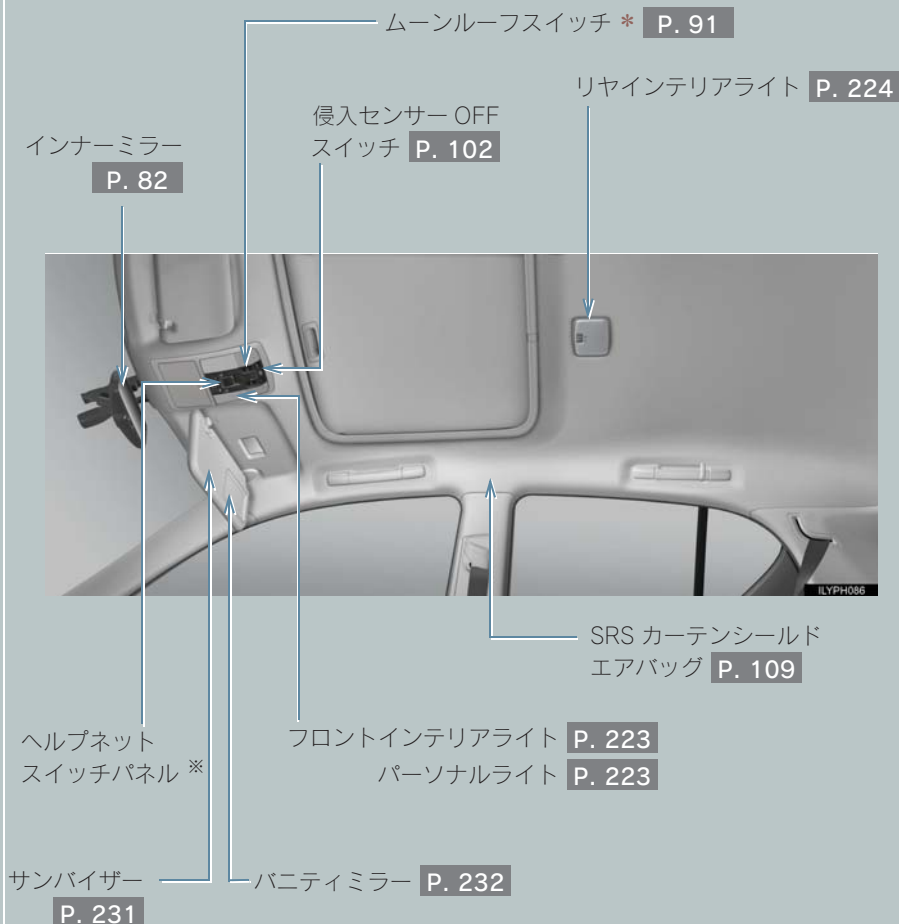
コンソールボックス P. 227

SRS フロントサイドエアバッグ P. 109

リヤシート P. 68

ヘッドレスト P. 73

A



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

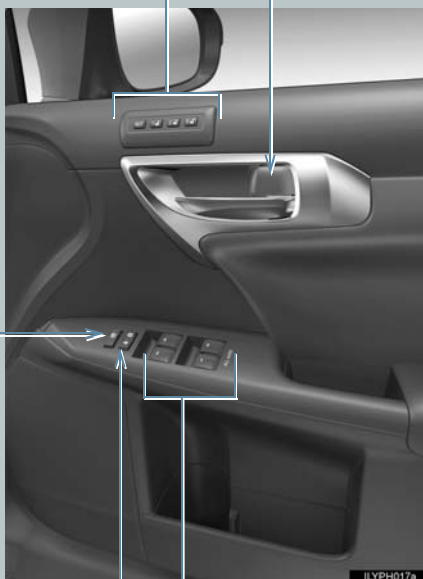
※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B

ドアロックレバー P. 58

ドライビングポジションメモリー
スイッチ * P. 70

ウィンドウロック
スイッチ P. 88



ドアロックスイッチ P. 58

パワーウィンドウスイッチ P. 88

C

ドライブモードセレクトスイッチ P. 154

セキュリティインジケータ

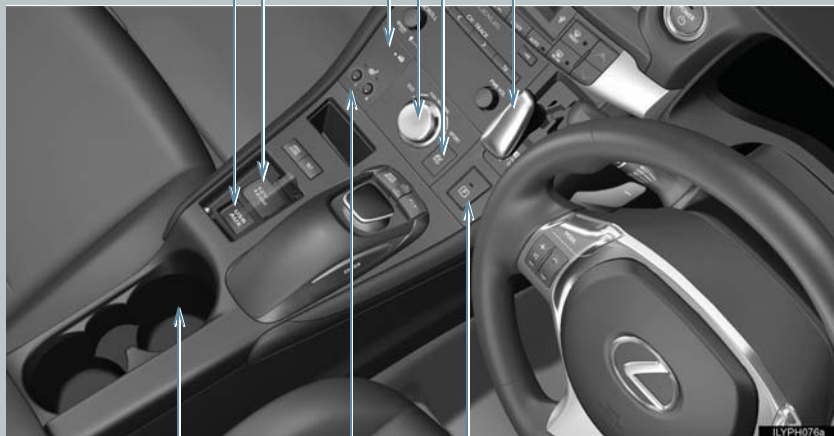
P. 100, 101

アクセサリソケット P. 233

EV ドライブモードスイッチ P. 150

シフトレバー P. 152

AUX/USB 端子 ※



カップホルダー P. 228

P ポジションスイッチ P. 155

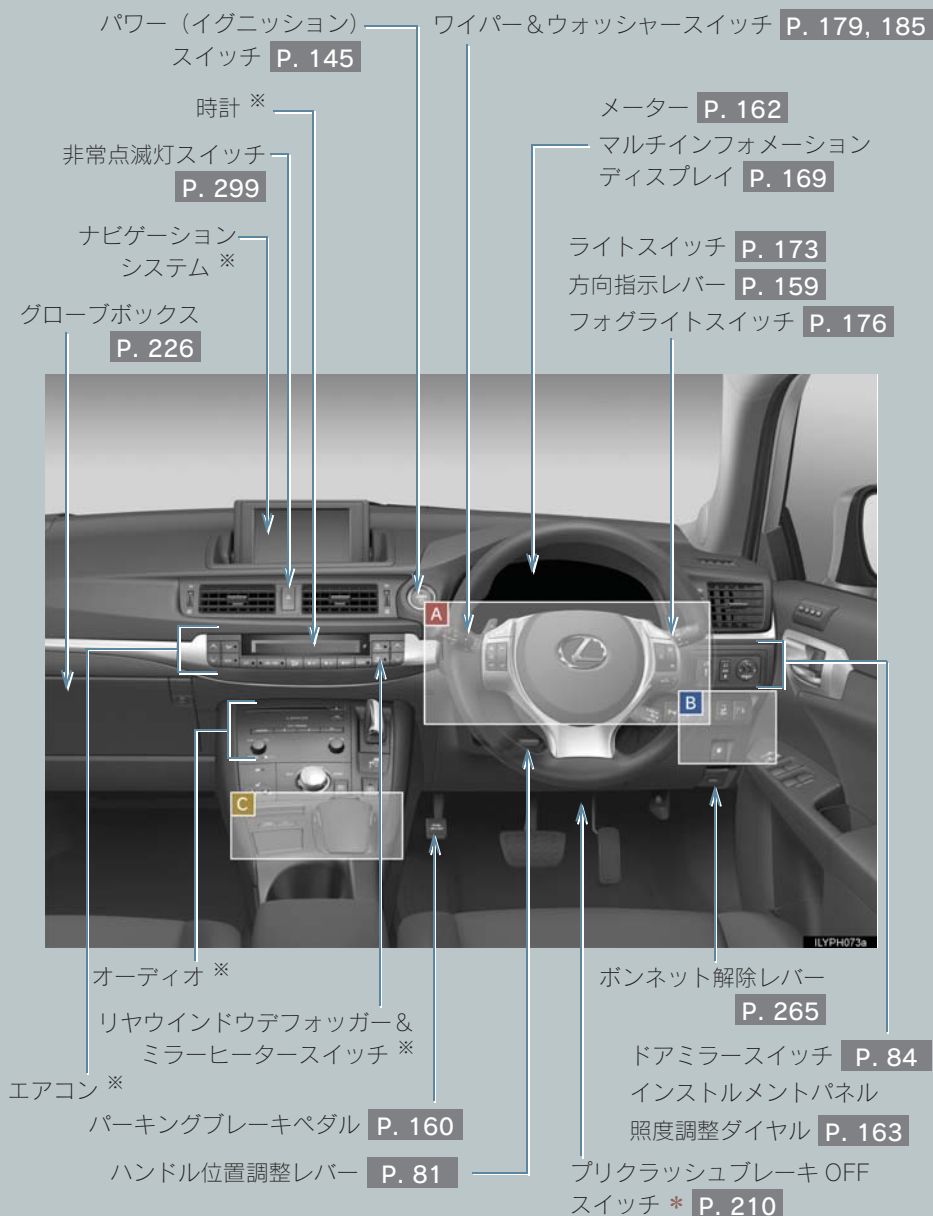
シートヒータースイッチ * P. 243

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

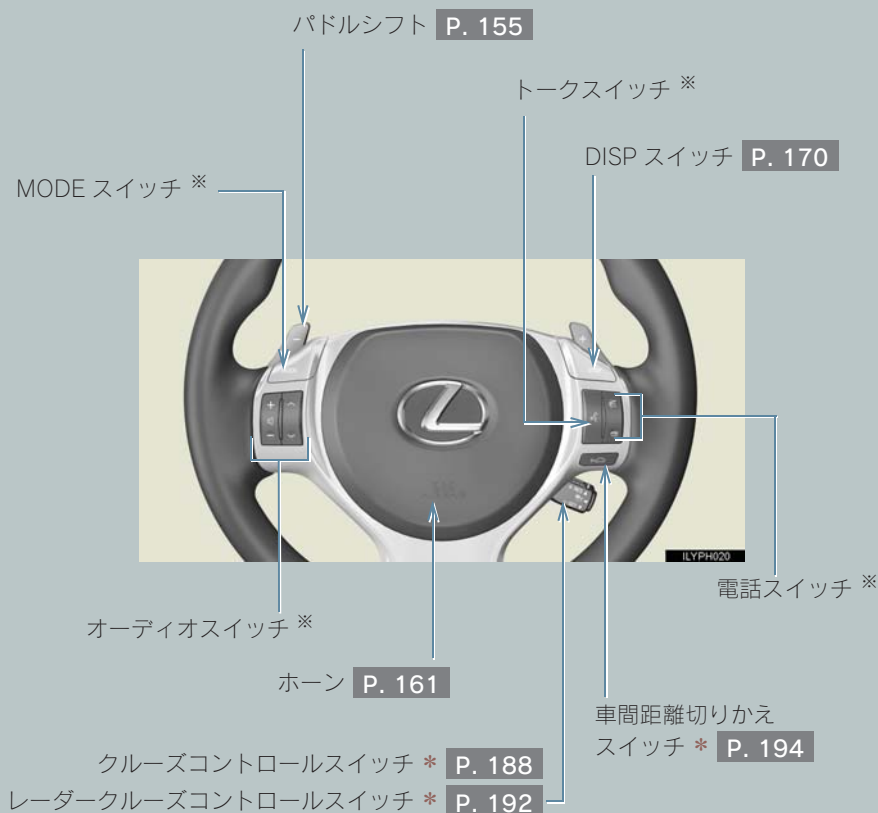
※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

インストルメントパネル



A



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

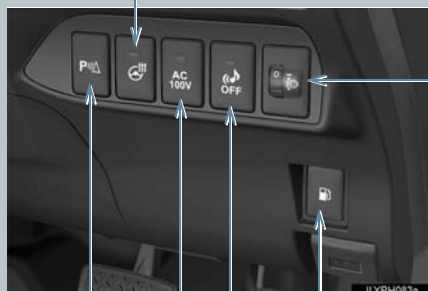
B

手動光軸調整ダイヤル * P. 174

ヘッドライトクリーナースイッチ * P. 187

ステアリングヒータースイッチ *

P. 241



クリアランスソナー &
バックソナースイッチ * ※

アクセサリコンセント
メインスイッチ * P. 235

給油口オープナー P. 96

車両接近通報一時停止スイッチ
P. 23

C



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ 電気モーター回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション
- ・ 駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています）



警告

■ お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 127)をお読みください。

■ 駆動用電池について

絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行なっていますので、ご協力ください。

適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 不法投棄または放置され、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
- 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

■ 駆動用電池の廃棄について

駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

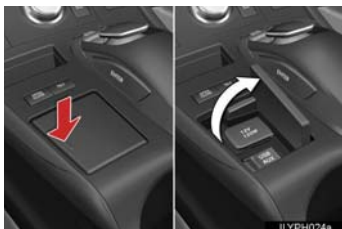
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの特徴.....	22
ハイブリッドシステムの注意.....	27
エネルギーモニター／燃費画面／Harmonious Driving Navi. 画面.....	32
ハイブリッド車運転のアドバイス.....	39

1-2. キーの取り扱い

キー.....	41
---------	----

1-3. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた

スマートエントリー&スタートシステム.....	46
ワイヤレスリモコン.....	56
ドア.....	58
バックドア.....	61

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた

フロントシート.....	66
リヤシート.....	68

ドライビングポジション	
メモリー.....	70
ヘッドレスト.....	73
シートベルト.....	76
ハンドル.....	81
インナーミラー.....	82
ドアミラー.....	84

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方

パワーウインドウ.....	88
ムーンルーフ.....	91

1-6. 給油のしかた

給油口の開け方.....	96
--------------	----

1-7. 盗難防止システム

イモビライザーシステム.....	100
オートアラーム.....	101

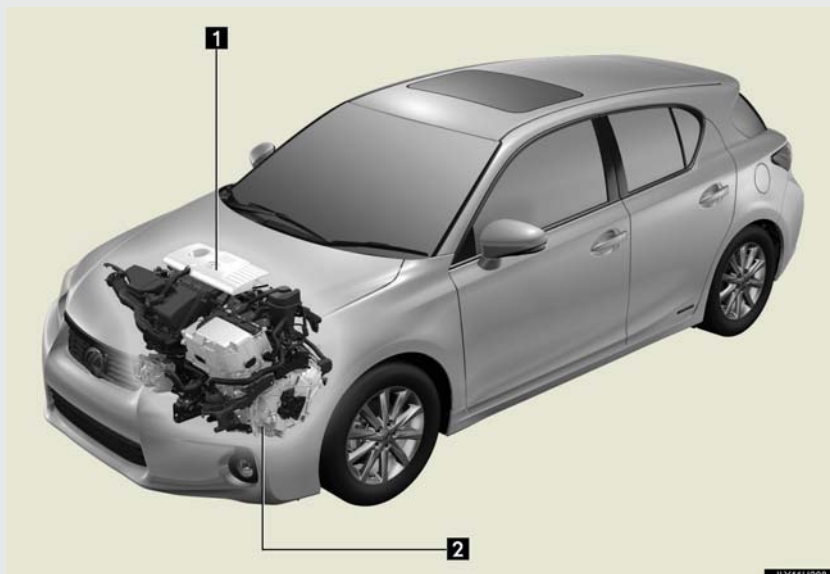
1-8. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢.....	107
SRS エアバッグ.....	109
子供専用シート.....	117
チャイルドシートの取り付け.....	127

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの特徴

CT200h のハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 ガソリンエンジン

2 電気モーター

■ 停車時、発進時、低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトポジションが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。車両停止時は必ず P にしてください。また、渋滞時などでも、D または S で運転してください。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 24）

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを大きく踏み込んだときは、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時、制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h を超えると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。



消音するには、“パワー”スイッチが ON モードのとき、スイッチを押す

スイッチ上のインジケータが点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。“パワー”スイッチを ON モードにするごとに、車両接近通報装置は ON になります。



知識

■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電するとともに減速力を得ることができます。

- シフトポジションがD または S で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションがD または S で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV インジケータについて



電気モーターの動力のみで走行しているときは、EV インジケータが点灯します。

■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 駆動用電池充電時
- 暖房をかけているとき

■ 駆動用電池の充電について

- ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に1度、約30分間または16kmほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

- シフトポジションがNのときは、駆動用電池の充電が行われません。駐車・停車時は必ずPにしてください。また、渋滞時などでもDまたはSで運転してください。

■補機バッテリーの充電について

→P. 359

■補機バッテリーがあがってしまったり、交換などで取りはずしたときは

ガソリンエンジンの自動停止が行われなことがあります。

自動停止しない状態が2、3日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる“コツコツ”“カタカタ”という音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ブレーキペダルを操作したときに聞こえる、作動音やモーター音
- ガソリンエンジンの始動、停止による振動
- リヤシート横（運転席側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■ 車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合
- 車両前方と比較して、車両後方の場合

■ メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理、廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

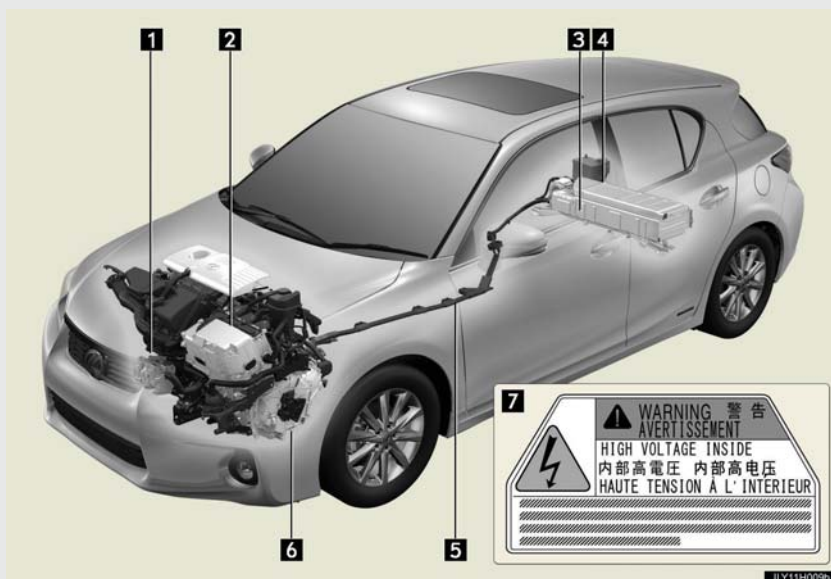
■ カスタマイズ機能

EV インジケーターを点灯しないように変更できます。(カスタマイズ一覧→ P. 374)

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池、パワーコントロールユニット、オレンジ色の高圧ケーブル、電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。



※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 エアコンコンプレッサー | 5 高電圧ケーブル（オレンジ色） |
| 2 パワーコントロールユニット | 6 電気モーター |
| 3 駆動用電池 | 7 コーションラベル |
| 4 サービスプラグ | |

駆動用電池冷却用吸入口



リヤシート横（運転席側）部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因になります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるため、レクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動的に表示されます。



警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 311）



知識

■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたときは

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

■ ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯 (→ P. 309) が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。(給油量は車両水平状態で約 11.8 L です。車両の傾きによって給油量はかわります)

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部 (遠距離通信) において、受信時に雑音が入る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

**警告****■ 高電圧、高温について**

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 高電圧部位、高電圧の配線 (オレンジ色) およびそのコネクターの取りはずし、分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧、高温部位に注意してください。

警告



- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグはレクサス販売店にて車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。取り扱いを誤ると感電のおそれがあるため、絶対にさわらないでください。

■ 事故が発生したときは

次のことをお守りいただかないと、感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● 続発事故防止のため安全な場所に停車する

停車時は、ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止します。そのあとブレーキペダルからゆっくり足を離してください。

● 高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

● 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

● 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない

駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

● 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する

水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

● 前輪が接地した状態でけん引しない

電気モーターから発電され、破損の状態によっては、漏電による火災のおそれがあり危険です。（→ P. 302）

● 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

**警告****■ 駆動用電池について**

駆動用電池を不法に投棄または放置すると、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれた場合に、生命にかかわる感電事故などにつながるおそれがあり危険です。

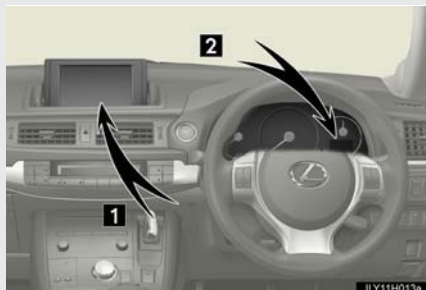
**注意****■ 駆動用電池冷却用の吸入口について**

- 吸入口のまわりに荷物などを置いたりしないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。
- 吸入口は、目詰まりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

1-1. ハイブリッドシステムについて

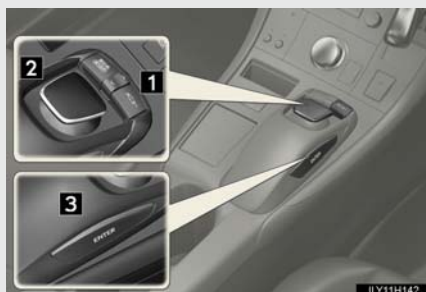
エネルギーモニター／燃費画面／Harmonious Driving Navi. 画面

ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイやナビゲーション画面に表示します。



1 ナビゲーション画面

2 マルチインフォメーションディスプレイ



リモートタッチ※

1 メニュー／MENU ボタン

2 リモートタッチノブ

3 ENTER ボタン

エネルギーモニターの見方

ナビゲーション画面表示



リモートタッチのメニュー／MENU ボタンを押しメニュー画面を表示させる

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



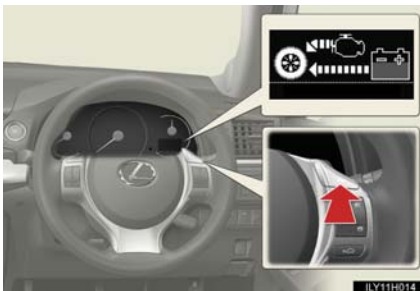
〔情報・G〕を選択する



〔エコ情報〕を選択する

燃費画面または Harmonious Driving Navi. が表示されたときは、〔エネルギー〕を選択します。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



DISP スイッチを押してエネルギーモニターを表示させる

	ナビゲーションシステム画面	マルチインフォメーションディスプレイ
電気のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンのエネルギーで走行しているとき		
駆動用電池に充電しているとき		
		
エネルギーの流れがないとき		

	ナビゲーションシステム画面	マルチインフォメーションディスプレイ
駆動用電池の残量表示	少ない 多い  	少ない 多い  

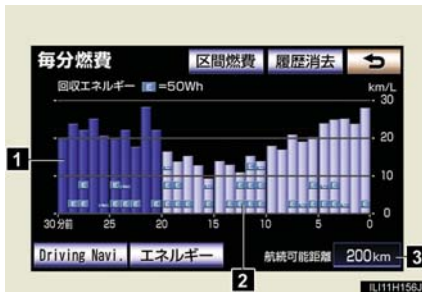
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

燃費画面の見方

- 手順 1** リモートタッチのメニュー／ MENU ボタンを押し、[情報・G] を選択する
- 手順 2** 情報画面の [エコ情報] を選択する
- 手順 3** エネルギーモニターまたはHarmonious Driving Navi.が表示されたときは、[燃費] を選択する

毎分燃費の見方

区間燃費が表示されたときは、[毎分燃費] を選択します。

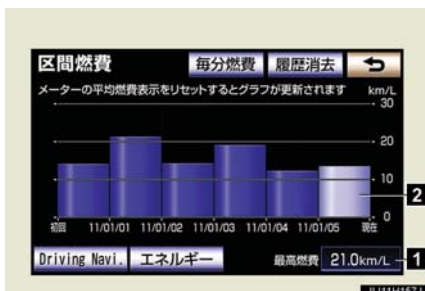


- 1** 過去 30 分間の 1 分ごとの燃費 (平均燃費)
表示される平均燃費は、参考として利用してください。
- 2** 過去 30 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量
E マーク 1 つが 50Wh です。
- 3** 航続可能距離 (→ P. 38)

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 区間燃費の見方

毎分燃費が表示されたときは、[区間燃費] を選択します。



1 過去最高燃費

2 通算燃費

マルチインフォメーションディスプレイの平均燃費をリセットするごとの平均燃費を表示します。(→ P. 170)

リセット時の平均燃費値が過去最高燃費を上まわっていた場合、過去最高燃費が更新されます。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

Harmonious Driving Navi. 画面の見方

手順 1 リモートタッチのメニュー／ MENU ボタンを押し、[情報・G] を選択する

手順 2 情報画面の [エコ情報] を選択する

手順 3 エネルギーモニターまたは燃費画面が表示されたときは、[Driving Navi.] を選択する



1 ステータス表示※

エコ運転の採点結果や走行情報を G-BOOK センターに送信し、計算されたデータをもとにステータスを表示します。

ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

2 エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

3 エコレベルメーター

ハイブリッドシステムインジケーターの針がエコエリア内の状態を継続させることなどでメーターが増加します。

4 エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

5 毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

・ 今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

6 エコカルテスイッチ

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO₂ 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

7 アドバイススイッチ

・ ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。

・ エコ運転や環境に関する豆知識が表示されます。

8 毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

・ 今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

9 更新スイッチ※

走行情報などを G-BOOK センターへ送信し、ステータス表示を更新します。

※ G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



知識

■ 燃費データをリセットするには

毎分燃費画面で「履歴消去」を選択すると、平均燃費・エネルギー回収量がリセットされ、0にもどります。

区間燃費画面で「履歴消去」を選択すると、通算燃費・過去最高燃費がリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■ G-BOOK センターへ送信する走行情報について

G-BOOK センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費等とは一致しないことがあります。

■ Harmonious Driving Navi. 画面について

パソコンや携帯電話のユーザーサイトでもステータスなどをみることができます。

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

■ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 154）

■ ハイブリッドシステムインジケータの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケータの針をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 164）

■ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

■ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどしゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ エアコンの ON / OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季 : 外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季 : ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

■ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

■ 荷物

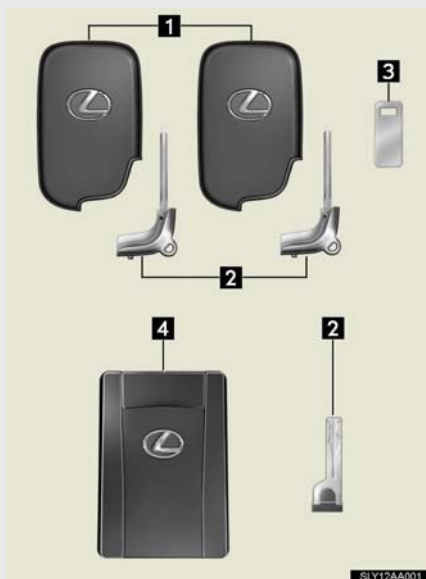
重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

■ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えている時は、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることとなりますので、燃費の悪化につながります。

お客様へ次のキーをお渡しします。



■ 1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 46)
- ・ ワイヤレス機能の作動 (→ P. 56)

■ 2 メカニカルキー

■ 3 キーナンバープレート

■ 4 カードキー* (電子キー)

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 46)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出すには、下記の操作を行ってください。

電子キー：解錠レバーをスライドしてキーを取り出す

カードキー：解除ボタンを押してキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→ P. 353)



■ カードキーについて

- カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。



- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

- カードキーは非防水です。

■ 駐車場などでキーを預けるときは

グローブボックスを施錠します。(→ P. 226)

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、メカニカルキーを紛失した場合、レクサス販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。(→ P. 352)

■ 航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。



注意

■ キーの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- 電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

 注意

■ キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

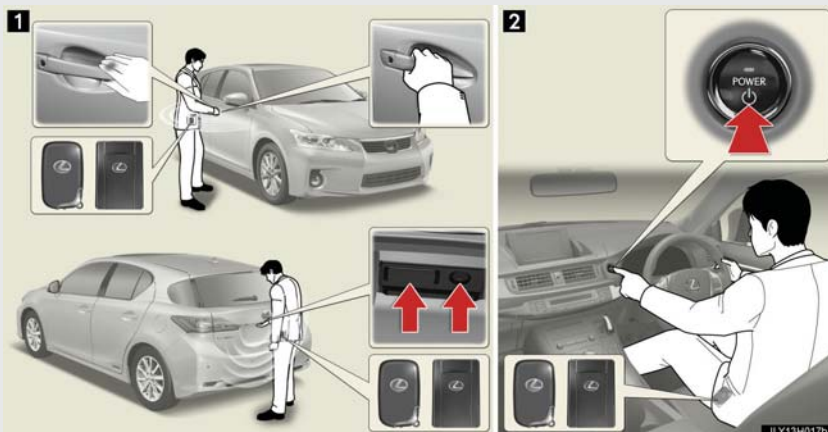
■ カードキー取り扱いの注意

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が錆びて作動しなくなるおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が錆びた場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

1-3. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。

（必ず運転者が携帯してください）



1 ドアを施錠・解錠する（→ P. 47）

2 ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 145）

ドアの解錠・施錠

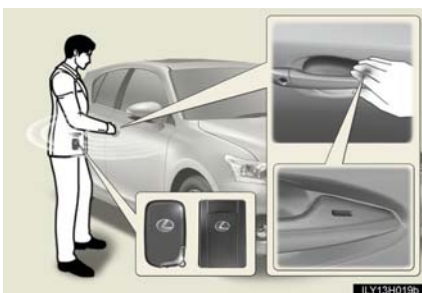
フロントドアハンドル



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後3秒間は解錠できません。



ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

1

運転する前に

バックドア



バックドアオープンスイッチを押して解錠する

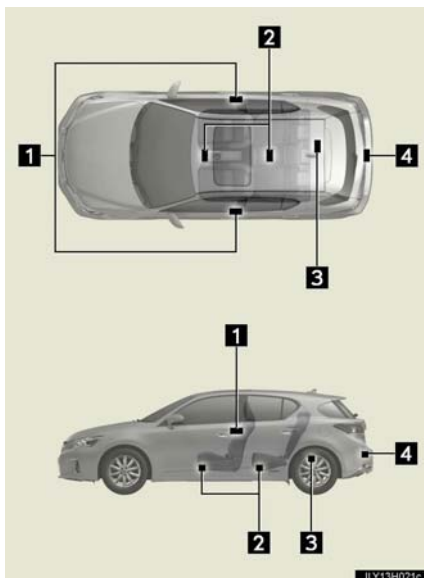
施錠操作後3秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

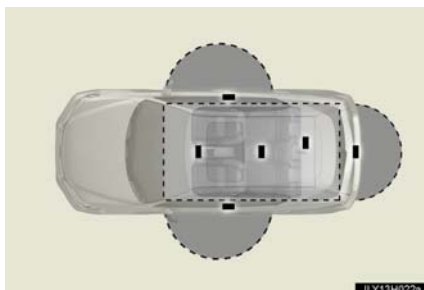
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 ラゲージルーム内アンテナ
- 4 ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



- : ドアの施錠・解錠時

フロントドア・バックドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

- : ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■ 作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは



ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■ 警告音と警告表示について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→ P. 311)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“パワー”スイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)	“パワー”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 353)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- バックドアガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ ご注意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）

■施錠時の留意事項

- 手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。
- ロック操作は、連続で2回まで有効で、3回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から2m以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）
- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサー部にふれてください。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から2m以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■ 長期間運転しないときは

- 盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→ P. 374)

■ オートアラームについて

スマートエントリー&スタートシステムで施錠するとオートアラームが設定されます。(→ P. 101)

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドアの施錠・解錠：→ P. 353
- ハイブリッドシステムの始動：→ P. 354

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。(カードキーの電池は1年半程度で消耗します)
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→ P. 323)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

- ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
- ・ 作動範囲が狭くなった
- ・ 電子キーの LED が点灯しない

- 電池の著しい消耗を防ぐために次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。

- ・ TV
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器

■ 電池が切れたときは

→ P. 294

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧→ P. 374)

**警告****■ 電波がおよぼす影響についての警告**

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 49）から約 22cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

1-3. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。



- 1 全ドアを施錠する
- 2 ドアガラスを閉める（押し続ける）※
- 3 全ドアを解錠する
- 4 ドアガラスを開く（押し続ける）※

※レクサス販売店での設定が必要です。

知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラス：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 101）

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 51

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

ドアの施錠・解錠→ P. 353

■ 電池の消耗について

→ P. 54

■ 電池が切れたときは

→ P. 294

■ カスタマイズ機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧→ P. 374)

1-3. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→ P. 47

■ ワイヤレス機能

→ P. 56

■ ドアロックスイッチ



- 1 全ドアを施錠する
- 2 全ドアを解錠する

■ ロックレバー



- 1 ドアを施錠する
- 2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

- 手順 1 ロックレバーを施錠側にする
 手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを開める

“パワー”スイッチがアクセサリモードまたは ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 353)

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■ カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧→P. 374)

警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● シートベルトを必ず使用する

● すべてのドアを施錠する

● すべてのドアを確実に閉める

● 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

● お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

1-3. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠できます。

■ バックドアの施錠・解錠

スマートエントリー&スタートシステム

→ P. 48

ワイヤレス機能

→ P. 56

ドアロックスイッチ

→ P. 58

■ 車外からバックドアを開けるには



バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



知識

■ バックドアを開めるときは



バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

■ ラゲージルームライト

スイッチを ON にしておくと、バックドアを開けたとき、ラゲージルームライトが点灯します。



1 OFF

2 ON

■ バックドアが開かないときは

バックドアを内側から開けることができます。



中央のデッキボードを持ち上げ、カバー装着車はカバーをはずしてからレバーを押します。

**警告****■ 走行中の警告**

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルーム内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■ バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

**注意****■ ダンパーステアについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

1

運転する前に

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた フロントシート

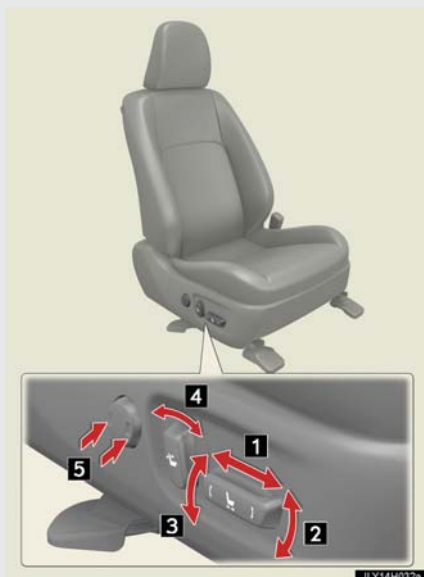
マニュアルシート*



- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 シート全体の上下調整（運転席のみ）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

パワーシート*



- 1 前後位置調整
- 2 クッション前端的上下調整（運転席のみ）
- 3 シート全体の上下調整（運転席のみ）
- 4 リクライニング調整
- 5 腰部硬さ調整（運転席のみ）

⚠ 警告

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

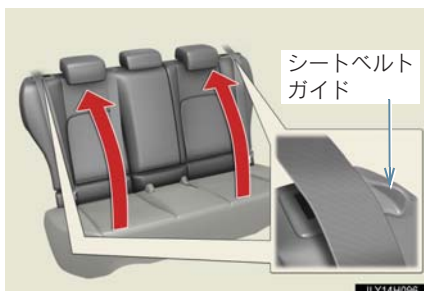
1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた リヤシート

背もたれを前倒しすることができます。



レバーを引いてロックを解除し、
背もたれを前に倒す

背もたれをもとに戻すときは



シートベルトをシートベルトガイド
にかけて、シートとボデーのあいだ
に挟まれないように操作してくださ
い。また、背もたれがロックされる
まで確実に戻してください。

**警告****■ 背もたれを前倒しするときは**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ 背もたれをもとの位置にもどすときは

シートベルトガイドを持たないでください。ガイドとピラーのあいだに手を挟まれ、けがをするおそれがあります。

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

シートが確実に固定されていないときは、レバー部に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ドライビングポジションメモリー*

好みのドライビングポジション（運転席・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。

ドライビングポジションは 3 パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “パワー” スイッチを ON モードにする

手順 2 運転席・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

手順 3



“SET” ボタンを押しながら、または“SET” ボタンを押したあと 3 秒以内に、1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

手順 1 “パワー” スイッチを ON モードにする

手順 2



1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンを押す

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには

お好みのポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 “パワー” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める

手順 2



1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチ（運転席側）の施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんドアを開閉してください。（ドアロックスイッチを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→ P. 101）

知識

■ “パワー” スイッチ OFF 後の作動

“パワー” スイッチを OFF にしたあとでも、運転席ドアを開けて 180 秒以内、およびその後再び運転席ドアを閉めて 60 秒以内ならポジションの呼び出しができます。

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 “パワー” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める

手順 2 “SET” ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めるには

次のいずれかの操作をします。

- “ SET ” ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）

■シート位置の正しい再生について

シート位置が各シート調整機構の最端部にある状態で、さらにその方向に操作すると、システムがシートの現在位置を誤認識し、メモリー再生位置にずれが生じることがあります。



警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ヘッドレスト

フロント席

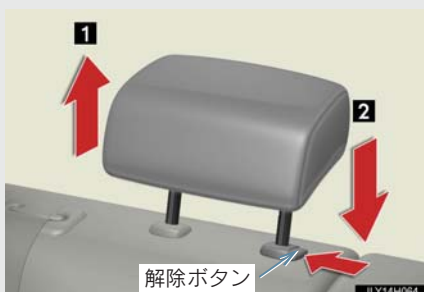


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しなが
ら操作します。

リヤ中央席

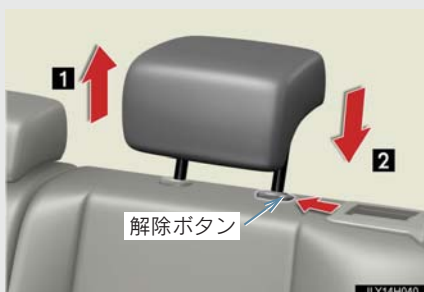


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しなが
ら操作します。

リヤ左右席



1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しなが
ら操作します。



知識

■ヘッドレストを取りはずすときは



解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

**警告****■ ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた シートベルト

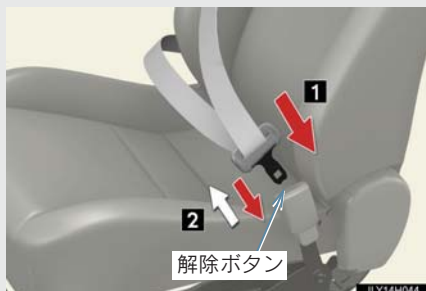
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

■ 着け方、はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレート
をバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボ
タンを押す

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）



- 1 解除ボタンを押しながら、ア
ジャスターを下げる
- 2 アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるこ
ろまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）



前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

1

運転する前に

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取ります。（→ P. 209）

リヤ中央席シートベルトを使用したあとは



バックルをシートクッションの穴に格納してください。

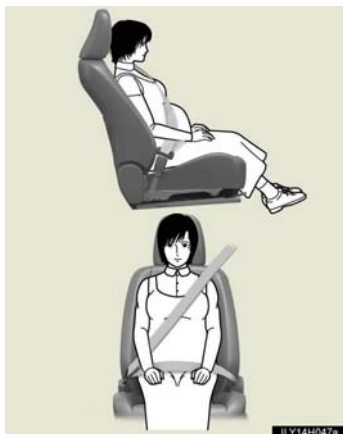


知識

■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 76)

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 117)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 76)

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万ーベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。



警告

■ **シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

手順 1



ハンドルを持ち、レバーを下げる

手順 2



ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

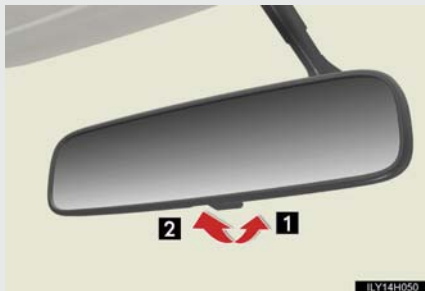
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、次の機能で反射光を減少（防眩）できます。

手動防眩ミラー装着車

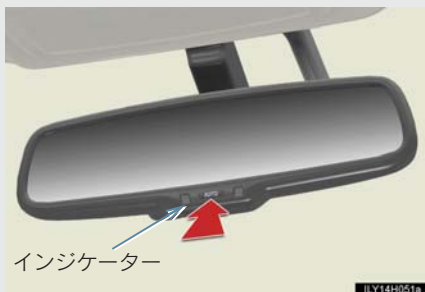


1 通常使用時

2 防眩時

自動防眩ミラー装着車

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。

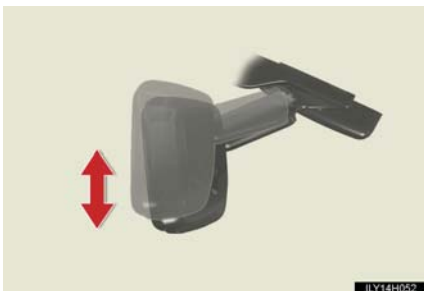


自動モードの ON・OFF を切りかえる

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

“パワー” スイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた



インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）



センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

手順 1 調整するミラーを選ぶ

オート電動格納式ミラー非装着車



1 左

2 右

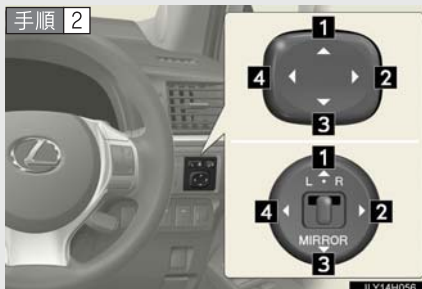
オート電動格納式ミラー装着車



1 左

2 右

手順 2



ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

1 上

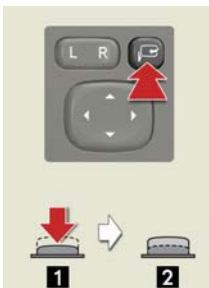
2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

オート電動格納式ミラー非装着車



- 1 ミラーを格納する
- 2 ミラーをもとの位置にもどす

オート電動格納式ミラー装着車



- 1 ミラーを格納する
- 2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“ AUTO ”）にすると自動モードに切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動します。

知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ リバース連動機能（オート電動格納式ミラー装着車）

後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置（“L”・“R” の中間）にしておくと、この機能は作動しません。

■ レインクリアリングミラー*

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光をあてることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能も持っています。

- 次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→ P. 255）を行ってください。

- ・ 鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手でふれたり汚れた布などでふいたとき
- ・ 洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき
- ・ 地下・屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したとき

- 次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。

- ・ 鏡面にシリコーン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
- ・ 鏡面に傷を付けたとき

■ ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください）

■ ミラー角度の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 70）

■ 自動防眩機能*

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。（→ P. 82）

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき（オート電動格納式ミラー装着車）

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告

■ 走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走らない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

 注意

■ レインクリアリングミラーの取り扱いについて*

- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
親水膜の効果を持続させるため、鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- シリコン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないように十分注意してください。
- 砂の付いた布・油膜取り剤・研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ



スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

“パワー” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 43 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動なくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを開めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ パワーウィンドウを開めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開めることができないときは、開めることができないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“パワー” スイッチを ON モードの状態、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続けることでドアガラスを開めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを開めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを開めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊（→ P. 353）
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。＊（→ P. 56）

＊レクサス販売店ででの設定が必要です。

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→ P. 101)

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧→ P. 374)

⚠ 警告

■ ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりするおそれがあります。

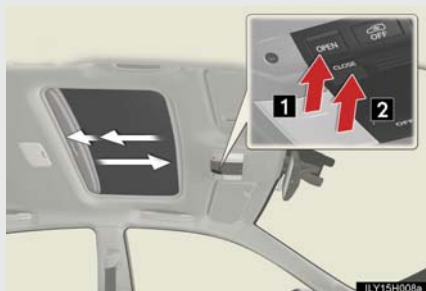
■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンすることができます。

■ 開閉



1 ムーンルーフを開く※

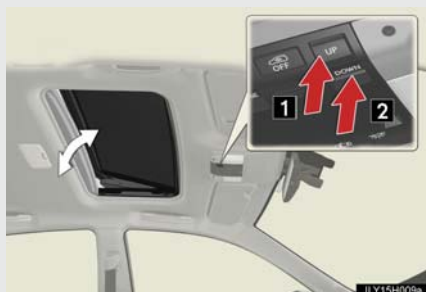
スイッチを約 1 秒以上押すと、チルトアップしてから自動で開きます。

2 ムーンルーフを閉める※

スイッチを約 1 秒以上押すと、チルトアップ位置まで自動で閉まります。全閉するには再度スイッチを押します。

※途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウン



1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の開閉作動

“パワー” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 43 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くと全開の少し手前まで連動して開きます。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※¹

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※²

その後再び閉じ、チルトダウンし、全閉位置で微調整後、停止します。

手順 3 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“DOWN”側を押し続ける※¹

ムーンルーフが閉じ、再び開き、チルトアップ位置で10秒間停止します。※²

その後再び閉じ、全閉位置で微調整後、停止します。

手順 3 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

※¹ 途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※² 10 秒間停止した後にスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“DOWN”、または“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフが閉じ、全閉位置で微調整後、停止します。ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなしてください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

“パワー”スイッチがOFFでムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

警告

■ ムーンルーフを開けているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ ムーンルーフを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**警告****■ 挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。

1

運転する前に

1-6. 給油のしかた 給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

“パワー”スイッチを OFF にして、ドアとドアガラスを閉めてください。

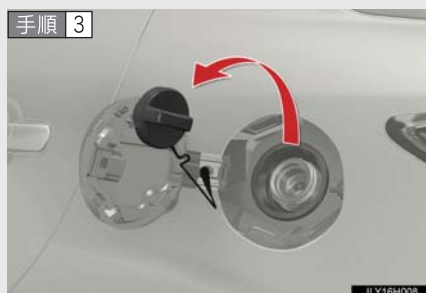
■ 給油口の開け方



オープナーを押して、給油口を開ける



キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを開めるときは

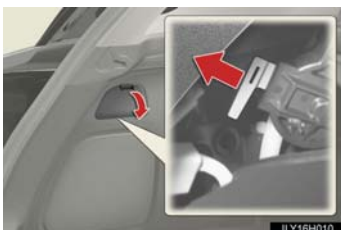


キャップを“カチツ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少し戻ります。



給油口が車内から開けられないときは



車内のスイッチを押しても給油口が開かないときは、ラゲージルーム内のレバーを引きます。

燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノール混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

燃料タンク容量（参考値）

45 L



警告

■ 給油について

給油するときは次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■ キャップ交換時の警告

レクサス純正品以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 給油するときは**

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



“パワー”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“パワー”スイッチをアクセサリモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に作動せずハイブリッドシステムを始動できないことがあります。(→ P. 51)



注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。

システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・キーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

※G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／サービスの使い方／G-Security」を参照してください。

■ オートアラームを設定するには



ドア・ボンネットを閉め、施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

侵入センサーを停止してからオートアラームを設定するには(→ P. 102)

■ オートアラームの設定を解除・作動を停止するには

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- “パワー”スイッチをアクセサリモードまたはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

侵入センサーの作動について

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

侵入センサーを停止するには



“パワー” スイッチを OFF にし、侵入センサー OFF スイッチを押す

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。

侵入センサーは“パワー”スイッチを ON モードにするたびに、ON にもどります。

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

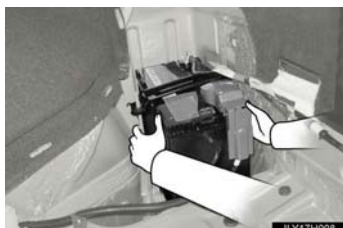
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。



- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで充電や交換をしたとき (→ P. 358)

■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、補機バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとに“パワー”スイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態(システム ON の状態)に自動復帰します。

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。
- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／サービスの使い方／G-Security」を参照してください。

■ 侵入センサーの検知について

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。



- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



- ドアガラスやムーンルーフなどが開いている場合、以下のものを検知することがあります。
 - ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
 - ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
 - ・ 室外の歩行者の動き



- マスコットやアクセサリをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車した場合



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とすときに、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

- 高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

■ カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→ P. 374)

 注意

■ 侵入センサーを正しく作動させるために



● センサーの穴は塞がないようにしてください。



● センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

1-8. 安全にお使いいただくために 正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



- ❶ まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 66）
- ❷ シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 66）
- ❸ 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 66）
- ❹ SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 81）
- ❺ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 73）
- ❻ シートベルトが正しく着用できる（→ P. 76）

⚠ 警告

■ 走行中は

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

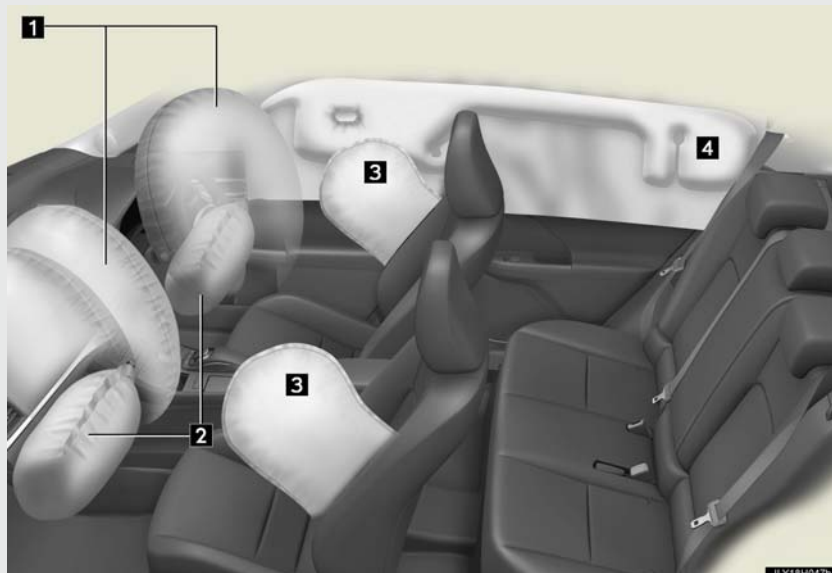


■ シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



フロント SRS エアバッグ

- 1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- 2 SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

- 3 SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- 4 SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)



知識

■ SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

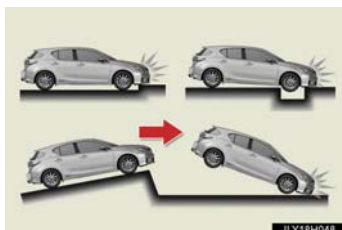
■ SRS エアバッグが作動するとき

(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■ 衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

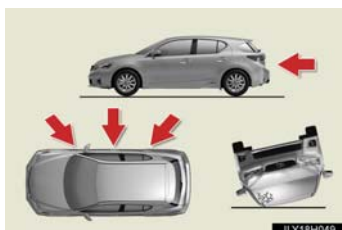
次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

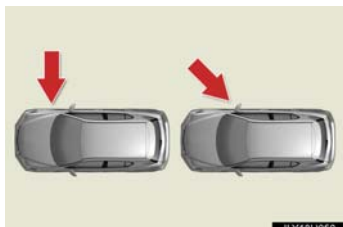


- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき

(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

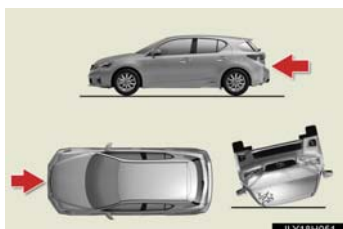
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグとSRSカーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



● 客室部分以外の側面への衝撃

● 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。



● 前方からの衝突※

● 後方からの衝突

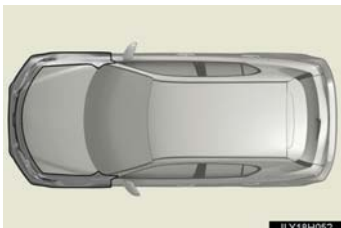
● 横転

※ 事故の状況と形態によっては、車両前方向からの衝突で、SRS カーテンシールドエアバッグが作動することがあります。

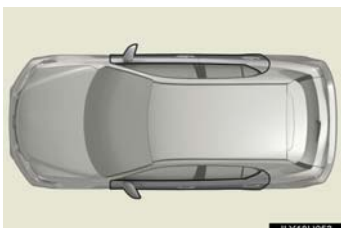
■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席SRSエアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 117)



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

**警告**

■ SRS エアバッグについて



- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- 助手席やリヤ外側シートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない(速度制限ラベルを除く→ P. 345)

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は取り除いてください。



警告

■ SRS エアバッグについて

- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロント・リヤピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0	: 10kg まで
グループ 0+	: 13kg まで
グループ I	: 9 ~ 18kg
グループ II	: 15 ~ 25kg
グループ III	: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにもなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0⁺ に
相当

チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0⁺、I に
相当

ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ II、III に
相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

1

運転する前に

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席※
0（10kg まで）	×	U	L
0+（13kg まで）	×	U	L
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF	U	L
	後ろ向き ×	U	L
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF	U	L
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF	U	L

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。

（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」、「準汎用」カテゴリの子供専用シートにも適しています）

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

※ リヤ中央席にチャイルドシートを取り付けたときは、リヤ右側席に座らないでください。

子供専用シートの一覧

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	レクサス純正ベビーシート レクサス純正チャイルドシート レクサス純正 NEO G-Child baby	汎用
0+（13kg まで）	レクサス純正ベビーシート レクサス純正チャイルドシート レクサス純正 NEO G-Child baby	汎用
I（9 ～ 18kg）	レクサス純正チャイルドシート レクサス純正 NEO G-Child baby	汎用
II（15 ～ 25kg）	レクサス純正ジュニアシート	汎用
III（22 ～ 36kg）	レクサス純正ジュニアシート	汎用

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表(ISOFIX対応トップテザーアンカーでの取り付け)

1

運転する前に

質量グループ	サイズ 等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席※
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL1
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL1
	D	ISO/R2	IL2
	C	ISO/R3	IL2
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF, IL2
	B1	ISO/F2X	IUF, IL2
	A	ISO/F3	IUF, IL2
II (15 ~ 25kg)		(1)	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示 (A から G) のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用 (ユニバーサル) カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1 : この質量グループでの使用を許可された「レクサス純正ベビーシート」、「レクサス純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

IL2 : この質量グループでの使用を許可された「レクサス純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

※ リヤ右側席にチャイルドシートを取り付けたときは、リヤ中央席に座らないでください。

ISOFIX 子供専用シートの一覧

質量グループ	サイズ 等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート （準汎用 ISOFIX 対応）	準汎用
	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート （準汎用 ISOFIX 対応）	準汎用
	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
I（9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→ P. 119)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 121)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1): 体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。

(例 2): 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1): 質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2): 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→ P. 122)で指定されている製品を使用してください。



子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

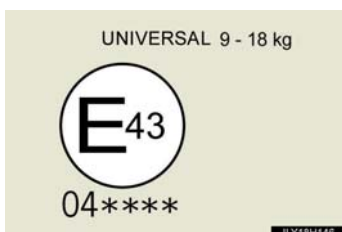
※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



3 トップテザー（→ P. 127）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。



- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。



■ 子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

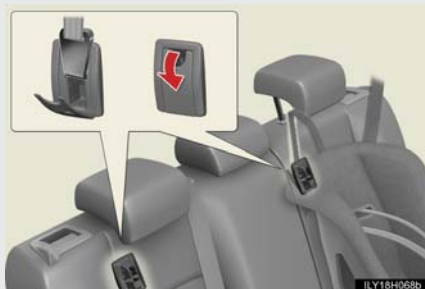


シートベルトによる取り付け
(→ P. 128)



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 129)

リヤ外側シートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)



トップテザーアンカー
(→ P. 130)

テザーベルトを固定するときに使います。

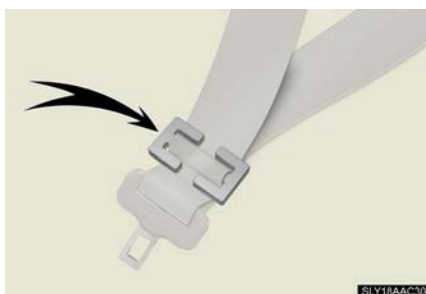
トップテザーアンカーはリヤ外側シートに装備されています。

シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートを保ックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

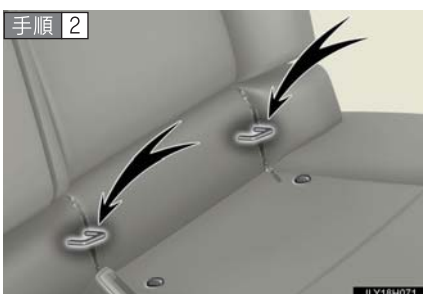
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

手順 1



ヘッドレストを上げる
(→ P. 73)

手順 2



ファスナーを下げ、固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

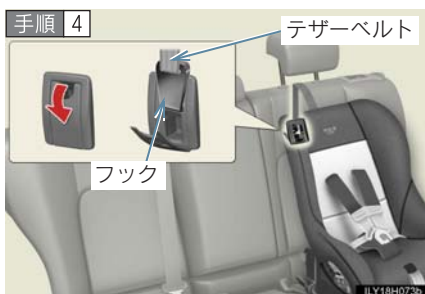
手順 3



チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。



フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



取り付けしたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する

**警告****■チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

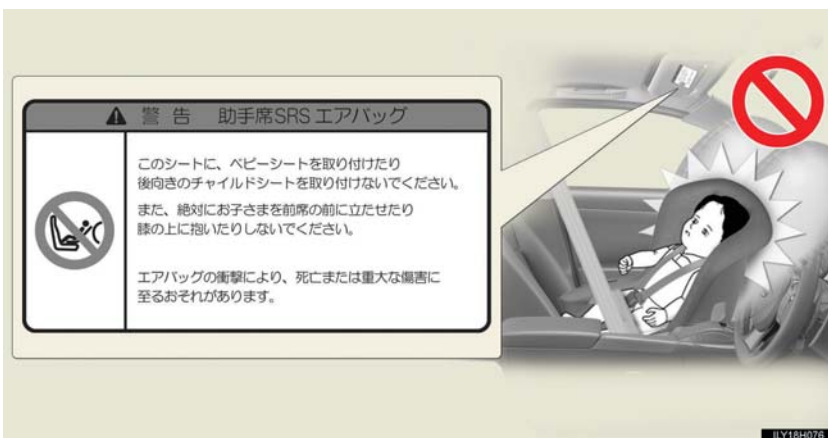
- お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付け不要ください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

警告

チャイルドシートを取り付けるときは



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にできるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください (→ P. 127)。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかりと固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	136
パワー（イグニッション） スイッチ	145
EV ドライブモード	150
トランスミッション	152
方向指示レバー	159
パーキングブレーキ	160
ホーン（警告器）	161

2-2. メーターの見方

計器類	162
表示灯／警告灯	166
マルチインフォメーション ディスプレイ	169

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方

ライトスイッチ	173
フォグライトスイッチ	176
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	179
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	185
ヘッドライトクリーナー	187

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	188
レーダークルーズ コントロール	192
運転を補助する装置	203
ヒルスタートアシスト コントロール	207
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	209

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	216
寒冷時の運転	218

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 145

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする
(→ P. 152)

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。
(→ P. 167)

手順 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 160)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。(→ P. 155)

■ 駐車する

手順 1 車を完全に停止させる

手順 2 パーキングブレーキをかける (→ P. 160)

手順 3 シフトポジションを P にする (→ P. 155)
シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。
(→ P. 167)

手順 4 “パワー” スイッチを OFF にして、ハイブリッドシステムを停止する

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

手順 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトポジションを D にする
- 手順 2 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
- 手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する



知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。(→ P. 207)

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のカソリン車と同様の心がけが必要です。P. 39 の「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

 警告

■ **発進するときは**

ブレーキペダルをしっかり踏み込んだまま、シフトレバーを操作してください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ **運転するときは**

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置を ON にしても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあります。
- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

 警告

- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを D にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。また、トランスミッションを損傷するおそれもあります。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合は、ハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 366 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→ P. 153)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



警告

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

シフトレバーの操作後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するときは

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。

シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 長時間 READY インジケーターが点灯したままにしないでください。

どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告**■ 駐車するときは**

- 必ずパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをPにしてください。Pにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏んだときに急発進するおそれがあります。また、車から離れるときは、必ずハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
ハイブリッド車は走行できる状態（READY インジケーターが点灯している状態）になっていても、音や振動がない場合があります。
- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、READY インジケーターが点灯したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

■ **排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではハイブリッドシステムを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **仮眠するときは**

必ず“パワー”スイッチを OFF にしてください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ブレーキをかけるときは**

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行しないでください。走行中、ブレーキ警告灯（赤色）の点灯と同時にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へご連絡ください。

**注意****■ 運転中は**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 325, 336 をご覧ください。



注意

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジンオイル・ハイブリッド用トランスミッションフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水により P ポジション制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。P から他のシフトポジションに切りかえられないときは、前輪が固定されているため、けん引での移動はできません。(→ P. 302)

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動または“パワー”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ ハイブリッドシステム始動のしかた

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む

“パワー”スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯することを確認します。緑色に点灯していないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→ P. 155）

手順 3



“パワー”スイッチを押す

完全にハイブリッドシステムが始動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。

“パワー”スイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

手順 4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

■ ハイブリッドシステム停止のしかた

手順 1 車両を完全に停止させる

手順 2 パーキングブレーキをかける (→ P. 160)

手順 3 P ポジションスイッチを押す (→ P. 155)

シフトポジション表示灯がPであることをメーターで確認します。
(→ P. 167)

手順 4 “パワー” スイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。(シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています)

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離して “パワー” スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

■ “パワー” スイッチ切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに “パワー” スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。



知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトポジションがPにあるとき、20分以上アクセサリーモードか1時間以上ONモード（ハイブリッドシステムが始動していない状態）にしたままにしておくと、“パワー”スイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたはONモードにしたまま長時間放置しないでください。

■ 高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、車両後方から“コトン”、“カチツ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 54

■ 外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READYインジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 51

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 52

■ ハイブリッドシステムが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 100）

■ “パワー” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 311

■ 電子キーの電池が切れたときは

→ P. 353

■ “パワー” スイッチの操作について

- “パワー” スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。
- “パワー” スイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。“パワー” スイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ 自動 P ポジション切りかえ機能について

→ P. 157

■ P ポジション制御システムについて

P ポジション制御システムが故障すると、“パワー” スイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると、スイッチを OFF にすることができます。

システムが故障した場合は、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

 警告**■ ハイブリッドシステムを始動するときは**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、“パワー” スイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。

ただし、緊急時以外は走行中に“パワー” スイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 注意**■ 補機バッテリーあがりを防止するために**

- ハイブリッドシステム停止中は、“パワー” スイッチをアクセサリモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、“パワー” スイッチのインジケーターが消灯していない場合、“パワー” スイッチが OFF になっていません。“パワー” スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■ “パワー” スイッチの操作について

“パワー” スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、エンジン音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。(→ P. 23)



EV ドライブモードの ON・OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

知識

■ EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態 (→ P. 35)
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントデフロスターを使用しているとき

■ ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができません。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■ EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

自動解除が事前にお知らせできるときは、マルチインフォメーションディスプレイに予告画面が表示されます。

■ EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は、車速約 55km/h 以下で、数百 m から 2km 程度です。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■ 燃費について

CT200h は、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなる場合があります。

⚠ 警告

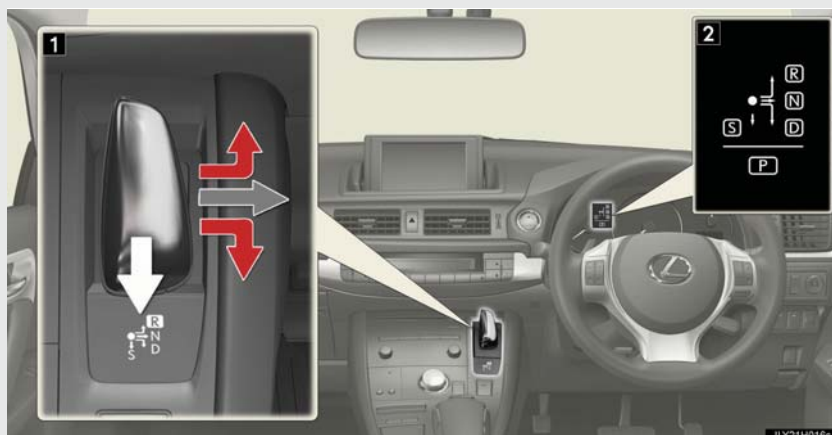
■ EV ドライブモードについて

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。特に車両接近通報装置を OFF にしている場合は、十分注意して運転してください。

2-1. 運転のしかた トランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方



1 シフトレバー

シフトレバーは、ゆっくり確実に操作してください。

 D または R に切りかえるときは、ゲートにそってそのまま操作します。

 N に切りかえるときは、右にスライドさせ、しばらく保持します。

 シフトポジションが D のときのみ、S に切りかえが可能です。

● シフトレバーを操作したあとは、常にもとの位置にもどります。

P から N・D・R へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

2 シフトポジション表示灯

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

D、S 以外のときは、シフトポジション表示灯の S 方向への矢印と S 表示が消灯します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステム始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ ¹
S	シーケンシャルシフトモード走行※ ² (→ P. 155)

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

※² シーケンシャルシフトモードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D に比べエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

■ 走行モードの選択

走行・使用条件に合わせて次のモードを選択できます。



1 NORMAL モード

2 エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを左へまわすと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯します。

NORMAL モードにもどすときはスイッチを押します。

3 SPORT モード

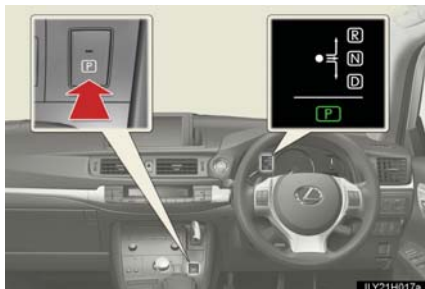
山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スイッチを右へまわすと、メーター内の SPORT MODE 表示灯が点灯します。

NORMAL モードにもどすときはスイッチを押します。

P ポジションスイッチ

■ シフトポジションを P に切りかえるときは



車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押す

シフトポジションを P にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。シフトポジション表示灯で、P の位置が点灯していることを必ず確認してください。

■ P から他のシフトポジションに切りかえるときは

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、シフトレバーを操作します。
(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- P から直接、シフトポジションを S に切りかえることはできません。

シーケンシャルシフトモードでの操作方法

シフトポジションを S にして、パドルシフトを操作します。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

パドルシフトを操作するごとに1レンジずつシフトします。1～6のあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

シフトアップ側へ保持すると、選択可能な最高シフトレンジへシフトします。



知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■シフトポジションについて

- “パワー”スイッチがOFFのときはシフトポジションの切りかえはできません。
- “パワー”スイッチがONモードで、READYインジケーターが消灯しているときは、Nにのみ切りかえが可能です。
- READYインジケーターが点灯中は、Pから、D・N・Rを選択できます。
- D以外から直接、Sに切りかえることはできません。

また、下記に示す操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的にNに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

- シフトポジションの切りかえを無効にするとき
 - ・Pからブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作したとき
 - ・PまたはNから、Sを選択したとき
- 自動的にシフトポジションがNに切りかわるとき
 - ・走行中に、Pポジションスイッチを押したとき※
 - ・車両が前進しているときにRを選択したとき
 - ・車両が後退しているときにDを選択したとき
 - ・RからSを選択したとき

※極低速走行時は、Pに切りかわることがあります。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、パドルシフトを操作してもシフトされない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■リバース警告ブザー

シフトポジションをRにするとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ 自動 P ポジション切りかえ機能について

“パワー”スイッチがONモードの状態ですフトポジションがP以外のとき、車両を完全に停止させ“パワー”スイッチを押すと、自動的にシフトポジションがPに切りかわり、“パワー”スイッチがOFFになります。

■ シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P. 356を参照してください。

■ クルーズコントロール*またはレーダークルーズコントロール*を使って走行しているとき

シフトポジションをDからSにしても、エンジンブレーキは効きません。また、シフトレンジを5または4にしてもエンジンブレーキは効きません。(→P. 188, 192)

■ SPORTモードの自動解除

SPORTモードを選択して走行後、ハイブリッドシステムを停止すると、自動的にNORMALモードに切りかわります。

■ 一時的なシーケンシャルシフトモードについて



シフトポジションがDで走行中、パドルシフトを操作することにより任意のシフトレンジを選択することができます。この場合、シフトレンジ表示灯に選択されているシフトレンジが表示されます。

一時的なシーケンシャルシフトモードは、次の状態になると解除されます。

- 同一シフトレンジで、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトアップ側のパドルシフトを一定時間以上保持したとき
- 車両停止状態のとき

■ 補機バッテリーを脱着したときは

→ P. 358

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトレバーについて

シフトレバーのノブを取り外したり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ P ポジションスイッチについて

車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■ 駆動用電池の充電について

シフトポジションが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■ P ポジション制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、P ポジション制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

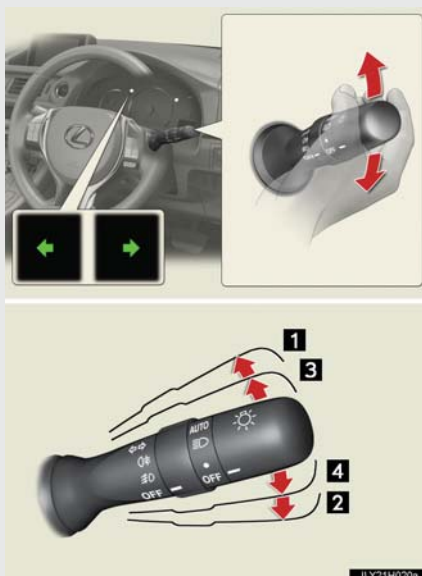
- マルチインフォメーションディスプレイに「P ロック異常 駐車時は確実にパーキングブレーキをかけて下さい」と表示されたとき (→ P. 312)
- シフトポジション表示灯が点灯しないとき

■ シフトポジションの切りかえ操作について

P から P 以外、および P 以外から P への切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間 P からの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 右折
- 3 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

- 4 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ



パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま、車速が5 km/h を超えたとき、警告ブザーが鳴ります。（→ P. 315）

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→ P. 218）の記載を参照してください。

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

ホーン（警音器）



ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 81）

2-2. メーターの見方

計器類



“パワー” スイッチを ON モードにするとメーターが点灯します。

1 ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。

2 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 ECO ランプ・SPORT ランプ

走行モードや運転状態によって点灯します。

5 燃料計

燃料残量を示します。

6 マルチインフォメーションディスプレイ

→ P. 169

7 外気温度表示

外気温度を-40℃～50℃のあいだで表示します。

8 オドメーター／トリップメーター

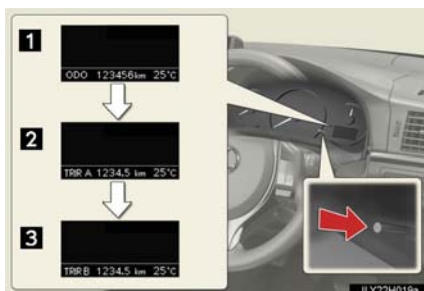
オドメーター：走行した総距離を表示します。

トリップメーター：リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

9 オドメーター／トリップメーター切りかえボタン

→ P. 163

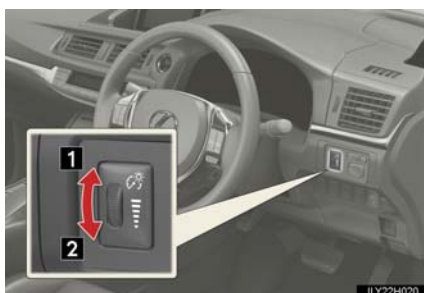
オドメーター／トリップメーター表示の切りかえ



ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。

インストルメントパネル照度調整

ダイヤルを操作して、インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 明るくなる

2 暗くなる

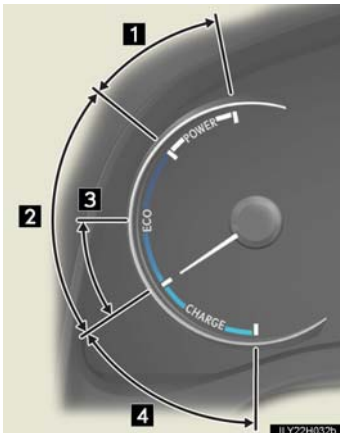
ダイヤルを上側いっぱいにしておくと、車幅灯が点灯したときの減光制御はされません。

最も暗く調整すると、カップホルダー照明と足元照明が消灯します。



知識

■ハイブリッドシステムインジケーターについて



1 パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

2 エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

3 ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

4 チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

- 走行モードが SPORT モード以外有的时候に表示されます。
- インジケーターの針をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。
- チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■ECO ランプ・SPORT ランプの点灯条件について

- 走行モードが SPORT モードのときは、SPORT ランプ（赤）が点灯します。
- 次の条件を満たして走行しているとき、ECO ランプ（青）が点灯します。
 - ・ シフトポジションが D で、パドル操作をしていないとき
 - ・ 走行モードが NORMAL モードまたは ECO モードで、EV ドライブモードを使用していないとき
 - ・ 車速が 100km/h 以下のとき
 - ・ エコ運転をしているとき

■ タコメーターについて

次の場合、ハイブリッドシステムインジケータからタコメーター表示に切りかわります。

- 走行モードが SPORT モードのとき
- 走行モードが NORMAL モードでシフトポジションを S にしたとき
- 走行モードが NORMAL モードでパドル操作をしたとき (→ P. 157)

ただし、クルーズコントロール*・レーダークルーズコントロール*使用時は、タコメーター表示に切りかわりません。また、タコメーター表示中にクルーズコントロール*・レーダークルーズコントロール*を使用すると、ハイブリッドシステムインジケータ表示に切りかわります。

■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ 外気温度表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車している時や、低速走行 (約 20km/h 以下) のとき
- 外気温度が急激に変化したとき (車庫、トンネルの出入り口付近など)

■ カスタマイズ機能

ECO ランプ・SPORT ランプ・ハイブリッドシステムインジケータ・タコメーターの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧→ P. 374)

注意

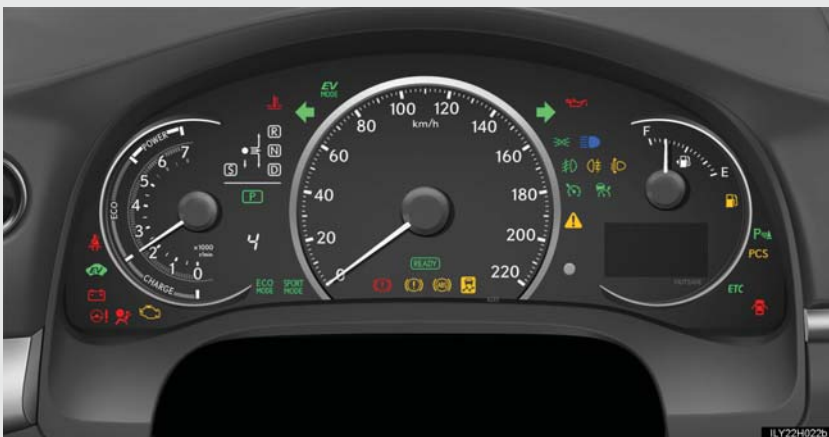
■ ハイブリッドシステムの損傷を防ぐために

- タコメーターが表示されているときは、タコメーターの針がレッドゾーン (エンジンの許容回転数をこえている範囲) に入らないようにしてください。
- 高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。(→ P. 361)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

メーター内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 159)



SPORT MODE 表示灯
(→ P. 154)



尾灯表示灯 (→ P. 173)



クルーズコントロール
表示灯* (→ P. 188, 192)



ヘッドライト
上向き表示灯 (→ P. 173)



レーダークルーズコン
ロール表示灯* (→ P. 192)



フロントフォグライト
表示灯 (→ P. 176)



クリアランスソナー表示灯*
(別冊「ナビゲーションシ
ステム取扱説明書」参照)



リヤフォグライト
表示灯* (→ P. 177)



ETC 表示灯 (→ P. 168)



READY インジケーター
(→ P. 145)



スリップ表示灯
(→ P. 204, 207)

(点滅)



EV インジケーター
(→ P. 24)



PCS 警告灯* (→ P. 209)

(点灯または
速い点滅)



EV ドライブモード表示灯
(→ P. 150)



シフトポジション表示灯
(→ P. 152) / シフトレ
ンジ表示灯 (→ P. 155)



ECO MODE 表示灯
(→ P. 154)

※ 作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 306)



(点滅)

※作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ ETC 表示灯について

ETC ユニットが ETC カードを認証すると点灯します。
ETC については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、走行に関する様々な情報や警告メッセージを表示します。



- エネルギーモニター(→P. 32)
ハイブリッドシステムの状態を表示します。
- トリップインフォメーション(→P. 170)
航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。
- セッティング画面(→P. 374)
メーター内の表示設定を変更できます。
- クリアランスソナー*表示(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)
クリアランスソナー使用時に自動で表示されます。
- レーダークルーズコントロール*表示(→P. 192)
レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。
- 警告メッセージ(→P. 311)
各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

表示切りかえ



項目を切りかえるには、DISP スイッチを押します。

トリップインフォメーション

■ 瞬間燃費／給油後平均燃費



現在の瞬間燃費と給油をしてからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均燃費



リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

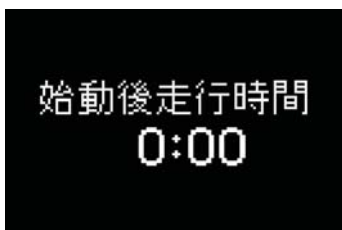
■ 航続可能距離



現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際は“パワー”スイッチを OFF にしてください。万一、“パワー”スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ 始動後走行時間



ハイブリッドシステムを始動してから、またはリセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、始動後走行時間表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。

■ 平均車速



リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。



知識

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 給油後平均燃費
- 平均燃費
- 航続可能距離
- 始動後走行時間
- 平均車速



注意

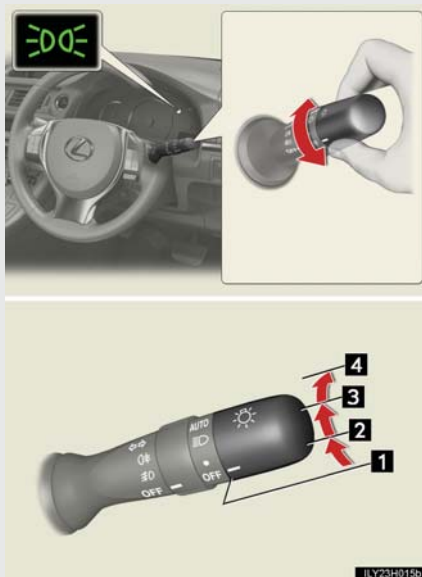
■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ライトスイッチ

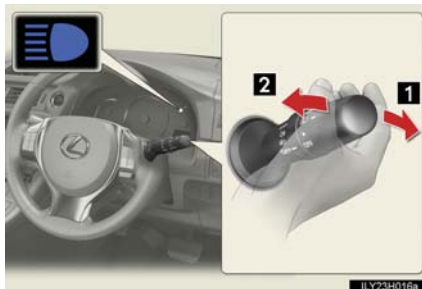
自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。



- 1 OFF** 消灯
- 2 ●** 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯
- 3 ㊦** 上記ライトとヘッドライトを点灯
- 4 AUTO** ヘッドライト・車幅灯などを自動点灯・消灯（“パワー”スイッチがONモードのとき）

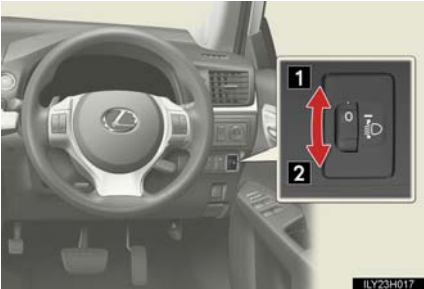
ハイビームにする



- 1** ライト点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- 2** レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。



- 1 上向きに調整
- 2 下向きに調整

目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム 満載時	2.5
運転者	ラゲージルーム 満載時	4

 知識

■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能

“パワー”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしてライトが点灯した状態で運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“パワー”スイッチを ON モードにするか、一度ライトスイッチを **OFF** にもどし、再度  または  の位置にします。

■ オートレベリングシステム（LED ヘッドライト装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧→ P. 374）

 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

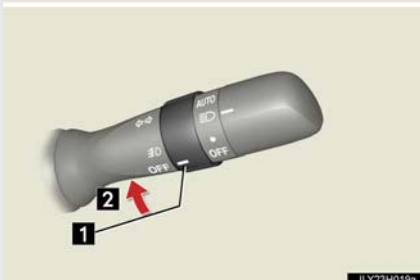
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

フロントフォグライトスイッチ



- 1 **OFF** 消灯する
- 2 **F** 点灯する



ILV23H019a

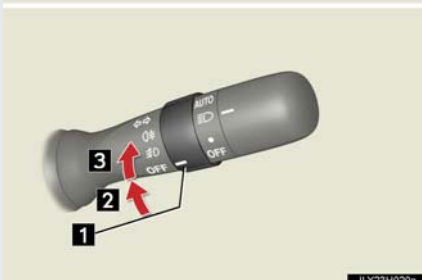
フロント&リヤフォグライトスイッチ*



- 1 **OFF** 消灯する
- 2 **F** フロントフォグライトを点灯する
- 3 **FR** フロント&リヤフォグライトを点灯する

手を離すと **FR** の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。



IL Y23H020a

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



知識

■点灯条件

フロントフォグライト：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグライト*：フロントフォグライトが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグライト*について

- リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。



注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー（フロント）

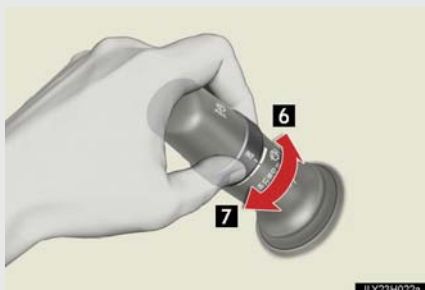
間欠時間調整式ワイパー装着車

“ INT ” を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。ワイパーの間欠時間も調整できます。

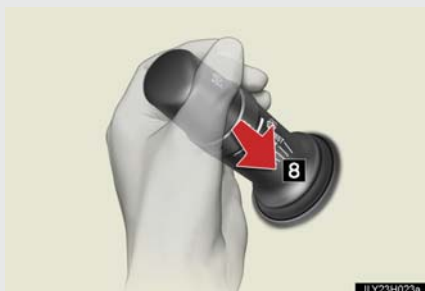


- 1 停止（OFF）
- 2 間欠作動（INT）
- 3 低速作動（LO）
- 4 高速作動（HI）
- 5 一時作動（MIST）



6 間欠ワイパーの作動頻度（減）

7 間欠ワイパーの作動頻度（増）



8 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

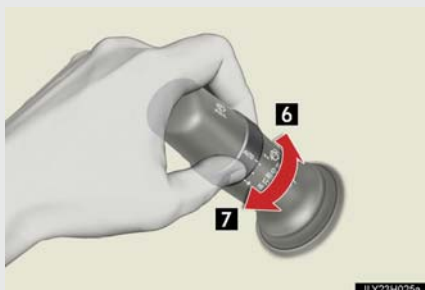
雨滴感知式ワイパー装着車

“ AUTO ” を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

“ AUTO ” が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度も調整できます。

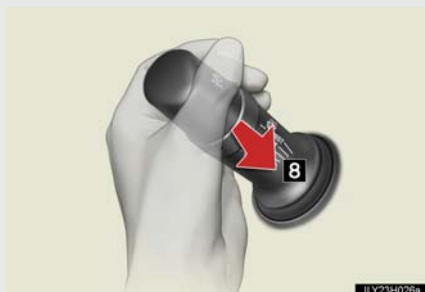


- 1 停止 (OFF)
- 2 雨滴感知オート作動 (AUTO)
- 3 低速作動 (LO)
- 4 高速作動 (HI)
- 5 一時作動 (MIST)



6 雨滴センサーの感度調整（低）

7 雨滴センサーの感度調整（高）



8 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

 知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ 雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）



● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

- “パワー” スイッチが ON モードのときにワイパースイッチを “ AUTO ” にすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 90℃ 以上または - 15℃ 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告

■ AUTO モード時のワイパー作動に関する警告（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。



注意

■ **フロントガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ **ノズルがつまったときは**

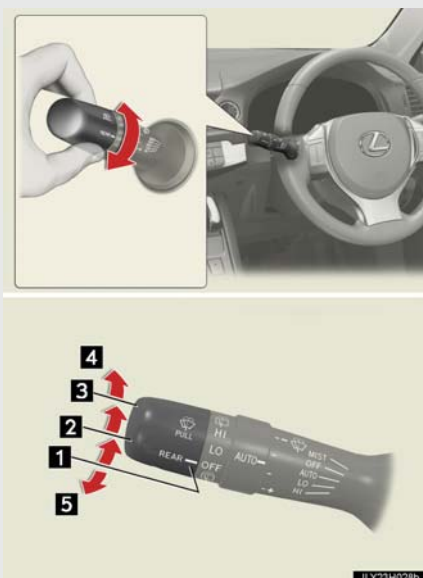
ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーをまわしてワイパーの動作を選択します。



- 1 停止（OFF）
- 2 間欠作動（LO）
- 3 通常作動（HI）
- 4 ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- 5 ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。

知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。



注意

■ **窓ガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ヘッドライトクリーナー*

ヘッドライトにウォッシャー液を噴射します。



スイッチを押してヘッドライトを洗淨する



知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードでヘッドライトが点灯しているとき



注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ヘッドライトクリーナースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

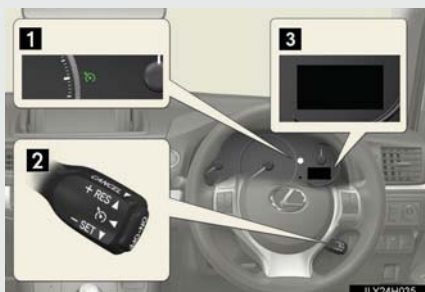
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。



- 1 クルーズコントロール表示灯
- 2 クルーズコントロールスイッチ
- 3 マルチインフォメーションディスプレイ

■ 速度を設定する



“ ON-OFF ” スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF には再度 “ ON-OFF ” スイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



■ 設定速度をかえる

希望の速度になるまでレバーを操作します。



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

マルチインフォメーションディスプレイ内に“SET”と表示されます。レバーを離れたときの速度で定速走行できます。

1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

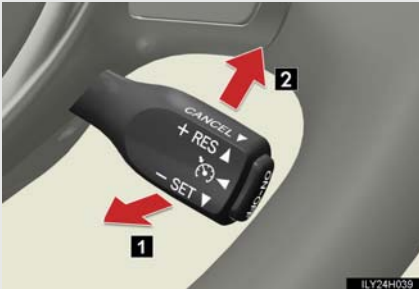
大幅調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます。

微調整：レバー操作するごとに約 1.6km/h

大幅調整：レバーを保持する間

■ 定速走行を解除する・復帰させる



- 1** 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

- 2** 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■ 設定条件について

- シフトポジションが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- 車速は約 40 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ アクセルペダル操作

通常走行と同様にアクセルペダルで加速できます。加速後、設定速度にもどります。

■ 定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
このとき、設定速度は消去されます。
- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
このとき、設定速度は消去されます。
- VSC が作動した

■ 定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズシステムチェック」が表示されたとき

“ON-OFF” スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

 警告**■ 誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、“ON-OFF”スイッチでシステムをOFFにしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

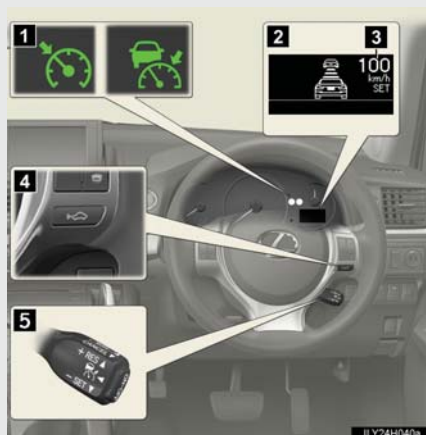
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定速度以上になることがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。



- 1 表示灯
- 2 マルチインフォメーションディスプレイ
- 3 設定速度
- 4 車間距離切りかえスイッチ
- 5 レーダークルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する（車間制御モード）

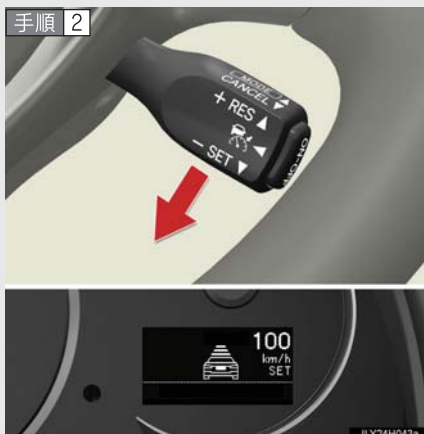


“ ON-OFF ” スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには再度 “ ON-OFF ” スイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げた状態で設定する

マルチインフォメーションディスプレイ内に“SET”と表示されます。レバーを離れたときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度をかえるには

設定速度を変えるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1km/h

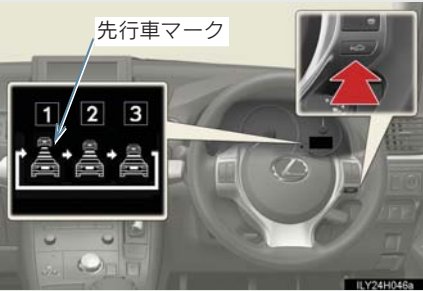
大幅調整：レバーを保持する間、0.75 秒ごとに約 5km/h

定速制御モード（→ P. 197）では、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1.6km/h

大幅調整：レバーを保持する間

■ 車間距離を変更する（車間制御モード）



スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

“パワー”スイッチがONモードになるたびに**1**にもどります。

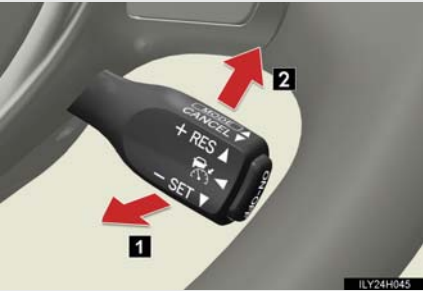
先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。（→ P. 194）
（80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■ 制御を解除する・復帰させる



- 1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

- 2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

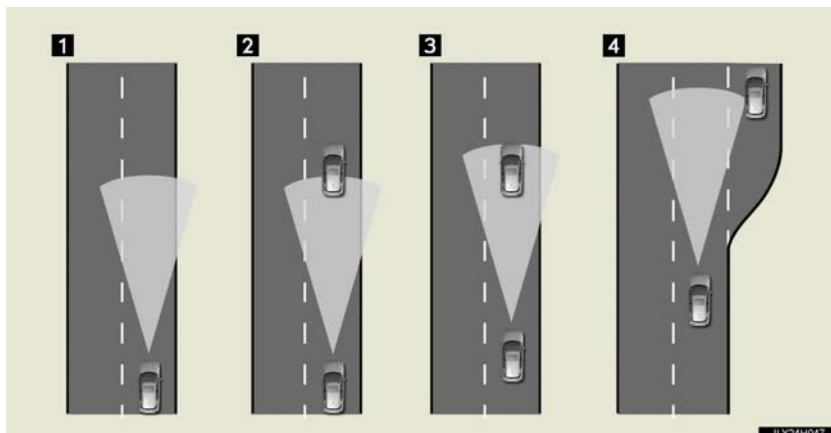
レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。

ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行：

設定した速度より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：

設定した速度より遅い先行車に追従するとき

先行車の速度変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：

設定した速度より遅い先行車がいなくなったとき

設定速度までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

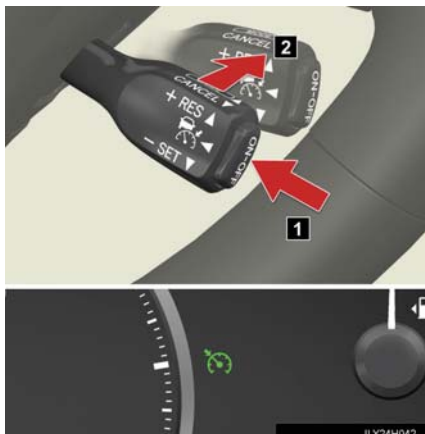
■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。



- 1 “ ON-OFF ” スイッチを押して、システムを ON にする

OFF するには再度 “ ON-OFF ” スイッチを押します。

“パワー”スイッチが ON モードになるたびに車間制御モードに再設定されます。

- 2 定速制御モードに切りかえ
(約 1 秒間レバーを前方に押し続ける)

定速制御モードに切りかえると、クルーズコントロール表示灯が点灯します。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。“パワー” スイッチを OFF にし、再度 “パワー” スイッチを ON モードにした場合は、自動で車間制御モードに戻ります。

設定速度を変えるには→ P. 193

制御を解除する・復帰させるには
→ P. 194



知識

■ 設定条件について

- シフトポジションが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- 車速は約 50 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ モードの切りかえについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切りかえることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへもどすこともできません。システムを OFF にしてから再度操作してください。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定速度以下になることもあります。

■ 車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 実際の速度が約 40km/h 以下になった
- VSC が作動した
- センサーが何かでふさがれて適切に働かない
- ワイパーが高速で作動した（ワイパースイッチを“AUTO”モードまたは高速作動の位置にしたとき）

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
このとき、設定速度は消去されます。
- 実際の速度が約 40km/h 以下になった
このとき、設定速度は消去されます。
- VSC が作動した

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。(→ P. 311)



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは“ON-OFF”スイッチでシステムをOFFにしてください。

 警告**■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定速度以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 196）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎる時（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき



警告

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではありません。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ ナビ・ブレーキアシスト

ナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシストです。
一時停止を見落としている可能性がある場合に、音声で注意喚起し、その後、運転者の急ブレーキ操作に対して、ブレーキの効きを強める機能です。
別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS、TRC、VSC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

→ P. 207

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→ P. 209

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC・TRC が作動しているとき



車両が横すべりしそうなとき、駆動輪が空転したときは、VSC・TRCの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。



知識

■ ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキを強く踏んだり、くり返し踏んだとき、およびハイブリッドシステム停止後 1 ～ 2 分経過時に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPSシステムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速約 55 km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの解除条件

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

⚠ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

 警告

■ **TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ **スリップ表示灯が点滅しているときは**

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ **タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 371）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ **タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ヒルスタートアシストコントロール

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両の後退を緩和し発進を容易に行うことができます。



車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むとヒルスタートアシストコントロールは作動します。

“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。



知識

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

- 次の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。
 - ・ シフトポジションがP以外のとき
 - ・ パーキングブレーキがかかっていないとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
- スリップ表示灯が点灯しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

■ ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでなくても制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。
- ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約2秒間です。
- ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。(車両が後退しない程度) そのあともう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。それでも作動しないときは上記の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

- ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると、“ピッ”とブザーが1回鳴ります。
- ヒルスタートアシストコントロールが作動中に次の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが2回鳴ります。
 - ・ブレーキペダルから足を離して、約2秒間運転操作を行わなかったとき
 - ・Pポジションスイッチを押したとき
 - ・パーキングブレーキをかけたとき
 - ・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
 - ・ブレーキペダルから足を離さずに約3分以上経過したとき

■スリップ表示灯が点灯したときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、車両損傷の低減に寄与します。

■ 衝突警告表示



衝突の可能性が高いと検知したとき、「ビビビ・・・」とブザー音が鳴り、PCS警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→ P. 77）

ただし、VSC システムが作動していないときに、横すべりした場合は作動しません。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯・衝突警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチ操作で、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

プリクラッシュブレーキの切りかえ



1 プリクラッシュブレーキ OFF

2 プリクラッシュブレーキ ON

OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

レーダーセンサー



走行中に進路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度・進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。



知識

■ システムの作動条件

● プリクラッシュシートベルトの作動条件①

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
- ・ フロント席の乗員がシートベルトを着用している

● プリクラッシュシートベルトの作動条件②

- ・ フロント席の乗員がシートベルトを着用している
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシストの作動条件

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● プリクラッシュブレーキの作動条件

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 自車速度が約 15 km/h 以上
- ・ 自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、次の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口の道路脇に障害物があったとき
- カーブで対向車とすれちがったとき
- 狭い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれちがったとき
- 前を走っている車に急に近づいたとき
- 立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき
- 路面の勾配のため、衝突しない位置の金属物が進行方向に見えたとき
- ETCゲートを高速で通過したとき
- 陸橋を通過したとき
- 車両姿勢が極端に変化しているとき
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くなったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ システムの作動しない環境

ブリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況
- 車が横すべりしている状態
- 車両姿勢が極端に変化している状態
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→ P. 308, 312, 318）



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しない場合があります。

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

- センサーとグリルは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、またはその周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明です。ラベルがはがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない

 警告**■ システムの支援内容に関する注意点**

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ トノカバー
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

 警告

- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
(タイヤについて→ P. 261)

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かししたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。



知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う



警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

警告

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 50 km/h（一般路）または 30 km/h（冰雪路）をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ タイヤチェーンの使用について

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	222
・フロントインテリアライト・ パーソナルライト メインスイッチ／ パーソナルライト.....	223
・リヤインテリアライト.....	224

3-2. 収納装備の使い方

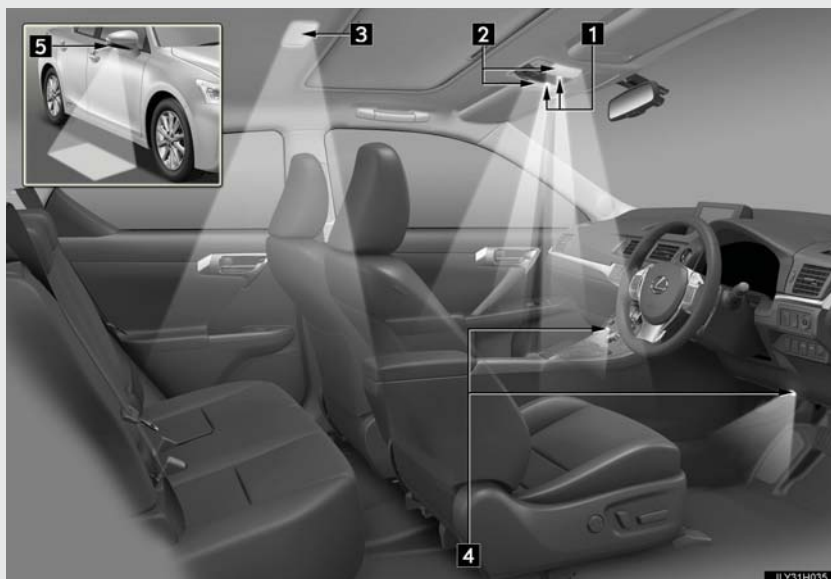
収納装備一覧	225
・グローブボックス	226
・コンソールボックス	227
・カップホルダー	228
・ボトルホルダー	229
・小物入れ	230

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	231
バニティミラー.....	232
アクセサリースOCKET	233
アクセサリーコンセント	235
ステアリングヒーター	241
シートヒーター.....	243
フロアマット	245
ラゲージルーム内装備	247

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧



- 1 カップホルダー照明※（“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モード）
- 2 フロントインテリアライト・パーソナルライト（→ P. 223）
- 3 リヤインテリアライト（→ P. 224）
- 4 足元照明※
- 5 ドアミラー照明

※ インストルメントパネル照度を最も暗く調整すると、カップホルダー照明と足元照明が消灯します。

フロントインテリアライト・パーソナルライトメインスイッチ/パーソナルライト

フロントインテリアライト・パーソナルライトメインスイッチ



- 1 ライトを消灯する
- 2 ドアポジション(ドア連動)を ONにする
- 3 ライトを点灯する

パーソナルライト

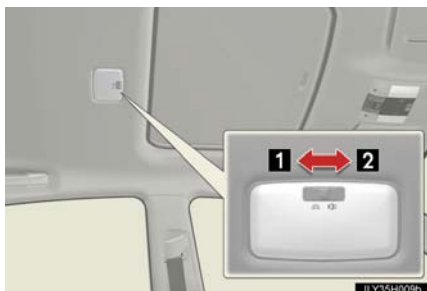


ライトを点灯・消灯する

3

室内装備の使い方

リヤインテリアライト



- 1 ライトを点灯する
- 2 ドアポジション(ドア連動)を ON にする※

※フロントインテリアライトメインスイッチに連動して作動し、メインスイッチが OFF のときはライトが点灯しません。

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“パワー”スイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

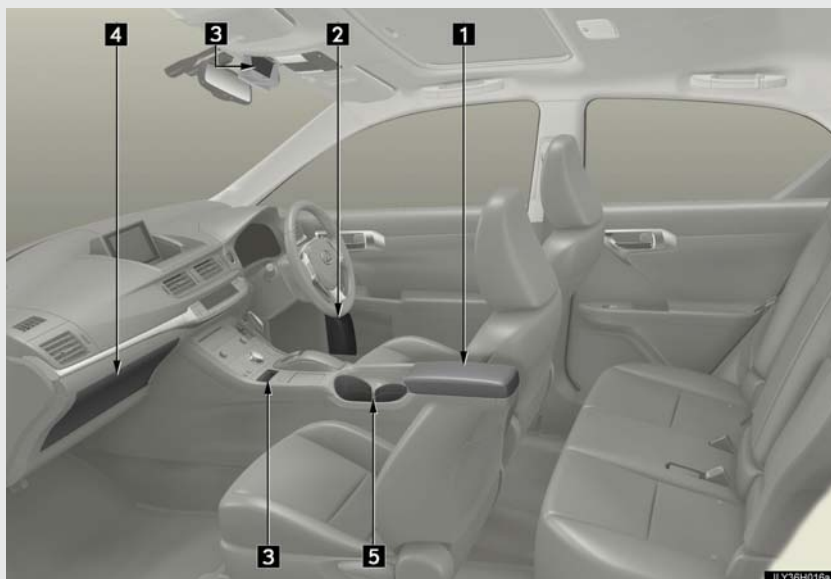
■補機バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧→P. 374)

収納装備一覧



- 1 コンソールボックス
- 2 ボトルホルダー
- 3 小物入れ
- 4 グローブボックス
- 5 カップホルダー

警告

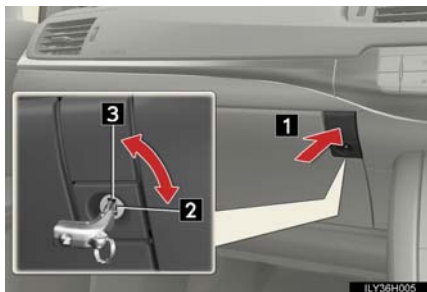
■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

グローブボックスはロック解除ボタンを押して開けたり、メカニカルキーを使って施錠・解錠できます。



1 開ける（ボタンを押す）

2 施錠

3 解錠

警告

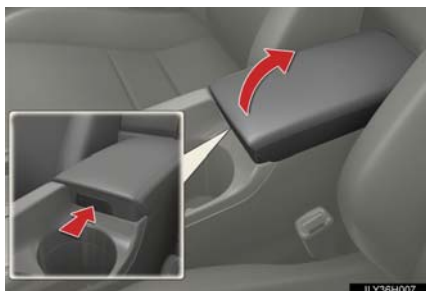
■ 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

コンソールボックス

コンソールボックス



ノブを押しながらフタを持ち上げて開く

 知識

■ コンソールボックス内のトレイについて



トレイを前後に移動する、または引き上げて取り出すことができます。

 警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

カップホルダー



知識

■ カップホルダー中央の仕切り部について



中央の仕切り部に小さめのカップや缶を置くことができます。

警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー

ボトルホルダー



知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。



注意

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ**タイプ A**

オーバーヘッドコンソールのフタを押す

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

タイプ B**警告****■ 走行中の警告（タイプ A）**

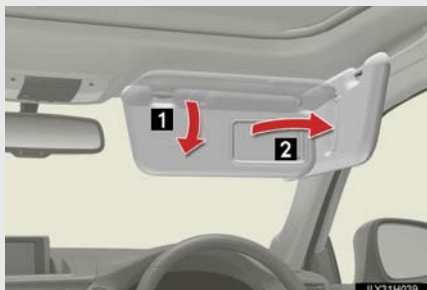
小物入れを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあり危険です。

■ 収納してはいけないもの（タイプ A）

200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れるとホルダーが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

サンバイザー



- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー



カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとライトが点灯します。

注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ライトを点灯しないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方 アクセサリソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

手順 1



フタを押して開ける

手順 2



フタを開ける



知識

■ 使用条件

“パワー”スイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき



■ **ショートや故障を防ぐために**

アクセサリソケットに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ **ヒューズが切れるのを防ぐために**

12 V 10 A をこえないようにしてください。

■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリソケットを長時間使用しないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

アクセサリコンセント*

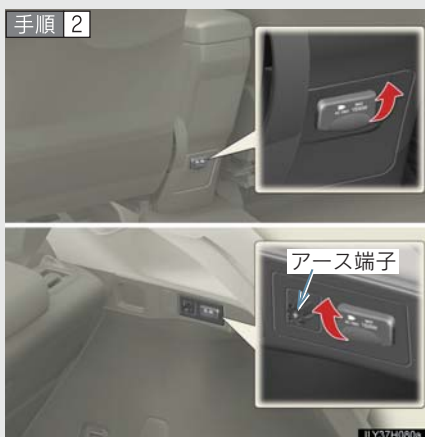
AC100Vで最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。



メインスイッチを押す

スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

スイッチを押すたびに電源の ON / OFF が切りかわります。



フタを開けて使用する

コンセントは、コンソールボックス後方とラゲージルームの 2 か所にあります。

アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルームのコンセントを使用し、アース線を接続してください。

3

室内
装
備
の
使
い
方

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■駐車中または停車中に使用するときは

駆動用電池の残量が少なくなると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車中または停車中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例にふれ罰則の適用を受けるおそれがあります。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については、関係する自治体に確認したうえで、適切に使用してください。

■使用しないときは

メインスイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

■アクセサリーコンセントについて

- AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。
- メインスイッチを ON にした状態で、アクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては挿入時に大きな電流が流れ瞬間電力が 1500W をこえることがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、自動でメインスイッチが OFF になることがあります。電源プラグ挿入後、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
- アクセサリーコンセントを使用中、ラゲージルームから冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器や医療機器など、AC電源の出力が連続して必要な電気製品

■ 使用できないときは

メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントから AC 電源が出力されない場合、再度メインスイッチを ON にしても復帰しないときは、保護機能が作動していることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品のプラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかどうかを確認し、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 32）。残量が少ない場合は、シフトポジションを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 炎天下に放置した直後など車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度メインスイッチを ON にしてください。

以上の処置を行っても復帰しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 寒冷地で使用するときは

外気温が -15°C 以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリコンセントが使用できないことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■ 電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。

電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50Hz / 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。



警告

■安全にお使いいただくために

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーマーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、窓を開けて使用してください。
- 故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 濡れた手で電気製品のプラグを抜き差ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに差ししたりしないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
- アクセサリーコンセントの改造や分解・修理などはいしないでください。また、車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに組みかえないでください。思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。修理については、レクサス販売店にご相談ください。
- 使用する電気製品の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

 警告**■ 駐車中または停車中に使用するとき**

災害時などやむを得ず駐車中または停車中に使用するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P にしてください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- 車庫内や雪が積もった場所などでは、排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。(→ P. 142)
- 状況によっては、自動でエンジンが始動するため、排気管付近に近づいたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手などを近づけないでください。
- 車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の侵入などに注意してください。アクセサリコンセントに雨水などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。また、電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

 注意

■ ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損したりするおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- アクセサリーコンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、使用中に AC アダプターが脱落したりするおそれがあります。
- お子さまに、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。
- アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。
- アクセサリーコンセントにはこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- 駆動用電池の残量によっては、アクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

3-3. その他の室内装備の使い方

ステアリングヒーター*

ハンドルの左右のグリップ部分を暖めることができます。



システムの ON / OFF を切りかえる

作動中はインジケーターが点灯します。

知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ タイマー機能

約 30 分後に自動で OFF になります。

■ インジケーターが点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを押してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、レクサス販売店で点検を受けてください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備



警告

■ やけどについて

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がふれないように注意してください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- ステアリングヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、ステアリングヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

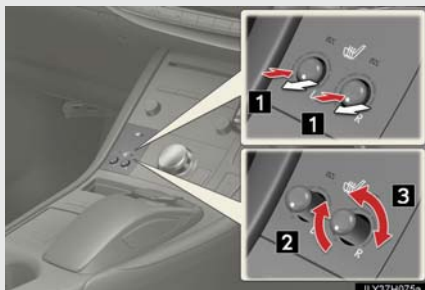


注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止しているときは、スイッチを OFF にしてください。

シートヒーター*



1 ノブを押して引き出す

2 シートを暖める

インジケーター（黄）が点灯します。

3 温度を調節する

ノブを時計回りに回すと高温になります。



知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ 使用しないときは

ノブを反時計回りにいっぱいまで回してください。インジケーターが消灯します。
ノブをもとの位置に押しもどしてください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告

■ **やけどについて**

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

 注意

■ **シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

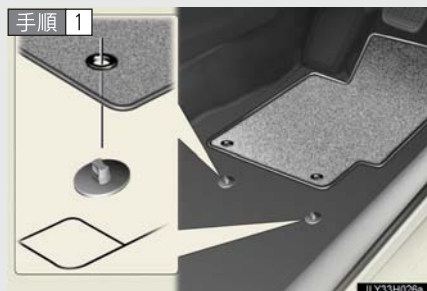
■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムが停止しているときは、スイッチを切ってください。

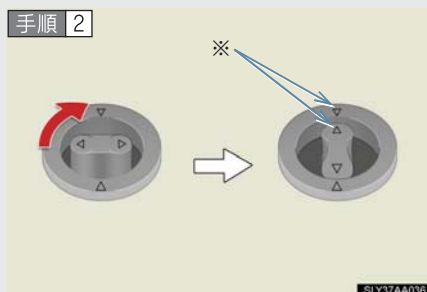
3-3. その他の室内装備の使い方

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。



固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※△マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くときは

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に



- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

3-3. その他の室内装備の使い方 ラゲージルーム内装備

■ デッキフック



フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。

■ デッキアンダートレイ 中央



中央のデッキボードを引き上げる

右側



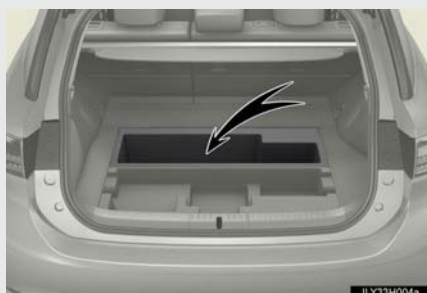
右側のデッキボードを引き上げる

左側



左側のデッキボードを引き上げる
トノカバーの収納時のみ使用しま
す。

■ 三角表示板等収納スペース タイプ A



デッキアンダートレイに三角表示
板等を収納することができます。

タイプ B



タイプC



■ トノカバー



カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける

3

室内装備の使い方

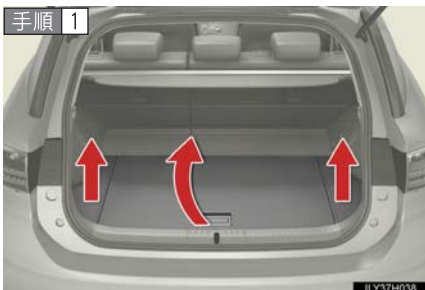
トノカバーの取りはずし



トノカバー本体の両端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす

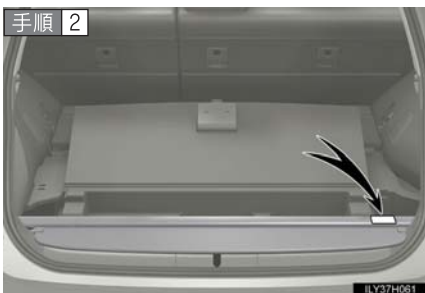
トノカバーの収納

手順 1



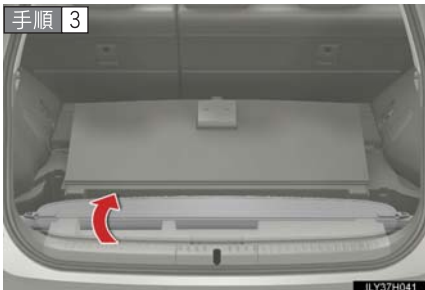
左右のデッキボードを取りはずし、中央のデッキボードを持ち上げて半分に折りたたむ

手順 2



はずしたトノカバーは、ラベルを上にしてラゲージトレイにはめ込む

手順 3



トノカバーの後端を前方に裏返して収納し、デッキボードをもとどおり取り付ける



知識

■ 収納について

三角表示板等のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



警告

■ 三角表示板等を収納するときは

確実に収納されていることを確認してください。確実に収納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板等が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

■ デッキボードについて

デッキボードを取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。取りはずしたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ トノカバーについて

トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損し、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	254
内装の手入れ	258
タイヤについて	261

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	265
ガレージジャッキ	268
エンジンルームカバー	270
電球（バルブ）の交換	271
ヒューズの点検、交換	285
電子キーの電池交換	294
ウォッシャー液の補給	296

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へよごれを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- よごれがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ポデーの表面のよごれを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください)

なお、ポデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。



知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナ・リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■ 洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください（キーの盗難に注意してください）。

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・ フロントドアガラス表面の泥などのよごれを落とす
 - ・ よごれは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ レインクリアリングミラー*の親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P. 86）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

- 手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す
- 手順 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす
- 手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す
- 手順 4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る
- 手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■ **洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ **フロントウィンドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）**



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

- 雨滴センサー上部のフロントウィンドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウィンドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ **排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

**注意****■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しくよごれたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、よごれをふき取る
ウール用の中性洗剤を約 5 % の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかなよごれを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてからよごれを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーベットの洗浄

カーベットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラスについて

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。



警告

■ 車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→ P. 28) 駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→ P. 109)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能なくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次の警告をお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ピニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパー UV カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

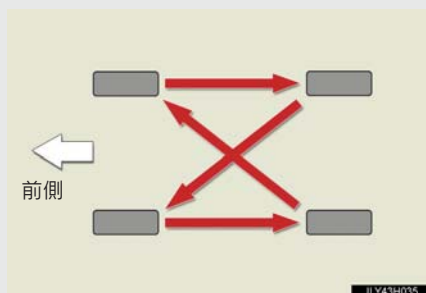
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた



図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

■ タイヤ空気圧の数値



195/65R15 91S

前輪：270 kPa (2.7 kg/cm²) ※

後輪：270 kPa (2.7 kg/cm²) ※

205/55R16 91V

前輪：220 kPa (2.2 kg/cm²) ※

後輪：220 kPa (2.2 kg/cm²) ※

215/45R17 87W

前輪：230 kPa (2.3 kg/cm²) ※

後輪：220 kPa (2.2 kg/cm²) ※

応急用タイヤ*：420 kPa (4.2 kg/cm²) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※タイヤが冷えているときの空気圧

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ 低扁平タイヤについて (215/45R17 87W 装着車)

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■ 低扁平タイヤの空気圧点検 (215/45R17 87W 装着車)

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1ヶ月に1回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

**警告****■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■ タイヤ交換時の注意



- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。

テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。

ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

■ 低扁平タイヤについて (215/45R17 87W 装着車)

低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する

空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

- 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける

タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。

タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

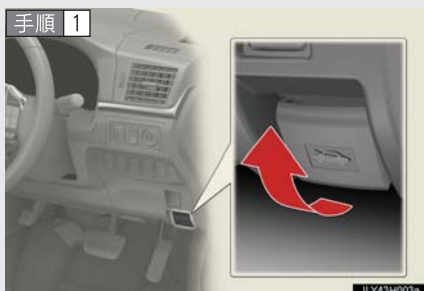
■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

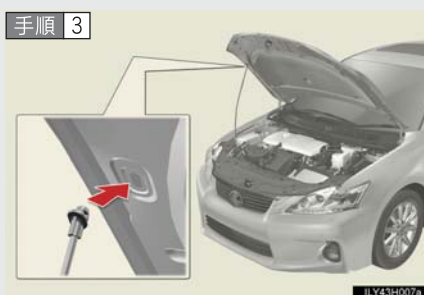
車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。



ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



レバーを引き上げてボンネット
を開ける



ボンネットステーをステー穴に
挿し込む

 知識

■ 補機バッテリーについて



この車両の補機バッテリーは、ラゲージルーム（運転席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 356）

 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ボンネットを開けるときは

ボンネットを開ける前に“パワー”スイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、“パワー”スイッチを OFF にしたあとも最大 3 分間作動しますので注意してください。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告**■ ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■ 補機バッテリーの交換について

交換する際は CT200h 専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

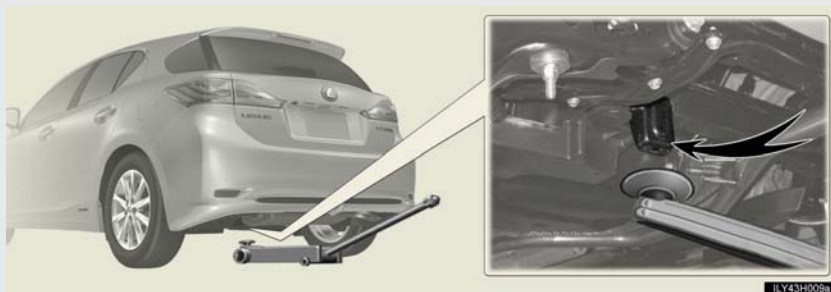
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

フロント側



リヤ側



⚠ 警告

■ 車両を持ち上げるときには

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



● 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取り扱い説明書を十分に確認の上、使用する
- 車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する
- 車両がジャッキアップされた状態でハイブリッドシステムを始動しない
- 平らで硬い地面に停車させ、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にする
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かない

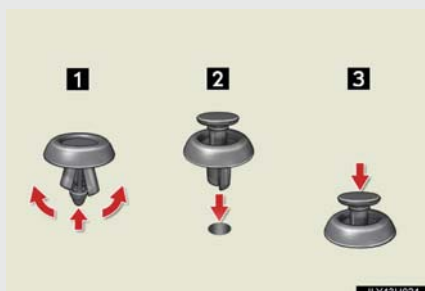
4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方



■ クリップの取り付け方



1 中央部を押し上げる

2 入れる

3 押す

⚠ 警告

■ けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“パワー”スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ エンジンルームカバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

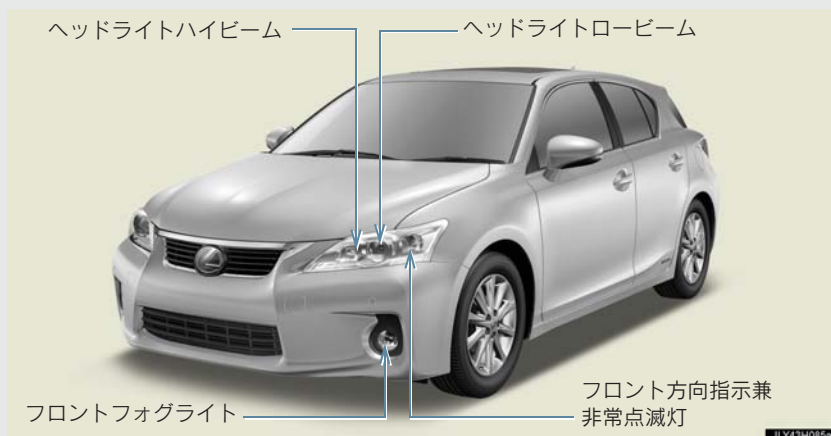
切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 372）

■ エンジンルームカバーの取りはずし

→ P. 270

■ フロントのバルブ位置

ハロゲンヘッドライト装着車



LED ヘッドライト装着車

ヘッドライトハイビーム
フロント方向指示兼非常点滅灯

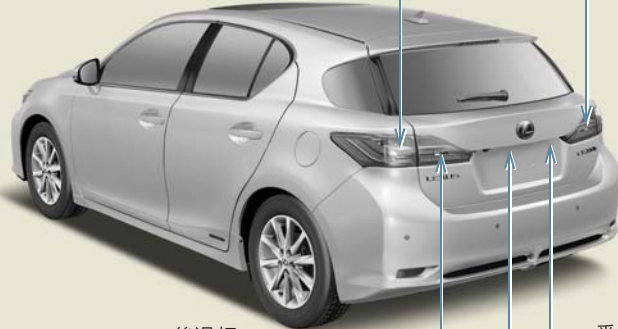
フロントフォグライト



ILY43H007

■ リヤのバルブ位置

後退灯／リヤフォグライト*
リヤ方向指示兼非常点滅灯
後退灯
番号灯



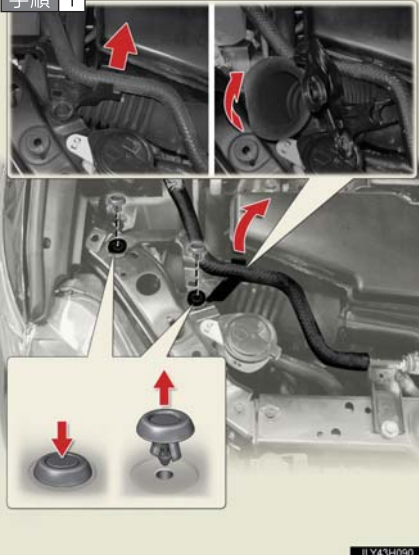
ILY43H008

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドライト ロービーム（ハロゲンヘッドライト装着車）

手順 1



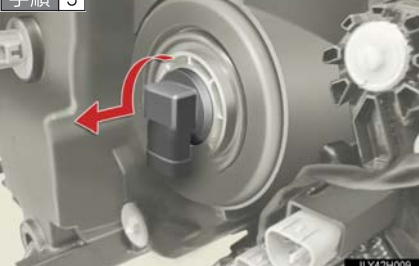
運転席側を交換するときは、クリップ（2 本）を取りはずし、ラジエーターリザーバタンクのホースをはずして、エアクリーナーの吸入口を持ち上げる

手順 2



コネクターを取りはずす

手順 3



電球を取りはずす

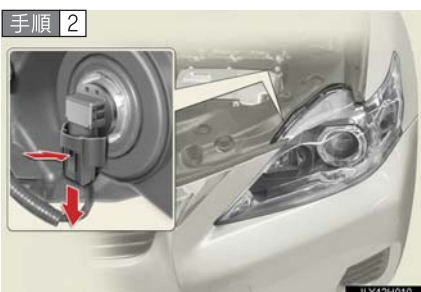
■ ヘッドライト ハイビーム（ハロゲンヘッドライト装着車）

手順 1



運転席側を交換するときは、ウォッシャー液補給口を取りはずす

手順 2



コネクターを取りはずす

手順 3



電球を取りはずす

■ ヘッドライト ハイビーム (LED ヘッドライト装着車)

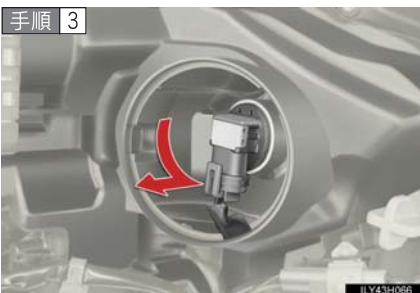
手順 1 運転席側を交換するときは、クリップ (2 本) を取りはずし、ラジエーターリザーバタンクのホースをはずして、エアクリーナーの吸入口を持ち上げる (→ P. 273)

手順 2



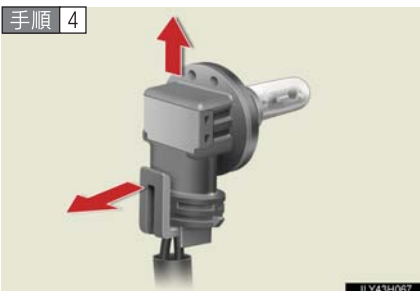
カバーを取りはずす

手順 3



ソケットを取りはずす

手順 4



電球を取りはずす

■ フロントフォグライト

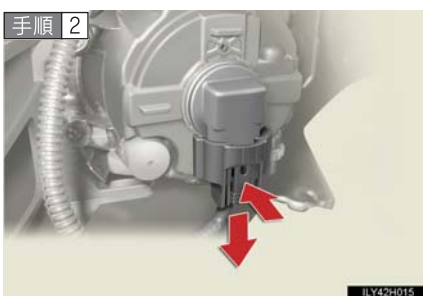
手順 1



フォグライト下側のカバーの固定スクリュー（2 本）・固定ボルト（1 本）とクリップ（1 本）を取りはずし、カバーを引き下げてめくる

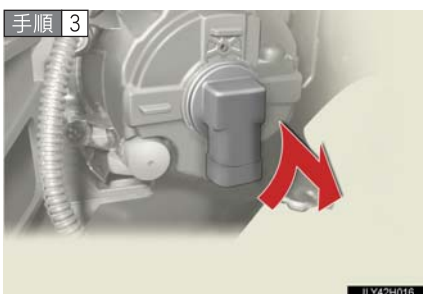
カバー固定用の部品がはずれないようゆっくり作業してください。

手順 2



コネクターを取りはずす

手順 3



電球を取りはずす

■ フロント方向指示兼非常点滅灯（ハロゲンヘッドライト装着車）

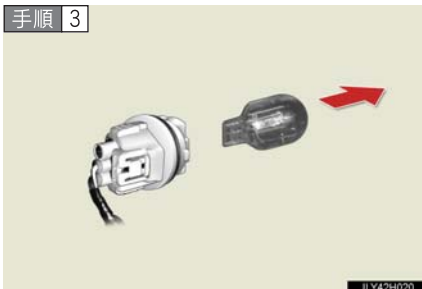
手順 1 運転席側を交換するときは、クリップ（2 本）を取りはずし、ラジエーターリザーバタンクのホースをはずして、エアクリーナーの吸入口を持ち上げる（→ P. 273）

手順 2



ソケットを取りはずす

手順 3



電球を取りはずす

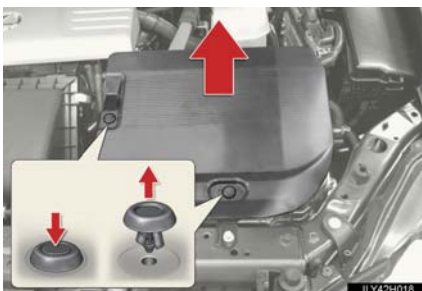
■ フロント方向指示兼非常点滅灯（LED ヘッドライト装着車）

手順 1 バルブを交換するときは：

運転席側

ウォッシャー液補給口を取りはずす（→ P. 274）

助手席側



パワーコントロールユニットカバーを取りはずす

手順 2 ソケットを取りはずす

運転席側

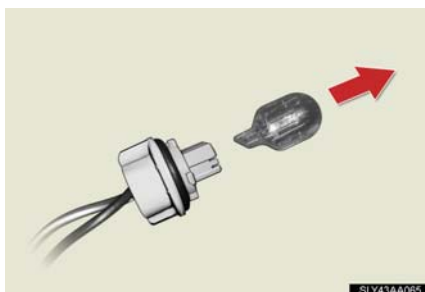


助手席側

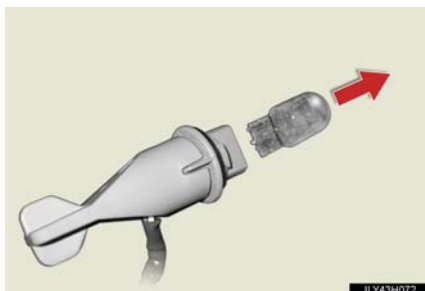


手順 3 電球を取りはずす

運転席側

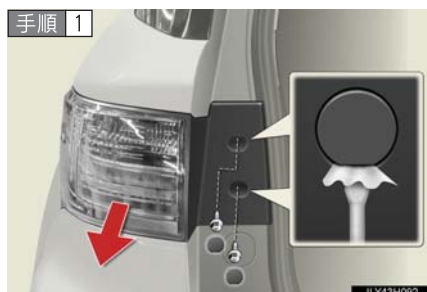


助手席側



ILY43H072

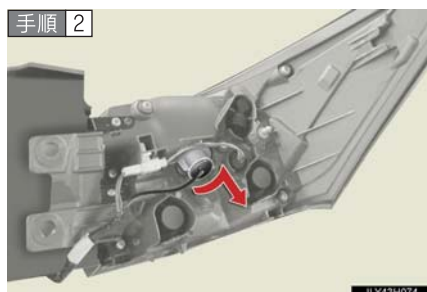
■ リヤ方向指示兼非常点滅灯



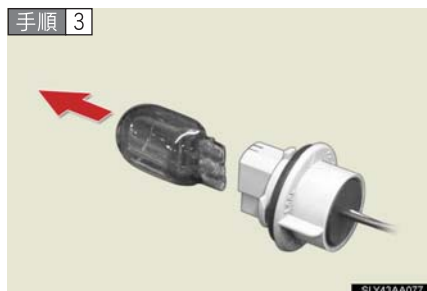
ILY43H092

バックドアを開け、カバーとボルトを取りはずし、ライト本体を車両後方に引いて取りはずす

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



ILY43H074



SLY43AA077

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

■ 後退灯／リヤフォグライト*

手順 1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

後退灯



リヤフォグライト装着車は、助手席側のみに装着されています。

リヤフォグライト



運転席側に装着されています。

手順 2 ソケットを取りはずす

後退灯



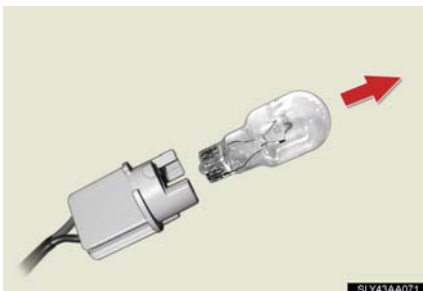
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

リヤフォグライト

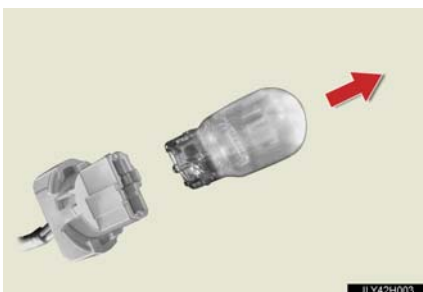


手順 3 電球を取りはずす

後退灯



リヤフォグライト



■ 番号灯

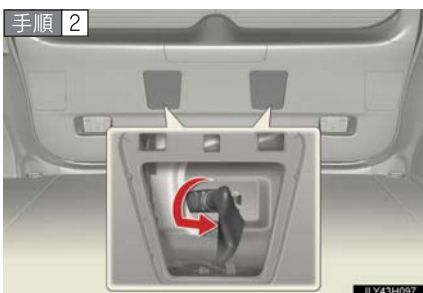
手順 1



バックドアを開け、カバーを取りはずす

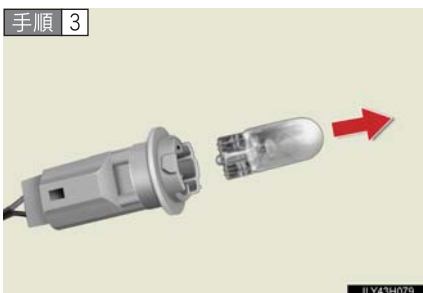
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

手順 2



ソケットを取りはずす

手順 3



電球を取りはずす

■ 次の電球を交換するには

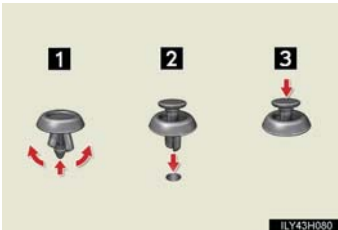
次の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライト ロービーム（LED ヘッドライト装着車）
- 車幅灯
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップライト
- ドアミラー照明



知識

■ 電球を交換したあとは



エアクリーナーの吸入口を持ち上げたり、パワーコントロールユニットカバーを取りはずしたりした場合は、吸入口やカバーをそれぞれの場所にクリップでもとどおりに取り付けてください。

- 1 中央部を押し上げる
- 2 入れる
- 3 押す

■ LED ライトについて

ヘッドライト（LED ヘッドライト装着車のロービーム）・車幅灯・サイド方向指示兼非常点滅灯・尾灯・制動灯・ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ライト内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するときは

→ P. 293



警告

■ 電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 “パワー” スイッチを OFF にする

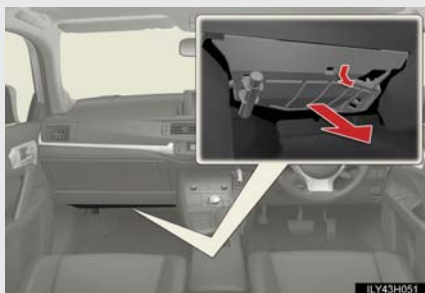
手順 2 ヒューズボックスを開ける

エンジンルーム

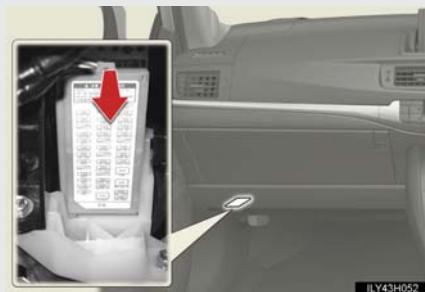


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

助手席足元



足元のカバーを取りはずして、ヒューズボックスカバーを取りはずす



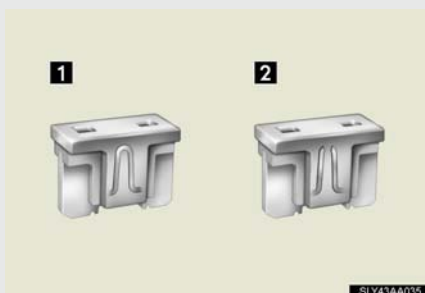
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」で確認する (→ P. 287)

手順 4 ヒューズを引き抜く



ヒューズは必ずヒューズを引き抜くことができます。

手順 5 ヒューズが切れていないか点検する



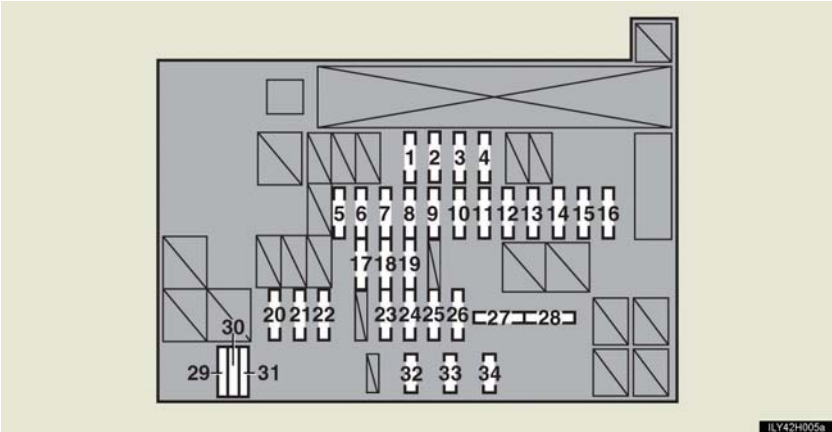
1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

エンジンルーム



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	RAD NO.1	15 A	ナビゲーションシステム、オーディオシステム、ETC、リモートタッチ
2	S-HORN	10 A	S-HORN
3	ENG W/P	30 A	冷却システム
4	ABS MAIN NO.2	7.5 A	電子制御ブレーキシステム
5	AMP NO.2	30 A	オーディオシステム、ナビゲーションシステム
6	ETCS	10 A	EFI システム
7	IGCT	30 A	PCU、IGCT NO.2、IGCT NO.3
8	DC/DC-S	5 A	インバーター、コンバーター
9	P CON MAIN	7.5 A	P ポジション制御システム

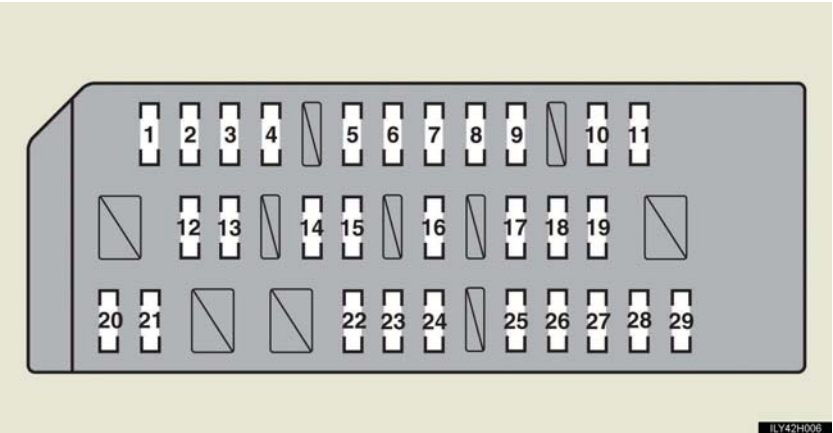
4

お
手
入
れ
の
し
か
た

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
10	AM2	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム、ハイブリッドシステム、EFI システム、P ポジション制御システム、クルーズコントロールシステム、レーダークルーズコントロールシステム
11	ECU-B2	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム、EFI システム
12	MAYDAY	10 A	ヘルプネット
13	ECU-B3	10 A	エアコン
14	TURN & HAZ	10 A	方向指示灯、非常点滅灯
15	AMP NO.1	30 A	オーディオシステム、ナビゲーションシステム
16	ABS MAIN NO.1	20 A	電子制御ブレーキシステム
17	H-LP HI MAIN	20 A	ヘッドライト（ハイビーム）
18	DRL	7.5 A	未使用
19	DOOR NO.2	25 A	パワードアロックシステム
20	PCU	10 A	ハイブリッドシステム
21	IGCT NO.2	10 A	スマートエントリー&スタートシステム、ハイブリッドシステム、P ポジション制御システム
22	IGCT NO.3	10 A	ハイブリッドシステム
23	DOME	10 A	室内灯、オーバーヘッドモジュール
24	ECU-B	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム、エアコン、メーター、電動ミラー、シートポジションメモリー、非常点滅灯、時計

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
25	H-LP LH HI	10 A	ヘッドライト左側（ハイビーム）
26	H-LP RH HI	10 A	ヘッドライト右側（ハイビーム）
27	EFI NO.2	10 A	EFI システム、電動ファン
28	M-HTR	10 A	ミラーヒーター
29	SPARE	30 A	予備ヒューズ
30	SPARE	10 A	予備ヒューズ
31	SPARE	7.5 A	予備ヒューズ
32	EFI MAIN	20 A	EFI NO.2、フューエルシステム、エンジン冷却システム
33	BATT FAN	10 A	駆動用電池冷却ファン
34	IG2	20 A	ハイブリッドシステム、EFI システム、MET、IGN、パワーマネージメントシステム

助手席足元



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	TAIL	10 A	手動光軸調整ダイヤル、ヘッドライト (LED)、車幅灯、尾灯、番号灯、フロントフォグライト、リヤフォグライト
2	PANEL	10 A	オーディオシステム、クリアランスソナースイッチ、ワイパーデアイサー、ディスプレイユニット、ナビゲーションシステム、フューエルリッド、グローブボックスライト、ヘッドライトクリーナー、リモートタッチ、非常点滅灯、手動光軸調整ダイヤル、エアコン、ミラースイッチ、ドライブモードセレクトスイッチ、EV モードスイッチ、P ポジションスイッチ、インストルメントパネル照度調整ダイヤル、シフトポジション表示灯、シートヒータースイッチ、スパイラルケーブル、ステアリングヒータースイッチ、PCB OFF スwitch、車両接近通報一時停止スイッチ

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
3	IGN	10 A	電子制御ブレーキシステム、EFI システム、ヘルプネット、スマートエントリー & スタートシステム、制動灯、エアバッグシステム
4	MET	7.5 A	メーター
5	WIP	30 A	ワイパー
6	RR WIP	20 A	リヤワイパー
7	WASHER	15 A	ウォッシャー
8	A/C	10 A	エアコン
9	GAUGE	10 A	ワイパーデアイサースイッチ、オートレベリングシステム
10	ECU-IG NO.2	10 A	雨滴感知式ワイパー、バックガイドモニターシステム、クリアランスソナーシステム、ダイヤグシステム、電子制御ブレーキシステム、ナビゲーションシステム、電動パワーステアリング、非常点滅灯、G&YAW センサー、ヘッドライトクリーナー、電動ミラー、ドライブモードセレクトスイッチ、オーバーヘッドモジュール、PCS、ステアリングヒーターシステム、レーダークルーズコントロール、車両接近通報装置
11	ECU-IG NO.1	10 A	OPTION_CONN2/P
12	DOOR RL	25 A	リヤ助手席側パワーウインドウ
13	DOOR RR	25 A	リヤ運転席側パワーウインドウ
14	D FR DOOR	25 A	運転席側パワーウインドウ、電動ミラー
15	P FR DOOR	25 A	助手席側パワーウインドウ、電動ミラー
16	STOP	10 A	制動灯、電子制御ブレーキシステム、車両接近通報装置
17	RR FOG	7.5 A	リヤフォグライト
18	FUEL OPEN	7.5 A	フューエルリッドオープナー
19	OBD	7.5 A	ダイヤグノーシスコネクター
20	FR FOG	15 A	フロントフォグライト

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
21	DBL LOCK	25 A	未使用
22	STRG HTR	10 A	ステアリングヒーター
23	DOOR NO.1	25 A	パワードアロックシステム
24	SEAT HTR FL	10 A	助手席側シートヒーター
25	SEAT HTR FR	10 A	運転席側シートヒーター
26	RAD NO.2	7.5 A	オーディオシステム、バックガイドモニターシステム、ディスプレイユニット、ナビゲーションシステム、ETC、リモートタッチ、ヘルプネット、オーバーヘッドモジュール
27	PWR OUTLET	15 A	アクセサリースOCKET
28	ECU-ACC	10 A	電動ミラー
29	PWR OUTLET2	15 A	未使用

 知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 271)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。

一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

4-2. 簡単な点検・部品交換

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換のしかた

手順 1



メカニカルキーを抜く

手順 2



カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

手順 3



消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



知識

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキー*の電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる



警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ウォッシャー液の補給



ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する

警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

5-1. まず初めに

故障したときは.....	298
非常点滅灯	299
発炎筒	300
けん引について.....	302

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	306
警告メッセージが表示された ときは	311
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)	325
パンクしたときは (タイヤパンク応急修理キット 装着車)	336
ハイブリッドシステムが始動 できないときは.....	350
キーを無くしたときは	352
電子キーが正常に働かない ときは	353
補機バッテリーがあがった ときは	356
オーバーヒートした ときは	361
スタックしたときは.....	365
車両を緊急停止するには	366

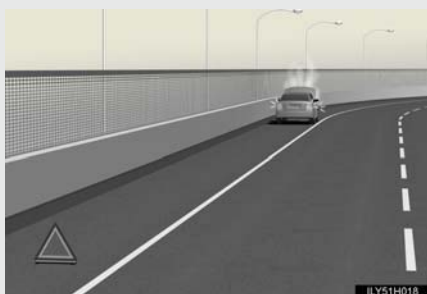
5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。



非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
(→ P. 299)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



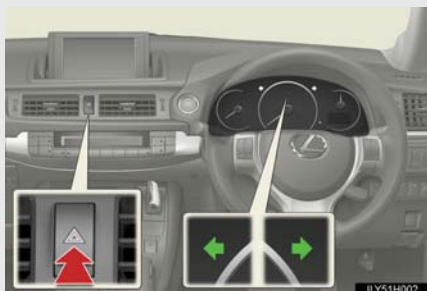
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています)



緊急を要するときは発炎筒で合図します。(P. 300)

5-1. まず初めに 非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向
指示灯が点滅し、もう一度押すと
消灯します。

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

5-1. まず初めに 発炎筒

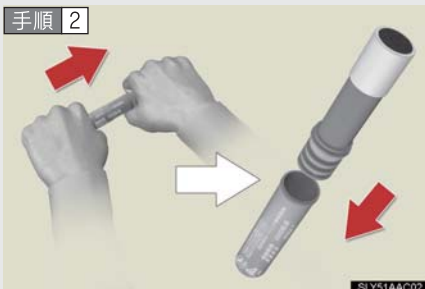
事故や故障のときなど、緊急時に使用してください。
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

手順 1



助手席足元の発炎筒を取り出す

手順 2



本体をまわしながら抜き、本体を
逆さにして挿し込む

手順 3



先端のフタを取り、すり薬と発炎
筒の先端をこすり、着火させる



知識

■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期限が切れる前に、新しいものに交換してください。



警告

■ 発炎筒が使用できない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

■ けん引される前に

次の場合は、けん引を行う前に、レクサス販売店へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムは始動するが、車が動かない
- 異常な音がする

P ポジション制御システム・スマートエントリー&スタートシステム・イモビライザーシステムに異常があるとき、または補機バッテリーがあがったときは、前輪が固定されている可能性があるため、前輪が接地した状態で車両をけん引することはできません。その場合は、前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げて運搬してください。

■ けん引されるときは

手順 1 けん引フックを取り付ける (→ P. 303)

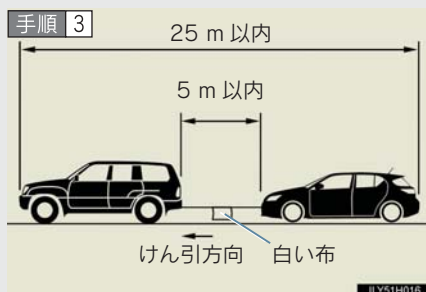
手順 2



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 3



ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

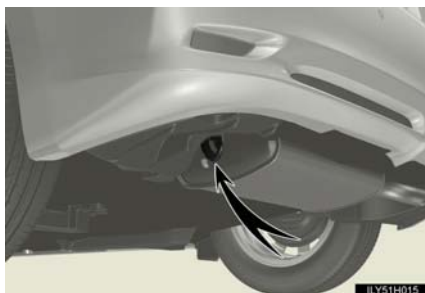
0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

手順 4 けん引される車両のハイブリッドシステムを始動する

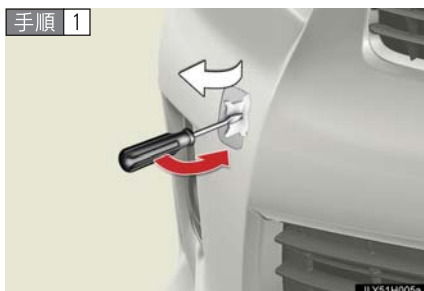
ハイブリッドシステムが始動しないときは、“パワー”スイッチを ON モードにしてください。

手順 5 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

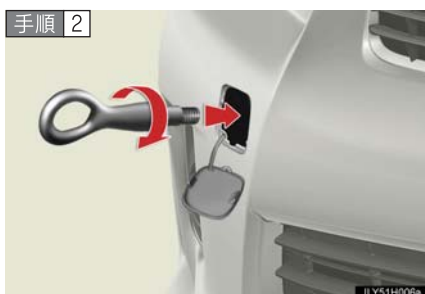
緊急時のけん引

リヤの固縛用フックを緊急用フックとしても使用できます。雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するものです。他車をけん引することはできません。

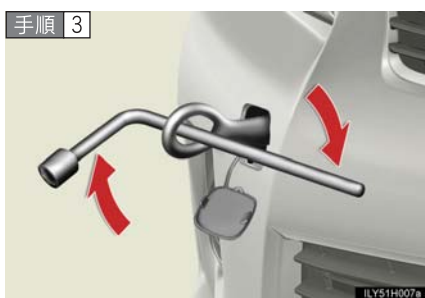
けん引フックの取り付け方**手順 1**

マイナスドライバーを使って運転席側のフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



けん引フックを穴に挿し込み軽く締める



ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ けん引フックの収納位置

→ P. 325, 336

警告

■ 車両を運搬するときは

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
車輪が接地した状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターから電気が発電され、故障や破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

**警告****■けん引中の運転について**

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- “パワー”スイッチをOFFにしないでください。
パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■車の損傷を防ぐために**

- けん引するときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度は 30 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やポート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
 (赤色)	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

※ **ブレーキ警告ブザー：**
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。
パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 315

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電システムの異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常
	高水温警告灯 エンジン冷却水高温異常 水温の上昇にともない、点滅から点灯にかかります。(→ P. 361)

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS の異常
 (点滅)	PCS 警告灯* プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、早い点滅でお知らせします。 (→P. 209) ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点灯します。 (→P. 210) ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。 (→P. 318)
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常
 (黄色)	電子制御ブレーキ警告灯 ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常
	LED ヘッドライトオートレベリング警告灯* 自動光軸調整システムの異常

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※ 1 いずれかのドアが確実に閉 まっていない	全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 6.8L 以下に なった	燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席・助手席シートベルト の非着用	シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時に点灯・点 滅しマルチインフォメーショ ンディスプレイ上に警告メッ セージを表示します。	→ P. 311

※ 1 半ドア走行時警告ブザー：
→ P. 314

※ 2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザー
が 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のまま 30 秒を経過する
と、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。



知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。



警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



- 1** マスターウォーニングライト
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。
- 2** マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
ハイブリッド システムチェック 	ハイブリッドシステムの異常

ただちに点検を受けてください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
P ロック異常 駐車時は確実にパーキングブレーキをかけて下さい 	P ポジション制御システムの異常 この場合は、パーキングロック機構が働かない可能性があります。 駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。P ポジション制御システムが故障すると、“パワー” スイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合はパーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。
ヘッドランプシステムチェック  (点滅)	LED ヘッドライトシステム*の異常
PCSシステムチェック PCS (点滅) 	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*の異常

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
 	クリアランスソナー*の異常 異常のあるソナーが点滅して表示されます。 クリアランスソナーについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。
クルーズ システムチェック 	クルーズコントロールシステム*またはレーダークルーズコントロールシステム*の異常 “ON-OFF” スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
ナビ・ブレーキアシスト システムチェック 	ナビ・ブレーキアシストの異常 ナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシスト機能（ナビ・ブレーキアシスト）が作動できない状態を表します。通常の走行に支障はありません。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
    	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/hをこえたときにはブザーが鳴ります。	各ドアを閉める
ボンネット 	ボンネットが確実に閉まっていない	ボンネットを閉める
バックドア  	バックドアが確実に閉まっていない バックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/hをこえたときにはブザーが鳴ります。	バックドアを閉める

警告メッセージ	警告内容	対処方法
ムーンルーフが 開いています  (点滅)	ムーンルーフ*が確実に閉 まっていない状態で“パ ワー”スイッチを OFF にし て運転席ドアを開けた	ムーンルーフを閉める
パーキングブレーキを 解除して下さい   (点滅)	パーキングブレーキをかけ たまま、車速が5km/h を こえた	パーキングブレーキを解除 する
 	クリアランスソナー*のセ ンサー部分の汚れ、氷など の付着 異常のあるソナーと車両 マークが点滅して表示さ れます。	汚れおよび氷などを取り除 く
レーダー汚れ 清掃必要 	レーダークルーズコント ロール*のセンサー部分の 汚れ、氷などの付着	汚れおよび氷などを取り除 く

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 	レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可	ワイパーを止めるか、低速作動または間欠作動にかえる
 	衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティシステム*）	ブレーキで減速する
 (点滅)	(レーダークルーズコントロール*の車間制御中) 衝突の危険性	ブレーキで減速する
 	ハイブリッドシステムの過熱 負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。	車両を停車して点検する (→ P. 362)
 (点滅)	駆動用電池の残量が低下	シフトポジションが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトポジションを P にする

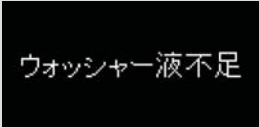
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
駆動用電池保護モード P レンジで 再始動して下さい  (点滅)	長時間シフトポジションが N になっているため駆動用電池の残量が低下	車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動する
駐車時は P レンジに 入れて下さい  (点滅)	シフトポジションが P 以外で、運転席ドアを開けた	シフトポジションを P にする
N レンジです  (点滅)	シフトポジションが N のとき、アクセルペダルを踏んだ	アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にする
EVモードに現在 切替できません	EV ドライブモードに切りかえできない状況※ EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。	EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用する
EVモードが 解除されました  (3 回点滅)	EV ドライブモードが自動解除された※ EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。	しばらく走行する

※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 150 を参照してください。

ただちに処置してください

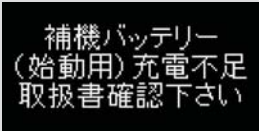
次の警告メッセージが表示されたときは、対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	ウォッシャー液が残りわずかか	ウォッシャー液を補充する
	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*が現在機能していない システムの過熱保護のため一時的に機能していない場合にも表示されます。	・グリルまたはセンサーの汚れを取り除く ・システムの過熱保護のため点灯する場合もありますが、この場合は通常温度になるまでしばらくお待ちください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

ハイブリッドシステム始動操作を行ったとき、次の警告が表示された場合は、警告メッセージの表示状態に従ってそれぞれ処置してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	補機バッテリーが充電不足	数秒後※に表示が消えたときは 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。 表示が消えないときは 「補機バッテリーがあがったときは」(→ P. 356) の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約 6 秒間表示されます。

 注意

■「補機バッテリー（始動用）充電不足」がひんばんに表示されるときは

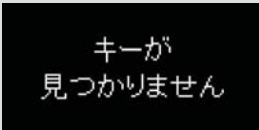
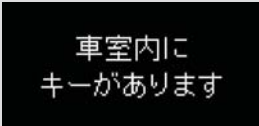
補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

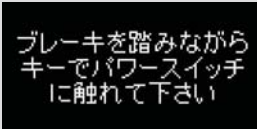
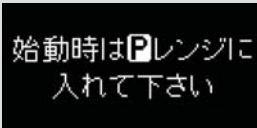
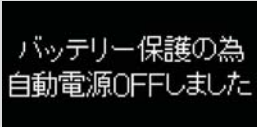
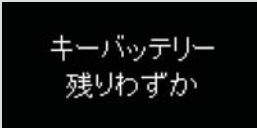
ただちに処置してください。

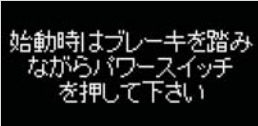
それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした	電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する
1 回	3 回	キーが 見つかりません  (点滅)	“パワー”スイッチがOFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトポジションがP の状態で“パワー”スイッチをOFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“パワー”スイッチを OFF にする または電子キーを車内にもどす

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	連続	キーが 見つかりません 電源を OFFして下さい (交互に表示)  (点滅)	“パワー” スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“パワー” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	 レンジに 入れて下さい  (点滅)	シフトポジションが P 以外の状態で、“パワー” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトポジションを P にする

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	   (点滅)	シフトポジションがP 以外の状態で“パワー” スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトポジションを P にする ・電子キーを車内に入れる
1 回	連続音	  (点滅)	・車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー & スタートシステムでドアを施錠しようとした ・車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側に引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	  (点滅)	・メカニカルキーで解錠して“パワー”スイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・“パワー”スイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーで“パワー”スイッチにふれる
1 回	なし	  (点滅)	シフトポジションがNの状態ではハイブリッドシステムを始動しようとしている	シフトポジションをPにしてからハイブリッドシステムを始動させる
なし	なし		自動電源 OFF 機能が作動した	次回ハイブリッドシステム始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転数を保持し補機バッテリーを充電する
1 回	なし	 	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する (→ P. 294)

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし		“パワー”スイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからハイブリッドシステムを始動せずに “パワー” スイッチをアクセサリモードに 2 回した	ブレーキを踏んで “パワー” スイッチを押す
			電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法で（→ P. 354） “パワー” スイッチに電子キーをふれた	ブザーが鳴ってから 10 秒以内に “パワー” スイッチを押す

 知識

■レーダークルーズコントロール*の車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、次のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

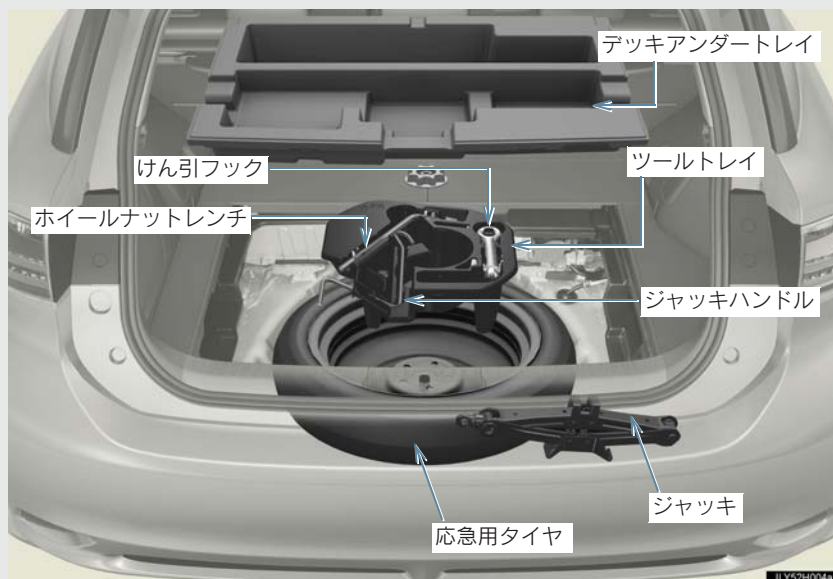
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。

（タイヤについての詳しい説明は P. 261 を参照してください）

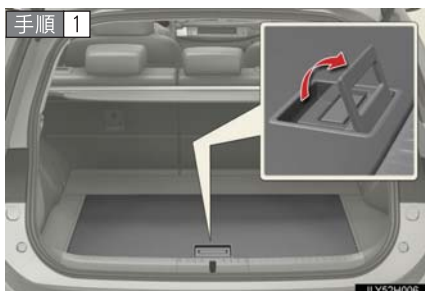
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

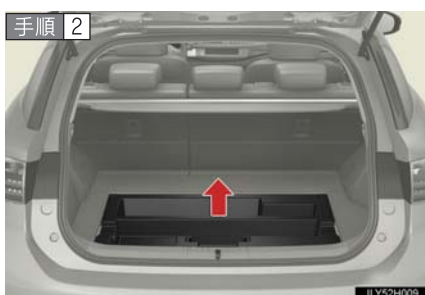
■ 工具とジャッキ位置



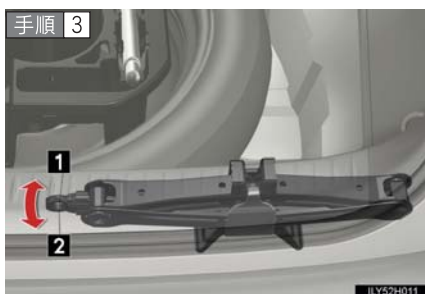
ジャッキの取り出し方



デッキボードを取りはずす



デッキアンダートレイを取りはずす



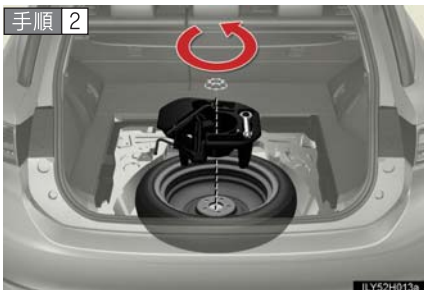
ジャッキを取りはずす

- 1 ゆるむ
- 2 締まる

応急用タイヤの取り出し方

手順 1 デッキボードとデッキアンダートレイを取りはずす (→ P. 326)

手順 2



留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す

パンクしたタイヤの交換

手順 1



輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

手順 2

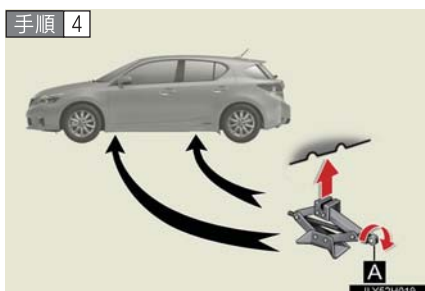


ホイールキャップ装着車(15 インチホイール) は、ホイールキャップを取りはずす

傷付防止のため、ホイールナットレンチの先に布などを巻いてください。



ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける



タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

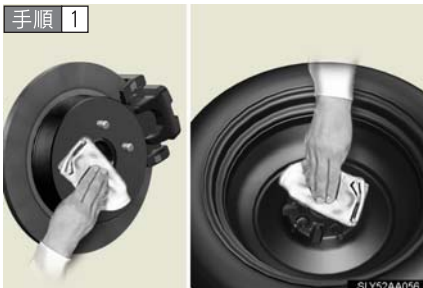


ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないように意匠面を上にします。

応急用タイヤの取り付け

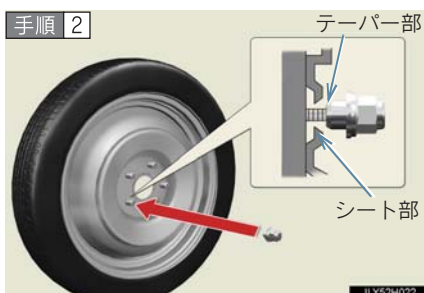
手順 1



ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

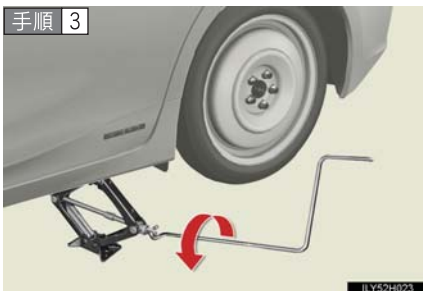
手順 2



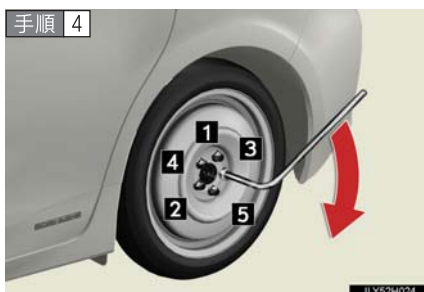
応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

手順 3



車体を下げる



図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

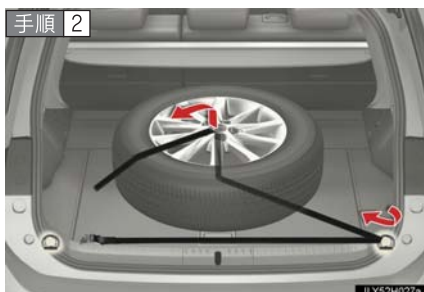
締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

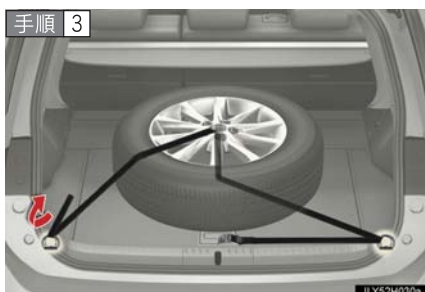
パンクしたタイヤの収納



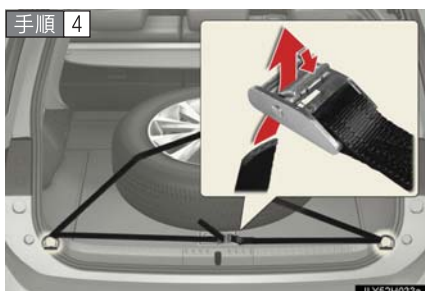
16 インチまたは 17 インチホイール装着車：タイヤを収納する前に、センターオーナメントをホイールの裏側から押してはずす



パンクしたタイヤをデッキボードの上に置き、固定ベルトを右下のラゲージフックからホイールの穴に通す



固定ベルトを左側のラゲージフックに通す



固定ベルトをバックルに通し、しっかりとタイヤを固定する

ベルトとバックルが確実に結合されているか確認してください。



知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→ P. 371)

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

- 手順 1 後輪を応急用タイヤと交換する
- 手順 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 手順 3 タイヤチェーンを前輪に装着する



警告

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

■ 応急用タイヤを収納するときは

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- クルーズコントロール*
- レーダークルーズコントロール*
- プリクラッシュセーフティシステム*
- EPS
- バックガイドモニター*
- クリアランスソナー*
- ナビゲーションシステム

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

**警告****■ ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。



警告

■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに 103 N・m (1050 kgf・cm) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
(→ P. 264)

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

■ バンクしたタイヤを収納するときは

- 必ずリヤシートの背もたれを起こしてください。
- 固定ベルトでしっかりと固定してください。しっかりと固定されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときは注意してください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

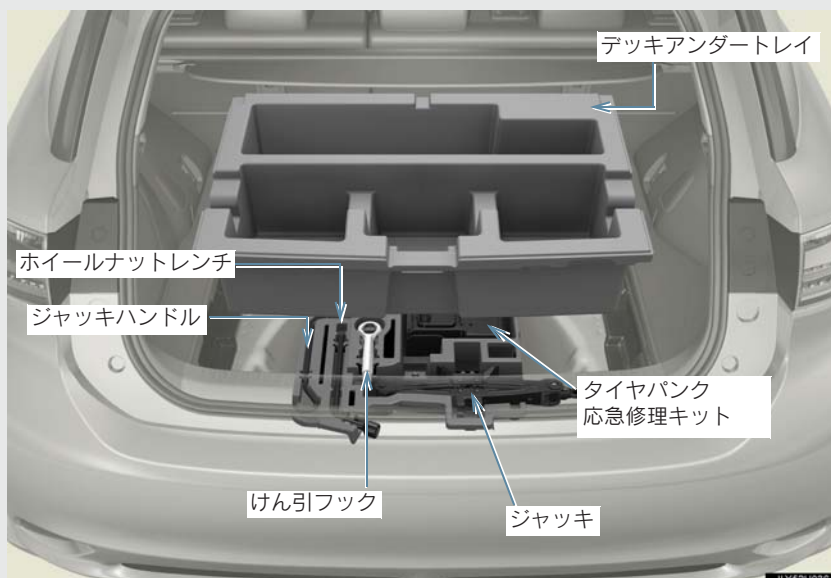
タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 応急修理する前に

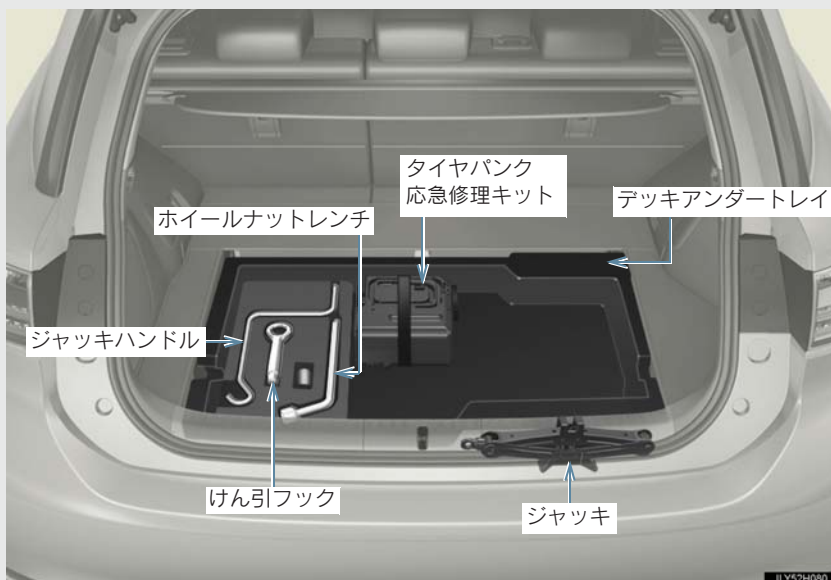
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

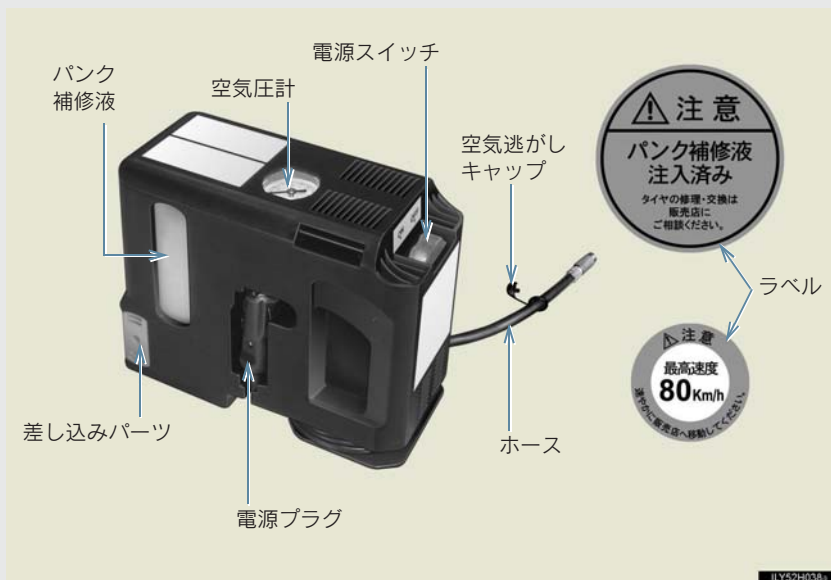
アクセサリーコンセント非装着車



アクセサリコンセント装着車

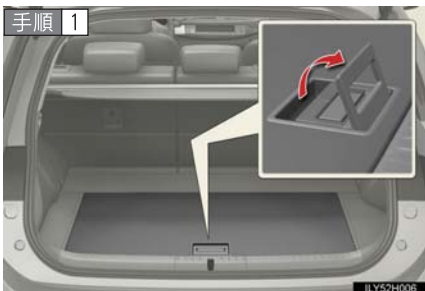


■ タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



応急修理キットの取り出し方

手順 1



デッキボードを取りはずす

手順 2



アクセサリコンセント非装着車：
デッキアンダートレイを取りはずす

手順 3 応急修理キットを取り出す

アクセサリコンセント非装着車

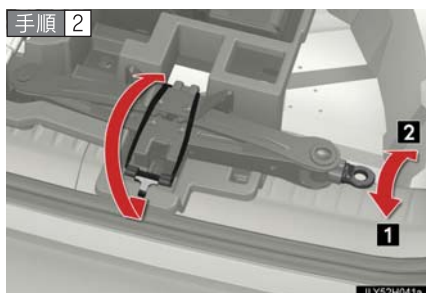


アクセサリーコンセント装着車



ジャッキの取り出し方

手順 1 デッキボードとデッキアンダートレイを取りはずす (→ P. 338)



手順 3 ジャッキを取り出す

アクセサリーコンセント非装着車：
フックをはずし、ジャッキをゆるめる

1 ゆるむ

2 締まる

ジャッキを収納するときは、ジャッキを
締めてトレイへ押し付けてください。

応急修理する前に

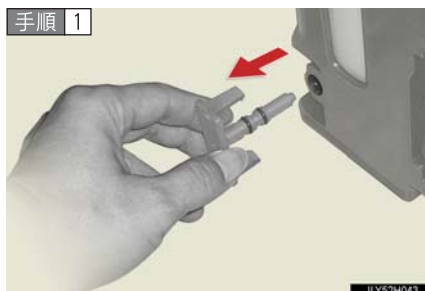
タイヤの損傷程度を確認してください。



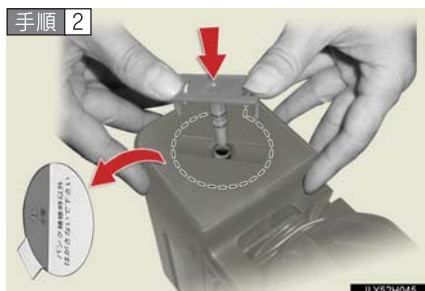
釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

応急修理するときは



応急修理キットから差し込みパーツを引き抜く



応急修理キット底面を上に向けて置く

シールをはがし、差し込みパーツを“パチッ”と音がするまで差し込みます。

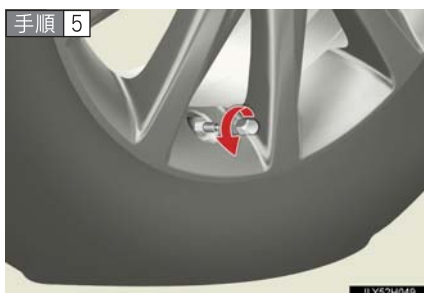


応急修理キットの向きをもとにもどし、スイッチがOFFであることを確認する

応急修理キットは、スイッチがある面を上にしてご使用ください。



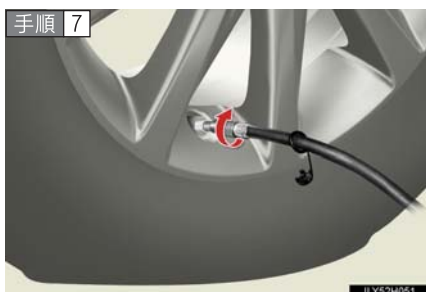
応急修理キットの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む



パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす

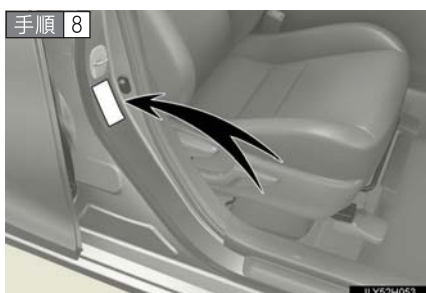


ホースから空気逃がしキャップを取りはずす



ホースをバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわして、できるだけ奥までねじ込みます。



タイヤの指定空気圧を確認する

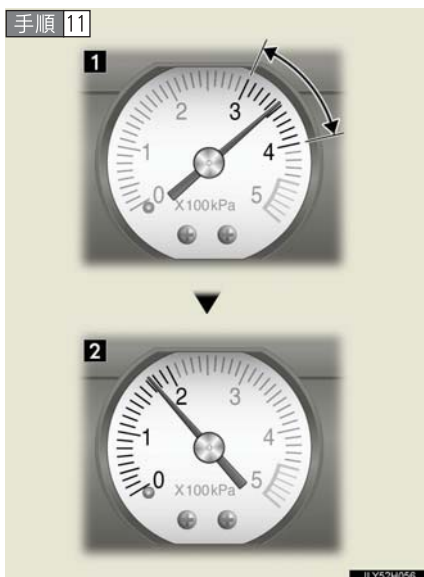
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 262)

手順 9] ハイブリッドシステムを始動する (→ P. 145)



応急修理キットのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

手順 11



空気圧が指定空気圧になるまで充填する

- 1 一時的に空気圧計が300～450kPaまで上昇し、徐々に減少します。
- 2 スイッチをONにしてから1分程度で実際の空気圧表示になります。

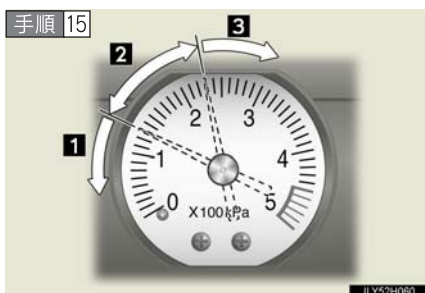
- ・ 応急修理キットのスイッチをOFFにして空気圧を確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。
- ・ 空気圧計の針が赤いゾーン(450 kPa以上)に達した場合、タイヤまたは応急修理キットに異常がある可能性があります。ただちに修理を中止して、レクサス販売店にご連絡ください。
- ・ 10分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。応急修理キットのスイッチをOFFにしてレクサス販売店にご連絡ください。
- ・ 空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→ P. 346)

手順 12 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす

手順 13 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに5km程度走行する



走行後、平坦な安全な場所に停車し、再度応急修理キットを接続する



応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧を確認する

- 1** 空気圧が 130kPa 未満の場合：
応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。
- 2** 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合： **手順 16** へ
- 3** 空気圧が指定空気圧の場合： **手順 17** へ

手順 16 応急修理キットのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて **手順 14** から実施する



応急修理キットを収納し、付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下で最寄りのレクサス販売店まで慎重に走行してください。

知識

■ 次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

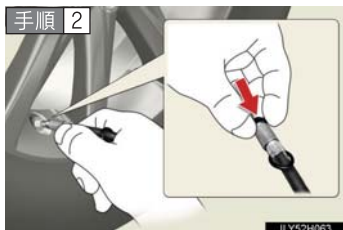
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- 応急修理キットのパンク補修液は、1本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。
- 外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

■ 空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからホースを取りはずす



ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く

手順 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

手順 4 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、応急修理キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

 警告**■パンク補修液について**

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。10 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■ 補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130 kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ 応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

**注意****■ 応急修理キットについて**

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

■ 正しいハイブリッドシステム始動のしかた（→ P. 145）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。※（→ P. 354）
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。※（→ P. 100）
- P ポジション制御システムに異常がある可能性があります。※

※これらの場合は、シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 356）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 356）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 “パワー” スイッチをアクセサリモードにする

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏んで “パワー” スイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、
レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。(→ P. 43)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 51）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠とキー連動操作



メカニカルキー（→ P. 42）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラスが開く（まわし続ける）※

※レクサス販売店ででの設定が必要です。

ハイブリッドシステム始動の方法

手順 1 ブレーキペダルを踏む



電子キーのレクサスエンブレム面で、“パワー” スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“パワー” スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、“パワー” スイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。



知識

■ ハイブリッドシステム停止のしかた

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、“パワー” スイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 294)

■ “パワー” スイッチのモードの切りかえ

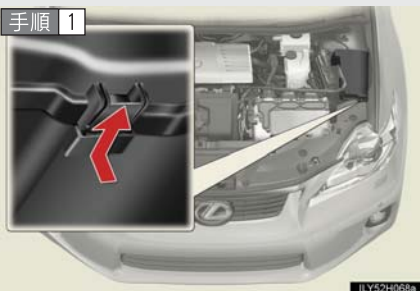
ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“パワー” スイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 146)

補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

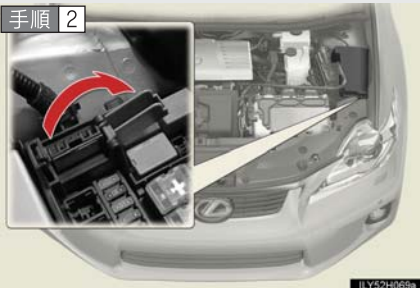
ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

手順 1

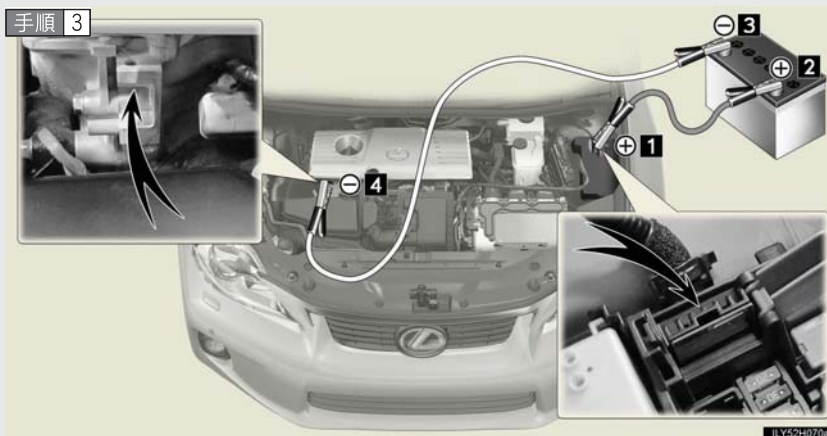


ボンネットを開けて、ヒューズボックスのカバーをはずす

手順 2



ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



ブースターケーブルを次の順につなぐ

- 1 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ
- 2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
- 3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
- 4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

手順 5 “パワー” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 6 救援車のエンジン回転を維持したまま、“パワー” スイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する

手順 7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

手順 8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

手順 9 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。



知識

■ 補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ データの保存について

“パワー”スイッチを OFF にしてすぐに補機バッテリーのターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ 補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常に“パワー”スイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、“パワー”スイッチを OFF にしてからおこなってください。
補機バッテリーあがり前の“パワー”スイッチ状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。
- シフトポジションがPの状態では補機バッテリーがあがった場合は、Pから他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
- 補機バッテリーを再接続したときは、ハイブリッドシステムを始動させてから、すべてのシフトポジションへ切りかわることを、シフトポジション表示灯で確認してください。
- 補機バッテリーを充電・交換する場合は、車内にキーがないことを確認してください。オートアラームが作動するとキーが車内に閉じ込められるおそれがあります。（→ P. 103）

■ 補機バッテリーについて

→ P. 266

■ 補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムが始動できなくなる恐れがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

⚠ 警告

■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーの交換について

→ P. 267

■ 補機バッテリーのマイナス端子について



ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはわずとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 307）が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム過熱」（→ P. 316）が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

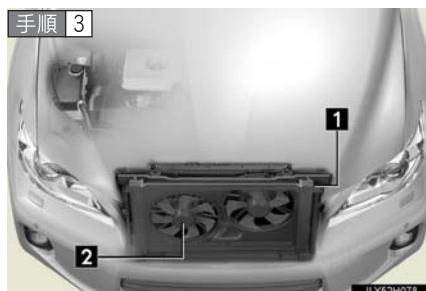
手順 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

手順 2 蒸気が出ている場合：

蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：

注意してボンネットを開ける

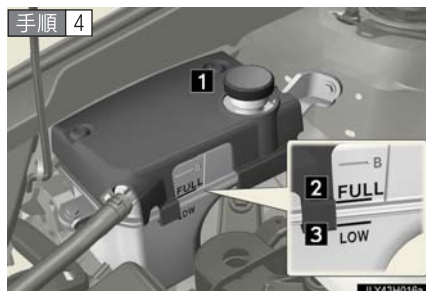


ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

1 ラジエーター

2 ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。



冷却水の量がリザーバタンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

1 リザーバタンク

2 “FULL”（上限）

3 “LOW”（下限）



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

手順 6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

手順 7 ファンが作動していない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する

ファンが作動している場合：

最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

■「ハイブリッドシステム過熱」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

手順 1 安全な場所に停車する

手順 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

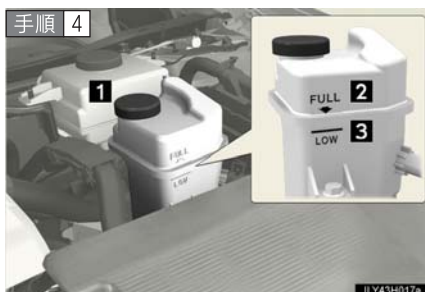


ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

1 ラジエーター

2 ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。



冷却水の量がリザーバタンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- 1 リザーバタンク
- 2 “FULL”（上限）
- 3 “LOW”（下限）



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

手順 6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してレクサス販売店に連絡する

表示が消えている場合：

最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- “パワー”スイッチ上のインジケーターとREADYインジケーターが消灯していることを確認してください。
- ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ 冷却水を入れるときの注意

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

- 手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止する
- 手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
- 手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 手順 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 手順 5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

警告

■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがありますので、

注意

■ ハイブリッドトランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトポジションを N にする

シフトポジションが N になった場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 ハイブリッドシステムを停止する

シフトポジションが N にならない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4



2 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す

CLY52AD219

“パワー” スイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める



■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	368
--------------------------------------	-----

6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	374
--------------------------	-----

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものを请使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	45

エンジンオイル

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※ ¹ ）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
弊社純正モーターオイル SM 0W-20 ※ ² —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30 弊社純正モーターオイル SL 5W-20 —API SL, EC SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	2ZR-FXE	3.9	4.2

※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※² 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

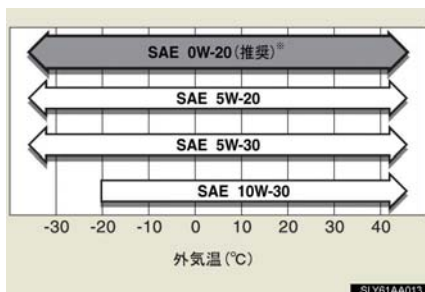


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。
オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
	ガソリンエンジン	パワーコントロールユニット
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12℃ 濃度 50% -35℃	6.9	2.1

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS※ ¹	3.4

※¹ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目		基準値 [mm]
遊び		1 ~ 6
踏み込んだときの 床板とのすき間※ ²	アルミペダル非装着車	80
	アルミペダル装着車	82

※² ハイブリッドシステムが作動している状態で、196N (20 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300 N (31 kgf) のときのノッチ※ ³ 数	8 ~ 11

※³ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度 (“カチツ” という音) のことです。

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準 タイヤ	195/65R15 91S	15 × 5.5J	270 (2.7)	270 (2.7)
	205/55R16 91V	16 × 6J	220 (2.2)	220 (2.2)
	215/45R17 87W	17 × 7J	230 (2.3)	220 (2.2)
応急用 タイヤ	T125/70D17 98M	17 × 4T	420 (4.2)	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：H9）	65
	ロービーム	LED ※
	ロービーム（ハロゲン バルブタイプ：H11）	55
	車幅灯	LED ※
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯	LED ※
	尾灯	LED ※
	後退灯	16
	リヤフォグライト	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
	ドアミラー照明	5
車内	バニティライト	8
	フロントインテリアライト / パーソナルライト	5
	リヤインテリアライト	8
	カップホルダー照明	LED ※
	ラゲージルームライト	5
	足元照明	LED ※
	グローブボックスライト	LED ※

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
CT200h	ZWA10	2ZR-FXE (1.8L ガソリン)	3JM	FF（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。また、DISP スイッチ操作、ナビゲーションシステムの画面操作により設定を変更することができる機能もあります。

ナビゲーション画面でのカスタマイズ設定の操作は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

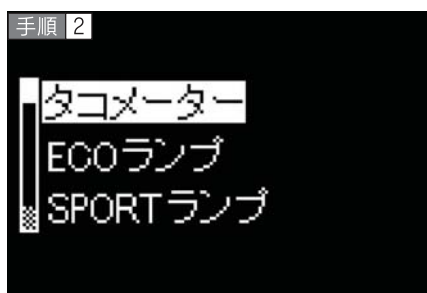
機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定をする

DISP スイッチを操作して、設定を変更することができます。安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。



停車中に DISP スイッチを押してセッティング画面を表示させ、DISP スイッチを 1 秒以上押し続ける



DISP スイッチを押して変更する項目を選択し、DISP スイッチを 1 秒以上押し続ける

手順 3



DISP スイッチを押して設定したい項目を選択し、DISP スイッチを 1 秒以上押し続ける

設定を終了する場合は、“戻る”を選択し、DISPスイッチを 1 秒以上押します。

車両カスタマイズ設定一覧

- 1 ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
- 2 DISP スイッチ操作で設定変更可能
- 3 レクサス販売店で設定変更可能

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
ドアロック (→ P. 58, 353)	メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○
	車速感应式自動ドアロック	あり	なし	○	—	○
	シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり	○	—	○
	シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし	○	—	○
	運転席を開けたときの全ドア自動解錠	なし	あり	○	—	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック (→ P. 46, 56)	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○
	半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○
	作動の合図音量 (ブザー音量調整)	レベル 7	OFF ~ レベル 6	○	—	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	○	—	○
			120 秒			
スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 46)	解錠ドアの選択	全席	運転席	○	—	○
	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
	連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	—	—	○
ワイヤレスドアロック (→ P. 56)	ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
ライト自動点灯・消灯システム (→ P. 173)	ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ~ 2	○	—	○
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○
イルミネーション (→ P. 222)	消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
			7.5 秒			
			30 秒			
	“パワー” スイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	—	○
	解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	ドアミラー照明の点灯時間	15 秒	OFF	○	—	○
			7.5 秒			
			30 秒			
	足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	接近時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	解錠時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	カップホルダー照明の点灯	あり	なし	—	—	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
メーター (→ P. 162)	タコメーターの表示	AUTO	常時ON※	—	○	○
			OFF	—	○	○
	ECO ランプの点灯・消灯	ECO ドライブサ ポート	常時 ON	—	○	○
			OFF	—	○	○
	SPORT ランプの点灯・消灯	AUTO	OFF	—	○	○
	ECO ランプ・SPORT ランプの明るさ (ラン プ調光)	標準	明るい	—	○	○
エアコン (ナビゲーショ ンシステム取扱 説明書参照)	EV インジケーターの 点灯・消灯	AUTO	OFF	—	○	○
	AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気 導入と内気循環を自動 的に切りかえる	する	しない	○	—	○
	AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C (エ アコン) スイッチが連 動して ON になる	しない	する	○	—	○
	エコドライブモード時 に暖房／冷房の作動を 抑える	する	しない	—	—	○
クリアランスソ ナー (ナビゲーショ ンシステム取扱 説明書参照)	ブザーの音量	3	1 ～ 5	○	—	○
	ソナー表示 (障害物を 感知したときに自動で 表示を切りかえ)	する	しない	○	—	○
	ソナー表示・ブザーを開 始するタイミング (障害 物を感知する距離)	遠い	近い	○	—	○

※ クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロール使用時を除く

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
パワーウィンドウ (→ P. 88)	ドアキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動作動合図 (ブザー)	あり	なし	—	—	○
ドアミラー (→ P. 84)	オート電動格納作動 (オート電動格納式ミラー装着車)	ドアの施錠・解錠と連動	なし	—	—	○
			“パワー”スイッチと連動			



知識

■車両カスタマイズについて

- 「車速感応式自動ドアロック」と「シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。
 - ・シフトポジションを P 以外にすると全ドア施錠されます。
 - ・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
 - ・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。
- スマートエントリー&スタートが「しない」の場合、「解錠ドアの選択」の設定はできません。
- 解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図 (非常点滅灯)」・「作動の合図音量 (ブザー音量の調整)」の設定に依存します。

■セッティング画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイのセッティング画面は自動的に終了します。

- セッティング画面表示後に警告メッセージが表示された
- “パワー”スイッチが OFF になった
- セッティング画面表示中に走行し始めた



警告

■ カスタマイズを行うときの警告

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

さくいん

略語一覧.....	382
五十音順さくいん	383
症状別さくいん	395
ハイブリッドさくいん	398

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ GPS ボイスナビゲーション
- ・ オーディオ&ビジュアル
- ・ エアコン・デフォッガー
- ・ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター
- ・ バックガイドモニター
- ・ クリアランスソナー
- ・ ETC システム

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックトールコレクション
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サブリメンタルレストレイントシステム
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティ コントロール
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

あ	アウターミラー	
	調整	84
	ミラーヒーター※	
	アクセサリーコンセント	235
	アクセサリーソケット	233
	足元照明	222
	アンチロックブレーキ	
	システム (ABS)	203
	アンテナ	49

い	ETC ※	168
	EV ドライブモード	150
	イグニッションスイッチ	
	パワースイッチ	145
	イベントデータレコーダー	
	(EDR)	18
	イモビライザーシステム	100
	イルミネーテッドエントリー	
	システム	
	作動について	224
	点灯する部位	222
	ユーザーカスタマイズ機能	374
	インジケーター	166
	インテリアライト (室内灯)	
	W 数	372
	スイッチ	223
	インナーミラー	82

う	ウインカー (方向指示灯)	
	スイッチ	159
	電球の交換	271
	方向指示レバー	159
	ワット数	372
	ウインドウ	
	ウォッシュャー	179, 185
	パワーウインドウ	88
	ウインドウロックスイッチ	88
	ウォーニングライト (警告灯)	306
	ウォッシュャー	
	液の補充	296
	スイッチ	179, 185
	タンク容量	371
	冬の前の準備・点検	218
	運転	
	環境に配慮した運転	39
	寒冷時の運転	218
	正しい姿勢	107
	手順	136
	運転席シートベルト	
	非着用警告灯	309

え	ECO ランプ	162
	エアコン※	
	エアコン・デフォッガー※	
	エアバッグ	
	一般的な警告	114
	SRS エアバッグ	109
	お子さまのための注意	114
	カーテンシールドエアバッグに	
	関する警告	114
	カーテンシールドエアバッグの	
	作動条件	111
	改造・廃棄について	116
	改造・分解	116

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

警告灯	307
サイドエアバッグに 関する警告	114
サイドエアバッグの作動条件	111
作動条件	110
正しい姿勢	107
配置	109
フロント SRS エアバッグの 作動条件	110
エコドライブモード	154
エネルギーモニター	32
エレクトリックパワー ステアリング (EPS)	203
エンジン	
エンジン警告灯	307
エンジンルームカバー	270
オーバーヒート	361
ハイブリッドシステムの 始動方法	145
パワー (イグニッション) スイッチ	145
ボンネット	265
エンジンオイル	
冬の前の準備・点検	218
油圧警告灯	307
容量	368
エンジンスイッチ 操作方法	145

お

オイル	
油脂類の容量と銘柄	368
応急用タイヤ (スペアタイヤ)	
空気圧	371
収納場所	325
取り出し方	327
スペアタイヤ	325
オーディオ※	
オーディオ&ビジュアル※	
オーディオスイッチ※	
オートアラーム	101
オートレベリングシステム 作動について	175
オーバーヒート	361
オープナー	
給油口	96
ボンネット	265
おさまの安全のために	
ウインドウロックスイッチ	88
エアバッグに関する警告	114
おさまのシートベルト着用	78
おさまを乗せるときの 警告	60, 79
キーの電池に関する警告	295
子供専用シート	117
シートベルトに関する警告	79
チャイルドシート	127
チャイルドシートの固定	127
チャイルドプロテクター	59
電子キーの電池に関する 警告	295
発炎筒の取り扱いに関する 警告	301
バッテリーに関する警告	359

	パワーウィンドウに 関する警告 90
	ムーンルーフに関する警告 94
	オドメーター（積算距離計） 162
か	カーテンシールドエアバッグ 109
	外気温表示 162
	回生ブレーキ 24
	カスタマイズ機能 374
	ガソリンスタンドでの情報 402
	カップホルダー 228
	ガレージジャッキ 268
	環境に配慮した経済的な運転の しかた 39
	寒冷時の運転 218
き	キー
	カードキー 41
	キー 41
	キーナンバープレート 41
	キーの構成 41
	キーの電池が切れた 353
	キーレスエントリー （ワイヤレスドアロック） 56
	キーを無くした 352
	電子キー 41
	電子キーが正常に働かない 353
	電子キーの作動範囲 49
	電子キーの電池が切れた 353
	電池交換 294
	パワー（イグニッション） スイッチ 145
	メカニカルキー 41
	ワイヤレスドアロック 56
	ワイヤレスリモコン 56

給油口.....	96
緊急時の対応	
イベントデータレコーダー.....	18
オーバーヒートした.....	361
キーの電池が切れた.....	353
キーを無くした.....	352
緊急用フック.....	303
警告灯がついた.....	306
警告メッセージが表示された ...	311
けん引.....	302
車両を緊急停止する.....	366
スタックした.....	365
電子キーが正常に働かない.....	353
電子キーの電池が切れた.....	353
ハイブリッドシステムが	
始動できない.....	350
発炎筒.....	300
パンクした.....	325, 336
非常点滅灯.....	299
補機バッテリーがあがった.....	356
緊急停止システム.....	28
緊急ブレーキシグナル.....	204
空気圧（タイヤ）.....	371
区間距離計（トリップメーター） ...	162
駆動用電池冷却用吸入口.....	28
クリアランスソナー＆バックソナー※	
クルーズコントロール	
クルーズコントロール.....	188
レーダークルーズ	
コントロール.....	192
グローブボックス.....	226

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

け

計器（メーター）

マルチインフォメーション
ディスプレイ 169

メーター 162

警告器（ホーン） 161

警告灯

ABS & ブレーキアシスト 307

LED ヘッドライト

オートレベリング 308

PCS 308

SRS エアバッグ 307

アンチロックブレーキ

システム（ABS） 307

エンジン 307

エンジン冷却水温 307

高水温 307

シートベルト非着用 309

充電 307

スリップ表示灯 308

電子制御ブレーキ 308

燃料残量 309

パワーステアリング 308

半ドア 309

プリクラッシュセーフティ

システム 308

プリテンショナー 307

ブレーキ 306

ブレーキアシスト 307

マスターウォーニング 309

油圧 307

警告表示

EV ドライブモード 317

LED ヘッドライト 312

N レンジ 317

P ポジション制御システム 312

ウォッシュャー液 318

キー 320

駆動用電池 316, 317

クリアランスソナー 313, 315

クルーズコントロール 313

ドア 314

バックドア 314

ナビ・ブレーキアシスト 313

ハイブリッドシステム 311, 316

パーキングブレーキ 315

プリクラッシュセーフティシステム

（PCS） 312, 316, 318

補機バッテリー 319

ボンネット 314

ムーンルーフ 315

レーダークルーズ

コントロール 315, 316

警告ブザー

シートベルト非着用 309

パーキングブレーキ

未解除走行時 315

パワーステアリング 308

半ドア 309

ブレーキ 306

化粧用（パニティ）ミラー 232

けん引 302

こ

交換

キーの電池	294
タイヤ	325
電球	271
電子キーの電池	294
ヒューズ	285
工具（ツール）	325, 336
航続可能距離	171
後退灯（バックアップライト）	
電球の交換	280
ワット数	372
高電圧部位	27
故障したときは	298
固縛用フック	303
コーションラベル	27
子供専用シート	117
コンソールボックス	227

さ

サービスプラグ	27, 30
サイドエアバッグ	109
サイドターンシグナルライト	
電球の交換	271
レバー	159
ワット数	372
サイド方向指示兼非常点滅灯	
電球の交換	271
レバー	159
ワット数	372
三角表示板等収納スペース	248
サンシェード	92
サンバイザー	231

し

シート

シートヒーター	243
シートの調整	66
シートの調整に関する警告	67
正しい姿勢	107
チャイルドシートの固定	127
調整	66
調整に関する警告	67
手入れ	258
ドライビングポジション	
メモリー	70
フロントシート	66
フロントシートの調整	66
フロントシートの調整に関する	
警告	67
ヘッドレスト	73
リヤシート	68
シートヒーター	243
シートベルト	
お子さまの着用	78
緊急時シートベルト固定機構	78
シートベルト非着用警告灯	309
シートベルト	
プリテンショナー	77
清掃・手入れ	258
高さの調整	76
正しい着用	76
チャイルドシートの固定	127
調整	76
妊娠中の方の着用	78
非着用警告灯	309
プリクラッシュシートベルト	77
プリテンショナー警告灯	307
リヤ中央席シートベルト	77

事故が発生したときは 30

室内灯（インテリアライト）
（ルームライト）
 インテリアライト..... 223, 224
 パーソナルライト..... 223
 スイッチ 223
 ワット数 372

シフトレバー（チェンジレバー）
 トランスミッション..... 152

車速
 スピードメーター..... 162
 平均車速 171

ジャッキ
 ガレージジャッキ..... 268
 車載ジャッキ 325, 336
 タイヤ交換 325

ジャッキハンドル 325, 336

車幅灯
 電球の交換 271
 ライトスイッチ 173
 ワット数 372

車両カスタマイズ設定一覧 375

車両型式..... 373

車両仕様（スペック）..... 373

車両接近通報装置 23

収納装備..... 225

瞬間燃費..... 170

助手席シートベルト
 非着用警告灯..... 309

侵入センサー 102

す SPORT ランプ 162

スイッチ
 DISP 170
 OPEN CLOSE ※
 TILT ※
 アウターミラー..... 84
 アクセサリーコンセント 235
 イグニッション..... 145
 インストルメントパネル
 照度調整 163
 ウインドウロック 88
 オーディオ※
 クルーズコントロール..... 188
 ステアリングヒーター 241
 電話※
 ドアロック 58
 トーク※
 ハザードライト..... 299
 パワーウインドウ..... 88
 パワー（イグニッション）..... 145
 パーソナルライト..... 223
 非常点滅灯 299
 フォグライト 176
 ブリクラッシュブレーキ
 OFF..... 210
 フロントフォグライト 176
 ミラーヒーター※
 ライト 173
 リヤウインドウデフォッガー※
 レーダークルーズ
 コントロール 192
 ワイパー&ウオッシャー 179

スタック
 スタックした 365

ステアリングアシステッドピークル
 スタビリティコントロール 203

ステアリングホイール（ハンドル）

調整	81
パワーステアリング警告灯	308
ヒーター	241

ストップライト

電球の交換	283
ワット数	372

スピードメーター（速度計）..... 162

スペアタイヤ（応急用タイヤ）

応急用タイヤ	325
空気圧	371
収納場所	325

スペック（車両仕様）..... 373

スマートエントリー&スタートシステム

パワースイッチ	145
カスタマイズ機能.....	374
作動範囲	49
スイッチ	145
正常に働かない	353

節電機能	51
------------	----

ドアの施錠・解錠.....	47
---------------	----

ハイブリッドシステムの始動 ...	145
-------------------	-----

せ

清掃

外装	254
シートベルト	259
内装	258

制動灯

電球の交換	283
ワット数	372

積算距離計（オドメーター）..... 162

節電機能..... 51

洗車..... 254

前照灯（ヘッドライト）

スイッチ	173
電球の交換	271, 283
ライト消し忘れ防止機能	175
ライトセンサー.....	175
ワット数	372

そ

速度計（スピードメーター）..... 162

た

ターンシグナルライト

スイッチ	159
電球の交換	271
方向指示レバー.....	159
ワット数	372

タイヤ

応急用タイヤ	325
空気圧	371
交換	325
スペアタイヤ	325
チェーン	218
点検	261
パンク応急修理キット.....	336
パンクした	325, 336
冬用タイヤ	218
ローテーション.....	261
タコメーター	162

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ち	チェーン（タイヤチェーン）..... 218
	チェンジレバー（シフトレバー）
	トランスミッション..... 152
	チャイルドシート
	ISOFIX バーでの固定..... 129
	シートベルトでの固定..... 128
	チャイルドプロテクター..... 59
	駐車ブレーキ
	（パーキングブレーキ）..... 160
つ	ツール（工具）..... 325, 336
て	DISP スイッチ..... 170
	ディスプレイ
	警告メッセージ..... 311
	トリップインフォメーション... 170
	レーダークルーズ
	コントロール..... 192
	手入れ
	外装..... 254
	シートベルト..... 259
	内装..... 258
	テールライト（尾灯）
	スイッチ..... 173
	電球の交換..... 283
	ワット数..... 372
	電気モーター..... 22
	電球（バルブ）
	交換..... 271
	ワット数..... 372
	電子キー
	作動範囲..... 49
	正常に働かないとき..... 353
	節電機能..... 51
	電池が切れた..... 353
	電池交換..... 294
	電話スイッチ※

と	ドア
	ドアガラス..... 88
	ドアミラー..... 84
	ドアロック..... 46, 56, 58
	バックドア..... 61
	半ドア警告灯..... 309
	ドアガラス..... 88
	ドアミラー
	調整..... 84
	ミラーヒーター※
	盗難防止システム
	イモビライザーシステム..... 100
	オートアラーム..... 101
	時計※
	トップテザーアンカー..... 130
	ドライビングポジションメモリー.... 70
	トラクションコントロール
	（TRC）..... 203
	トランスミッション..... 152
	トリップメーター
	（区間距離計）..... 162
	トークスイッチ※
な	ナビゲーションシステム※
に	ニエアバッグ..... 109
	荷物
	積むときの注意..... 216
	バックドア..... 61
	荷物固定用フック..... 247

ね

燃費

瞬間燃費	170
平均燃費	170
燃費画面	32
燃料	
ガソリンスタンドでの情報	402
給油	96
残量警告灯	309
種類	368
燃料計	162
補給	96
容量	368

は

パーキングブレーキ

(駐車ブレーキ)	160
----------------	-----

パーソナルライト

スイッチ	223
ワット数	372

ハイブリッドシステム

インジケータ	164
--------------	-----

ハイブリッドシステムについて	22
----------------------	----

ハイブリッド車運転の

アドバイス	39
-------------	----

ハイマウントストップライト

ワット数	372
------------	-----

ハザードライト

スイッチ	299
電球の交換	271
ワット数	372

ハザードライトスイッチ	299
-------------------	-----

挟み込み防止機能

ドアガラス	89
ムーンルーフ	91

発炎筒	300
-----------	-----

パドルシフト	155
--------------	-----

バックアップライト（後退灯）

電球の交換	280
ワット数	372

バックドア	61
-------------	----

バッテリー（補機バッテリー）

搭載位置	266
補機バッテリーがあがった	356

バニティ（化粧用）ミラー	232
--------------------	-----

バニティライト

バニティライト	232
ワット数	372

バルブ（電球）

交換	271
ワット数	372

パワーウインドウ	88
----------------	----

パワーコントロールユニット	27
---------------------	----

パワースイッチ	145
---------------	-----

パンクした

パンク応急修理キット装着車 ...	336
応急用タイヤ装着車	325

番号灯（ライセンスプレートランプ）

スイッチ	173
電球の交換	282
ワット数	372

ハンズフリー※

半ドア警告表示	314
---------------	-----

ハンドル（ステアリングホイール）

ステアリングヒーター	241
調整	81
パワーステアリング警告灯	308

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ひ

ピークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	203
ヒーター	
シートヒーター	243
ステアリングヒーター	241
ミラーヒーター※	
非常点滅灯	
スイッチ	299
電球の交換	271
ワット数	372
尾灯 (テールライト)	
スイッチ	173
電球の交換	283
ワット数	372
ヒューズ	285
表示灯	166
ヒルスタートアシスト	
コントロール	207

ふ

フォグライト	
スイッチ	176
電球の交換	271
ワット数	372
フック	
買い物フック	247
緊急用フック	303
けん引フック	303
冬用タイヤ	218
プリクラッシュシートベルト	77
プリクラッシュセーフティ	
システム (PCS)	209
ブレーキ	
警告灯	306
パーキングブレーキ	160
ブレーキ付近から	
キーキー音が聞こえる	140
メンテナンスデータ	370

へ

ブレーキアシスト	203
フロアマット	245
フロントインテリアライト	
スイッチ	223
ワット数	372
フロントシート	
調整	66
フロントシートの調整に関する	
警告	67
フロントターンシグナルライト	
電球の交換	277
レバー	159
ワット数	372
フロントフォグライト	
スイッチ	176
電球の交換	276
ワット数	372
フロント方向指示兼非常点滅灯	
電球の交換	277
レバー	159
ワット数	372
平均車速	171
平均燃費	170
ヘッドライト (前照灯)	
クリーナー	187
スイッチ	173
電球の交換	271
ライト消し忘れ防止機能	175
ライトセンサー	175
レベリングスイッチ	174
ワット数	372
ヘッドレスト	
調整	73
ヘルプネットスイッチパネル※	

ほ	ホイール..... 255
	ホイールナットレンチ 325, 336
	方向指示灯（ウインカー）
	スイッチ 159
	電球の交換 271
	方向指示レバー 159
	ワット数 372
	ボトルホルダー 229
	ホーン（警音器）..... 161
	補給口（燃料）..... 96
	ボンネット..... 265

ま	マルチインフォメーション
	ディスプレイ 169

み	ミラー
	アウターミラー 84
	インナーミラー 82
	ドアミラー 84
	バニティ（化粧用）ミラー 232
	ミラーヒーター※

む	ムーンルーフ..... 91
----------	----------------

め	メーター（計器）
	インストルメントパネル
	照度調整 163
	表示切りかえボタン 163
	マルチインフォメーション
	ディスプレイ 169
	メーター 162
	メモリーコール機能 71
	メンテナンス
	メンテナンスデータ 368

ゆ	ユーザーカスタマイズ 374
	油脂類..... 368

ら	ライセンスプレートライト（番号灯）
	スイッチ 173
	電球の交換 282
	ワット数 372

ライト
足元照明 222
インテリアライト..... 223
室内灯 222
車幅灯 173
電球の交換 271
ドアミラー照明..... 222
ハザードライト..... 299
バニティライト..... 232
パーソナルライト..... 223
非常点滅灯 299
フロントインテリアライト 223
フロントフォグライト 176
フロント方向指示灯 159
フォグライト 176
ヘッドライト（前照灯）..... 173
方向指示灯（ウインカー）..... 159
リヤフォグライト..... 177
リヤ方向指示灯..... 159
ワット数 372
ライト消し忘れ防止機能 175
ライトセンサー 175

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

リ	リモートタッチ※		ワイヤレスリモコン	
	リヤウインドウデフォグガー※		電池交換	294
	リヤシート	68	リモコン	56
	リヤターニングナルライト			
	電球の交換	279		
	レバー	159		
	ワット数	372		
	リヤ方向指示灯兼非常点滅灯			
	電球の交換	279		
	レバー	159, 299		
る	ワット数	372		
	リヤフォグライト			
	スイッチ	177		
	電球の交換	280		
	ワット数	372		
	ルームミラー	82		
	冷却水			
	オーバーヒート	361		
	冬の前の準備・点検	218		
	容量	370		
れ	レーダークルーズ			
	コントロール	192		
	ロック			
	ウインドウロック	88		
	チャイルドプロテクター	59		
	ドアロック	58		
	ワイパー			
	スイッチ	179		
	ワイヤレスドアロック			
	電池交換	294		
ろ	リモコン	56		
わ				

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

症状別さくいん

症状別さくいん



タイヤがパンクした

P. 336

パンクしたときは（パンク応急修理キット装着車）

P. 325

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）



ハイブリッドシステムが始動しない

P. 350

ハイブリッドシステムが始動できないときは

P. 100

イモビライザーシステム

P. 356

補機バッテリーがあがったときは



高水温警告灯が点滅または点灯した

P. 361

オーバーヒートしたときは



エンジンルームから蒸気が立ちのぼった



キーをなくした

P. 352

キーを無くしたときは



補機バッテリーがあがった

P. 356

補機バッテリーがあがったときは



ドアが施錠できない

P. 46

P. 56

P. 58

ドア



ホーンが鳴り出した

P. 101

オートアラーム



ぬかるみや砂地などで動けなくなった

P. 365

スタックしたときは



警告灯が点灯、点滅した

P. 306 警告灯がついたときは



■ 警告灯一覧

	ブレーキ警告灯 (赤色)	P. 306		パワーステアリング 警告灯	P. 308
	充電警告灯	P. 307		PCS 警告灯 (点滅)	P. 308
	油圧警告灯	P. 307		スリップ表示灯	P. 308
	高水温警告灯	P. 307		LED ヘッドライトオートレ ベリング警告灯	P. 308
	電子制御ブレーキ警告灯 (黄色)	P. 308		半ドア警告灯	P. 309
	エンジン警告灯	P. 307		燃料残量警告灯	P. 309
	SRS エアバッグ/プリテン ショナー警告灯	P. 307		シートベルト非着用 警告灯	P. 309
	ABS & ブレーキアシスト 警告灯	P. 307		マスターウォーニング	P. 309



警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

- 警告灯が点灯、点滅している (→ P. 306)
- 警告メッセージが表示されている (→ P. 311)

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 50
	車外に出たとき	P. 50
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	P. 50
	ワイヤレスリモコンでロックしたとき	P. 56
	シフトポジションをRにしたとき	P. 156
走行中	レーダークルーズコントロールを使っているとき	P. 196, 199

ハイブリッドシステムについての解説

- ハイブリッドシステムの特徴 -----P. 22

ハイブリッドシステムについての注意事項

- ご使用になるにあたって
(高電圧・高温について) -----P. 27
(駆動用電池冷却用吸入口について) -----P. 28

運転のしかた

- 運転にあたって ----- P. 136
- ハイブリッドシステムの始動方法 ----- P. 145
- トランスミッション ----- P. 152

環境に配慮した経済的な運転

- ハイブリッド車運転のアドバイス -----P. 39

事故が起きたときは

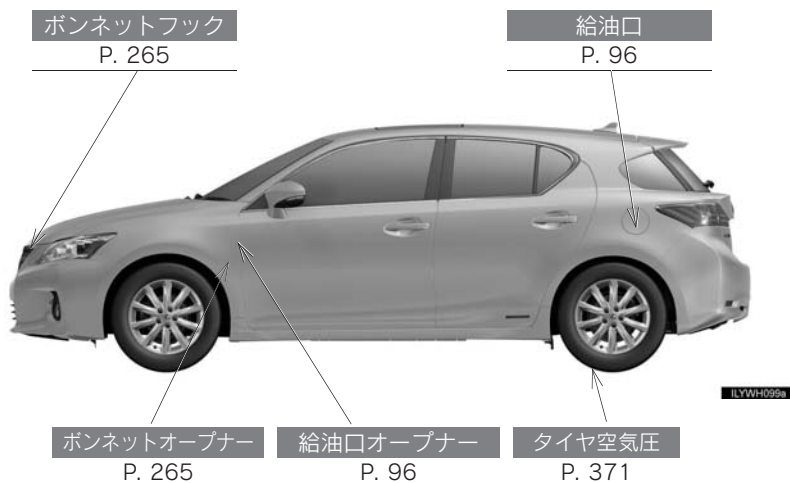
- 事故が発生したときの警告 -----P. 30

ハイブリッド特有の説明がある項目

■ 計器類 -----	P. 162
■ 表示灯／警告灯 -----	P. 166
■ マルチインフォメーションディスプレイ -----	P. 169
■ ボンネット -----	P. 265
■ エンジンルームカバー -----	P. 270
■ けん引について -----	P. 302
■ ハイブリッドシステムが始動できないときは -----	P. 350
■ 補機バッテリーがあがったときは -----	P. 356
■ オーバーヒートしたときは -----	P. 361

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量 (参考値)	45L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン P. 368
タイヤが冷えているときの空気圧	15 インチタイヤ 前輪：270 (2.7) kPa (kg/cm ²) 後輪：270 (2.7) kPa (kg/cm ²) 16 インチタイヤ 前輪：220 (2.2) kPa (kg/cm ²) 後輪：220 (2.2) kPa (kg/cm ²) 17 インチタイヤ 前輪：230 (2.3) kPa (kg/cm ²) 後輪：220 (2.2) kPa (kg/cm ²) 応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm ²)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時：3.9 L オイルとフィルター交換時：4.2 L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SM 0W-20 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30) ・ SM 10W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30) ・ SL 5W-20 (API SL、EC、SAE 5W-20) ・ SL 10W-30 (API SL、EC、SAE 10W-30)

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。

